SYLLABUS
講 義 要 項

2025

看　護　科

学校法人 川口学園
早稲田速記医療福祉専門学校

目　　次

利用の手引き

教育課程について…… 1

看護科　　１年生…… 7

看護科　　２年生…… 53

看護科　　３年生…… 93

利 用 の 手 引 き

この『講義要項』は、早稲田速記医療福祉専門学校の２０２５年度の授業科目について、講義の内容をあらかじめ示したものです。皆さんは、これに従って自分の履修する授業科目について詳しく知ることができます。

以下に授業科目の各項目を読むにあたっての留意点を示しますので、よく参照のうえ、この『講義要項』を十分に活用してください。

【基　本　情　報】

基本情報欄は、授業科目の属性（科目区分）を記載する欄であり、次の項目についてカリキュラムに明記されている授業科目の属性を記載しています。

科目名	①			担当教員		②		単位数	③
対象学科	④			学年	⑤年	授業形態	⑥	法令等指定	⑦
履修方法	⑧	科目内容	⑨	授業期間	⑩	授業期	⑪	卒業要件	⑫
実務経験教員	⑬	実務経験内容	⑭						

記載項目	記載事項
①科目名	カリキュラムに記載されている授業科目名
②担当教員	授業科目の担当教員名（同一の授業を複数の教員が担当する場合は連名併記）
③単位数	カリキュラムに記載されている授業科目の単位数
④対象学科	その授業を実施する学科名（同一の授業科目を複数の学科で実施する場合は併記せず、それぞれ別に作成）
⑤学年	カリキュラムに記載されている授業科目の実施学年
⑥授業形態	カリキュラムに記載されている授業科目の授業形態（講義、演習、実技、実習など）
⑦法令等指定	カリキュラムに法令等による資格取得に関わる授業科目とある場合は〇印を記入
⑧履修方法	カリキュラムに記載されている履修方法による科目区分（登録指定科目、選択科目）
⑨科目内容	カリキュラムに記載されている科目内容による登録指定科目の科目区分（基礎科目、専門科目、関連科目）
⑩授業期間	カリキュラムに記載されている授業期間による科目区分（半期、通年、集中）
⑪授業期	その授業科目を開講する授業期（前期、後期）
⑫卒業要件	カリキュラムに単位取得が卒業要件となっている科目の場合は〇印を記入
⑬実務経験教員	実務経験のある教員による授業科目の場合は〇印を記入
⑭実務経験内容	実務経験のある教員が経験した実務内容と、その経験を生かして行う教育内容

【位　置　付　け】
　その授業科目が、学校・学科の教育目的・目標とどのように関連しているのか、カリキュラムの中でどのような位置付けを与えられ、何を期待されているのかを記載しています。

【授 業 の 目 的】
　授業の目的欄は、担当教員はその授業の分野、テーマにおいて何をポイントとして、何を伝えたいか、授業の目的は何かを記載しています。

【授業の到達目標】
　その授業の終了時点で学生はどのような知識、技能などを得られるのか、何ができるようになっているのか。そのような到達目標を記載しています。

【成績評価の方法】
　成績評価の項目とその評価割合が記載されています。
　※出席状況については学則第27条により、一部の実習科目を除き、評価割合に関わらず、出席時間数が授業時間数の2/3以上なければ評価の対象になりません。

【成績評価に関するコメント】
　設定した成績評価項目と授業の到達目標との関連、具体的な評価項目の実施内容・実施方法、その他に特殊な出席の取扱などを記載しています。

【学生へのメッセージ】
　担当教員から、授業への取組み方や授業を進めるに際してお願いしたいことを記載しています。

【テ　キ　ス　ト】
　授業に使用するもので、受講者全員が所持すべきものを記載しています。

【参考図書・資料・参考ホームページ】
　授業の参考として学生が各自の判断で入手するものを記載しています。

【授　業　計　画】
　目標に到達するための授業の内容、進め方（方法）を各授業の回毎に具体的に記載しています。

看 護 科
教育課程について

カリキュラムポリシー

看護の対象を理解する力を養い、多角的な視点で課題を発見できる能力が育つよう多様な教育方法を用いて教育課程を編成した。

・基礎分野では社会生活を営む人間や社会の仕組みを理解し社会人として持つべき基礎的基盤を形成するための科目を配置した。

・専門基礎分野では根拠に基づく看護実践を可能にするための基盤を形成する人体の構造と機能、健康・疾病・障害の成り立ちと回復促進の理解につながる科目を配置した。また保健・医療・福祉に関する社会資源・制度を理解するとともにそこに関わる多職種と協働し多角的な視点をもって対象を捉えられる科目を配置した。

・専門分野では看護の専門性を探求し看護学の基盤、各領域の看護実践に関わる基礎的能力、専門職業人としての志向性を明確にできるよう講義・校内実習・臨地実習の実践により発展的に深めていく。また 3 年間の学びを統合し将来に向けて、自己成長につながる科目を設定した。

カリキュラムは知識・技術・態度の修得に向けて漸進的かつ積み上げ型に進んでいく。

なお、本科の教育課程は看護師国家試験受験資格を得るための、看護師学校養成所指定規則に定める要件を充足した教育課程である。

各分野の考え方

【基礎分野】

人間とは何かその人間の生活、幅広いものの見方考え方を学ぶ分野として位置付け、各分野の基礎となり人ととして成長する礎となる分野である。

【専門基礎分野】

基礎分野で考え捉えた人間の健康、疾病、障害という観点から知識を獲得し、臨床で活用可能なものとするために専門分野とのつながりを意識して学んでいく。

【専門分野】

基礎分野・専門基礎分野の知識を基盤として、各看護学の特性に応じた看護を学ぶ。また多職種と協働し各領域を超え柔軟かつ横断的に看護が実践できる力を養う。

科目設定の理由

基礎分野　１４単位

教育内容	科目	単位	科目の設定理由
科学的思考の基盤 人間と生活･社会の理解	論理学Ⅰ 論理学Ⅱ 情報科学 情報リテラシー 文学 心理学 人間関係論Ⅰ 人間関係論Ⅱ 環境生態学 運動と健康 教育学 英会話 家族社会学 社会学	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	基礎分野は、科学的思考を高め、豊かな教養と感性を備えた人間性の育成をめざして科目を設定した。科学的思考と人間関係成立を基盤として判断行動できるよう論理学および人間関係論を設定し演習を通して深められるようⅡを設定している。 人間や社会の仕組みを理解するために心理学・家族心理学・社会学を設定した。人間は環境と共存し生活を営む存在であり人々の健康にも影響する。環境生態学・運動と健康において生活を幅広く考えられる事をねらいとしている。社会の IT 化は進化し、これらの進歩に対応できる倫理観・知識を身につける事が重要であり情報科学・情報リテラシーを設定した。社会人としての教養と学び方を体得する事を目的として英会話・教育学を設定している。 14 科目を必須科目とし 14 単位とした。

専門基礎分野　22 単位

教育内容	科目	単位	科目の設定理由
人体の構造と 機能	解剖生理学Ⅰ	1	専門基礎分野は看護を実践する上で基盤となる科目であり以下のような科目で構成する。 人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害・治療を看護の視点で判断し観察に活用できるように解剖生理学・生化学・栄養学・病理学・微生物・病態生理と治療・臨床薬理学を設定した。 医学の進歩に伴い、画像診断、治療における放射線医学の進歩は目ざましく「臨床放射線医学」を加えた。 16 科目を必須科目とし 16 単位とした。
	解剖生理学Ⅱ	1	
	解剖生理学Ⅲ	1	
	解剖生理学Ⅳ	1	
	生化学	1	
	栄養学	1	
疾病の成り立ちと 回復の促進	病理学	1	
	病態生理と治療（循環・呼吸・血液）	1	
	病態生理と治療（消化器・代謝）	1	
	病態生理と治療（運動・脳神経・眼）	1	
	病態生理と治療（腎・泌尿・免疫）	1	
	病態生理と治療（感覚器）	1	
	病態生理と治療（小児）	1	
	臨床放射線医学	1	
	臨床薬理学	1	
	微生物学	1	
健康支援と 社会保障制度	医療概論	1	人々の暮らしと命を倫理的かつ科学的視点で理解を深め、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できる知識を養えるよう科目を設定した。専門職の役割を理解し多職種と連携・協働し看護を考えられるように設定した。 6 科目を必須科目とし 6 単位とした。
	公衆衛生学	1	
	生命倫理	1	
	社会福祉	1	
	関係法規	1	
	生活科学	1	

専門分野　50 単位

教育内容	科目	単位	科目の設定理由
基礎看護学	看護学概論	1	各看護学の基礎となる基礎的理論や基本的技術を学ぶ看護学概論・基本技術に加え、看護における看護の倫理観を育成できるよう看護倫理を設定した。看護実践においてはコミュニケーション技術・ヘルスアセスメントの技術を使い対象の問題解決技法として看護過程の展開の技術を設定した。また臨床の看護師のような臨床判断ができる能力の育成としてシミュレーションを活用した演習を取り入れ、主体的に学べる科目として臨床看護総論、臨床看護技術を設定した。
	看護倫理	1	
	基本技術	1	
	ヘルスアセスメント	1	
	生活を整える技術Ⅰ	1	
	生活を整える技術Ⅱ	1	
	診療・処置に伴う技術	1	
	与薬の技術	1	
	看護過程展開の技術	1	
	臨床看護総論	1	
	臨床看護技術	1	11 科目を必須科目として 11 単位とした。
地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	地域・在宅看護論では地域で生活する人々とその家族を対象とした看護が考えられるように科目を設定した。「地域・在宅看護概論」では地域で生活する事を理解し、対象者とその家族を支援のあり方について「地域・在宅療養を支える看護」の科目を設定した。在宅看護は多職種と協働・連携がより求められ「地域療養と多職種支援」を設定した。
	地域・在宅療養を支える看護	1	
	地域・在宅療養と多職種連携	1	
	地域・在宅療養者の健康状態に応じた看護	1	
	在宅看護技術	1	6 科目を必須科目として 6 単位とした。
	地域・在宅看護過程	1	
成人看護学	成人看護学概論	1	成人看護学では成人期の特徴に基づいた看護を学ぶ科目を設定した。成人期の健康回復のための治療における看護のみならず、健康障害をセルフコントロールしながら生活を送る人々も多い時期である。健康障害と社会的役割の両立に向けて必要な看護を学ぶ。また、病気の進行による苦痛や終末期を迎える人々の看護を学ぶ科目を設定した。
	健康危機状況にある成人の看護	1	
	侵襲的治療を受ける成人の看護	1	
	セルフケア再獲得に向けての成人の看護	1	
	セルフマネジメントを必要とする成人の看護	1	6 科目を必須科目として 6 単位とした。
	緩和ケアを必要とする人の看護	1	
老年看護学	老年看護学概論	1	老年看護学では加齢に伴う生活機能の低下の観点から健康障害の特徴をとらえアセスメントし、看護展開できる内容とした。
	高齢者の生活と看護	1	
	高齢者の日常生活援助	1	
	高齢者の健康障害時の看護	1	

小児看護学	小児看護学概論 小児の発達段階に応じた看護 小児の健康状態に応じた看護 小児のアセスメントと看護	1 1 1 1	小児看護学では成長発達を遂げる小児期の特徴を理解し発達段階に応じた看護を中心に理解できるような科目を設定した。小児看護の実践に必要な小児のアセスメントと小児看護技術を学べる内容とした。
母性看護学	母性看護学概論 妊娠・分娩期の看護 産褥期・新生児の看護 生殖機能障害のある患者の看護	1 1 1 1	母性看護学では種族保存の側面を踏まえて、総合的に人間を捉えるとともに、妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護を展開できる内容とした。生殖機能の障害については女性に限らずパートナーとしての男性も含めた内容とした。
精神看護学	精神看護学概論 精神に障害を持つ人の理解 精神看護の基本技術 精神に障害を持つ人の生活と看護	1 1 1 1	精神看護学では精神に障害を持つ人の対象理解、その手段としてカウンセリングの基本技術、生活に目を向けた看護が展開できるような内容を設定した。
看護の統合と実践	診療の補助技術における安全 臨床看護の実践Ⅰ 臨床看護の実践Ⅱ 臨床看護の実践Ⅲ 看護研究 看護管理 国際協力と災害看護 キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	看護の統合と実践においてはチーム医療における医療の質を保証するために看護師として重要な事は何か考えるために診療の補助技術における安全、看護管理、を設定している。また、日本は自然災害が多く、災害時の看護における特徴を学ぶ国際協力と災害看護を設定した。看護研究は将来、看護を探求する基礎的能力を養うために設定している。 臨床看護の実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは３年次に設定し３年次の臨地実習において臨床判断能力を養うために設定した。 キャリアデザインは各年次に設定し、社会人として必要な能力や学習支援によりキャリア形成をはかる目的で設定した。また、多職種連携を学ぶ目的で本校の特徴を活かし多学科との連携学習により幅広い学びが出来るような科目として設定した。必修科目として 10 科目 11 単位として設定している。

臨地実習　23 単位

教育内容	科目	単位	科目の設定理由
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅲ	1 1 2	臨地実習は、看護の対象に対して学んだ知識と技術を統合して実践するための学習である。また実践においては対象のあらゆる反応を捉え判断し根拠に基づく看護実践ができる事を目標に設定している。 基礎看護学実習は講義の進度に合わせ段階的に学べるように設定し、基本的ニードの把握、日常生活援助の実践、看護過程の技術を用いて看護を展開する能力を養う。
	地域・在宅看護論実習Ⅰ 地域・在宅看護論実習Ⅱ	1 2	看護の対象は地域で暮らす人々が対象である事を意識づけるために初めての臨地実習は地域・在宅看護論実習Ⅰとした。地域・在宅看護論実習Ⅱは様々な状況に置かれた人々が多様な暮らしを選択し地域や在宅し療養する人がいる事。またその人々と家族の看護を学べるように 3 年次に設定した。
	成人・老年看護学実習Ⅰ 成人・老年看護学実習Ⅱ 成人・老年看護学実習Ⅲ 成人・老年看護学実習Ⅳ 成人・老年看護学実習Ⅴ	1 1 2 2 2	成人・老年看護学実習はⅠ～Ⅴと設定し、年齢幅を広く学べるようにした。加齢に伴う生活機能の低下また健康障害のある対象に応じた看護は入院している対象だけでなく、健康障害を持ちながら生活している人々の看護を学べるように 8 単位と設定した。
	小児看護学実習	2	小児看護学は健康な小児だけでなく健康障害のある子どもの看護に加え、健康障害を持ちながら在宅で生活する子どもの生活と関りを学べるように設定した。
	母性看護学実習	2	母性看護学実習では妊娠期・分娩期・産褥期と新生児の看護と母性の生理的変化、心理的変化をとらえ母性を育む支援を学べるように設定した。
	精神看護学実習	2	精神看護学実習は精神に障害を持つ人の看護を学習する。精神に障害を持つ人々は病院に限らず地域で自立した生活を営む人々も増えている。治療を受ける対象者と生活の支援のあり方を学べるように設定した。
	統合実習	2	統合実習は看護をチームで実践する能力を養うために設定した。また、複数患者の受け持ち、夜間実習また看護管理など臨床現場の看護に近い経験が出来るような学習内容としている。

看 護 科　　１年生

看護科　2025年度生カリキュラム

科目区分		教育内容		科目名	授業形態	１年次		２年次		３年次		合計	
履修方法	科目内容					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
登録指定科目	基礎科目	基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	論理学Ⅰ	講義	1	15					1	15
				論理学Ⅱ	演習	1	15					1	15
				情報科学	演習	1	15					1	15
				情報リテラシー	講義	1	15					1	15
				文学	講義	1	30					1	30
				心理学	講義	1	30					1	30
				人間関係論Ⅰ	講義	1	15					1	15
				人間関係論Ⅱ	演習	1	15					1	15
				環境生態学	講義	1	15					1	15
				運動と健康	演習	1	15					1	15
				教育学	演習	1	30					1	30
				英会話	演習	1	30					1	30
				家族社会学	講義	1	30					1	30
				社会学	演習			1	30			1	30
			小　計			13	270	1	30			14	300
		専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅱ	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅲ	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅳ	講義	1	30					1	30
				生化学	講義	1	30					1	30
				栄養学	講義	1	30					1	30
			疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	講義	1	30					1	30
				病態生理と治療（循環・呼吸・血液）	講義	1	30					1	30
				病態生理と治療（消化器・代謝）	講義			1	30			1	30
				病態生理と治療（運動・脳神経・眼）	講義			1	30			1	30
				病態生理と治療（腎・泌尿・免疫）	講義			1	15			1	15
				病態生理と治療（感覚器）	講義			1	15			1	15
				病態生理と治療(小児)	講義			1	15			1	15
				臨床放射線医学	講義			1	15			1	15
				臨床薬理学	講義			1	30			1	30
				微生物学	講義	1	30					1	30
			健康支援と社会保障制度	医療概論	講義	1	15					1	15
				公衆衛生学	講義			1	30			1	30
				生命倫理	演習					1	15	1	15
				社会福祉	講義			1	30			1	30
				関係法規	講義					1	30	1	30
				生活科学	講義	1	15					1	15
			小　計			11	300	9	210	2	45	22	555
			基礎看護学	看護学概論	講義	1	30					1	30
				看護倫理	講義	1	15					1	15
				基本技術	演習	1	30					1	30
				ヘルスアセスメント	演習	1	30					1	30
				生活を整える技術Ⅰ	演習	1	30					1	30
				生活を整える技術Ⅱ	演習	1	30					1	30
				診療・処置に伴う技術	演習	1	30					1	30
				与薬の技術	演習			1	30			1	30
				看護過程展開の技術	演習	1	30					1	30
				臨床看護総論	講義	1	30					1	30
				臨床看護技術	演習			1	30			1	30
			地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	講義	1	15					1	15
				地域・在宅療養を支える看護	講義	1	30					1	30
				地域・在宅療養と多職種連携	講義			1	15			1	15
				地域・在宅療養者の健康状態に応じた看護	講義			1	15			1	15
				在宅看護技術	演習			1	15			1	15
				地域・在宅看護過程	演習			1	15			1	15

看護科　2025年度生カリキュラム

科目区分		教育内容		科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計	
履修方法	科目内容					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
	専門科目	専門分野	看護学 成人	成人看護学概論	講義	1	30					1	30
				健康危機状況にある成人の看護	演習			1	30			1	30
				侵襲的治療を受ける成人の看護	演習			1	30			1	30
				セルフケア再獲得に向けての成人の看護	演習			1	30			1	30
				セルフマネジメントを必要とする成人の看護	演習			1	30			1	30
				緩和ケアを必要とする人の看護	講義			1	30			1	30
			看護学 老年	老年看護学概論	講義	1	30					1	30
				高齢者の生活と社会	講義	1	15					1	15
				高齢者の日常生活援助	演習			1	30			1	30
				高齢者の健康障害時の看護	講義			1	30			1	30
			看護学 小児	小児看護学概論	講義	1	30					1	30
				小児の発達段階に応じた看護	演習			1	30			1	30
				小児の健康状態に応じた看護	講義			1	30			1	30
				小児のアセスメントと看護	演習			1	15			1	15
			看護学 母性	母性看護学概論	講義	1	30					1	30
				妊娠期・分娩期の看護	演習			1	30			1	30
				産褥期・新生児の看護	演習			1	30			1	30
				生殖機能障害のある患者の看護	講義			1	15			1	15
			看護学 精神	精神看護学概論	講義	1	30					1	30
				精神に障害を持つ人の理解	講義			1	15			1	15
				精神看護の基本技術	演習			1	30			1	30
				精神に障害を持つ人の生活と看護	演習			1	30			1	30
			看護の統合と実践	診療の補助技術における安全	演習			1	30			1	30
				臨床看護の実践Ⅰ	演習					1	15	1	15
				臨床看護の実践Ⅱ	演習					1	15	1	15
				臨床看護の実践Ⅲ	演習					1	15	1	15
				看護研究	演習					1	30	1	30
				看護管理	講義					1	15	1	15
				国際協力と災害看護	演習					1	15	1	15
				キャリアデザインⅠ	演習	1	15					1	15
				キャリアデザインⅡ	演習			1	15			1	15
				キャリアデザインⅢ	演習					2	30	2	30
			小計			18	480	24	600	8	135	50	1,215
			臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	45					1	45
				基礎看護学実習Ⅱ	実習	1	45					1	45
				基礎看護学実習Ⅲ	実習			2	90			2	90
				地域・在宅看護論実習Ⅰ	実習	1	45					1	45
				地域・在宅看護論実習Ⅱ	実習					2	90	2	90
				成人・老年看護学実習Ⅰ	実習			1	45			1	45
				成人・老年看護学実習Ⅱ	実習			1	45			1	45
				成人・老年看護学実習Ⅲ	実習					2	90	2	90
				成人・老年看護学実習Ⅳ	実習					2	90	2	90
				成人・老年看護学実習Ⅴ	実習					2	90	2	90
				小児看護学実習	実習					2	90	2	90
				母性看護学実習	実習					2	90	2	90
				精神看護学実習	実習			2	90			2	90
				統合実習	実習					2	90	2	90
			小　計			3	135	6	270	14	630	23	1,035
合　計						45	1,185	40	1,110	24	810	109	3,105

※看護科の卒業には修業年限以上在学し、109単位の修得が必要。

科目名	論理学Ⅰ			担当教員		古池　由美		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

基礎分野に位置づける。物事を科学的に思考する基礎的能力を養うために設定した。

□授業の目的

筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力、事柄を正しく解釈できる思考を訓練する。
１．論理的思考を養う。
　１）読む、書くことを中心に文章の書き方を身につける。
　　「一文一義」の文が書けるようになる。
　２）聞く、話すことを中心に言葉の運用能力の向上を図る。
２．将来、研究論文を書くための文章構成法を身につける。

□授業の到達目標

１．論理的思考ができる。
２．論文としての文章構成法を理解することができる。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	80
	作文	
	随時試験	
	終講試験	
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（小テスト　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
・授業時間の２/３以上の出席時間が無ければ評価を受けることはできません。

□学生へのメッセージ
・

□テキスト
・『看護学生のためのレポート書き方教室』（江原勝幸　照林社）

□参考図書・資料・参考ホームページ
・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	自己紹介をよりよくしてみよう	1 自己紹介カードを書く 2 原稿用紙の使い方 3 自己紹介文を書く
2	文学的文章との比較	レポートってなあに？
3	小論文計画表を作る	小論文の構成
4	小論文清書（400 字）　漢字について	慣用句・ことわざにもふれる
5	漢字　常体と敬体	漢字テスト
6	レポートの添削例	例を提示して解説
7	小論文（400 字）	メモ→計画表→相互評価→小論文→相互評価→提出
8	まとめ	発表

科目名	論理学Ⅱ			担当教員		古池　由美		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

基礎分野に位置づける。論理学Ⅰで学んだ知識を基に、倫理的思考を活用するために設定した。

□授業の目的

筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力、事柄を正しく解釈できる思考を訓練する。
１．論理的思考を養う。
　１）読む、書くことを中心に文章の書き方を身につける。
　　「一文一義」の文が書けるようになる。
　２）聞く、話すことを中心に言葉の運用能力の向上を図る。
２．将来、研究論文を書くための文章構成法を身につける。

□授業の到達目標

１．論理的思考ができる。
２．論文としての文章構成法を理解することができる。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	80
	作文	
	随時試験	
	終講試験	
	平常の授業状況（　　）	20
	その他（小テスト　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
・授業時間の 2/3 以上の出席時間が無いと評価を受けることはできません。

□学生へのメッセージ
・倫理学Ⅰの知識を活用して自分の力を試していきましょう。

□テキスト
・『看護学生のためのレポート書き方教室』（江原勝幸　照林社）

□参考図書・資料・参考ホームページ
・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	文章の主体性と主語の明確化	一文一義の解説　専門用語、外来語、略語にもふれる
2	こそあど言葉、てにをは	接続詞、比喩
3	小論文（600 字）	メモ→計画表→相互評価→小論文→相互評価→提出
4	国語的表現	形式名詞　敬語の使い方
5	レポートの特徴と作成のポイント	疑問符・感嘆符、くくり記号、漢数字にもふれる
6	小論文（800 字）	メモ→計画表→相互評価→小論文→相互評価→提出
7	レポートの種類と形式	文章のレベルアップを図る
8	まとめ	発表

科目名	情報科学			担当教員		三好善彦		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	IT 企業情報処理部門勤務経験						

□位置付け

基礎分野に位置づける。コンピューターの使用による情報処理技術を身につけるために設定する。看護者として必要な情報リテラシーを学習する前段階となる科目である。

□授業の目的

情報科学の概念及び情報処理に必要なパソコンの基礎知識・活用技術を学ぶ。また、効果的な情報伝達スキルを養う。

□授業の到達目標

1．情報の概念が理解できる
2．Word 機能を理解し活用できる
3．Excel 機能を理解し活用できる
4．PowerPoint 機能を理解し活用できる
5．効果的な情報伝達（プレゼンテーション）ができる

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	60
	作文	
	随時試験	
	終講試験	40
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上の出席時間が無ければ評価を受ける事はできません。

□学生へのメッセージ

・授業毎にテーマに沿った提出物があります。
・Google Classroom を利用します。

□テキスト

・

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	コンピューター基礎知識	コンピューターの基礎、インターネットを使った情報検索、電子メール
2	文章作成	Word の基本操作、書式の設定、画像や図形、ページ設定
3		表の作成、課題作成
4	表計算	Excel の基本操作、計算式と関数
5		グラフの作成、Word と Excel の連携、課題作成
6	プレゼンテーション	PowerPoint の基本操作、レイアウト、画面切り替え、アニメーション
7		スライドの再利用、課題作成
8	終講試験	課題発表（プレゼンテーション）

科目名	情報リテラシー			担当教員		三好善彦		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	IT 企業情報処理部門勤務経験						

□位置付け

基礎分野に位置づける。医療情報は IT 化が急速に普及し、看護師として膨大な情報から必要な情報を入手し効果的に活用する基本的知識と看護者の倫理を理解するための科目である。

□授業の目的

医療情報の電子化において活用するための知識と技術を学び、情報のネットワーク化における看護者のモラルを養う。

□授業の到達目標

１．医療現場の情報活用する基礎的能力を身につける。
２．情報倫理の現状と必要性を理解できる。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	40
	作文	―
	随時試験	
	終講試験	60
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・看護師は多くの情報を取り扱います。情報を扱う看護師は情報の意味だけではなく管理も必要な事も学び今後の実習や学習にも活用しましょう。
・Google Classroom を利用します。

□テキスト

・エッセンシャル看護情報学　25 年版　医歯薬出版

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	看護情報学	看護情報学とは、看護におけるデータ・情報の特徴
2	コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシー、情報セキュリティ、情報発信
3	情報倫理と法	情報倫理とは、プライバシーと守秘義務
4		個人情報保護に関する法、臨地実習における患者情報の取り扱い
5	医療情報システム	医療情報システム、電子カルテシステム、オーダエントリシステム
6	看護用語の標準化	看護用語の標準化、医療・看護用語の標準化の取り組み
7	情報システムの活用	遠隔看護、情報の活用、ビックデータ・IoT・人工知能と看護
8	終講試験	筆記試験

科目名	文学			担当教員		寶槻たまき		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

言葉と文章表現を通してミュニケーションの重要性を学ぶ。また、文学作品を通して自己や他者への理解を深め、「恕」のある看護とは何かを考えるための基礎的な力を養う学ぶ科目として設定した。

◇授業の目的

言語・表現とは何かを理解し、社会人として必要な語彙力・文章力を身につける。また、文学作品を通して様々な価値観・人生観、異なる文化や歴史的背景に触れ、他者を理解しようとする力を養う。

1．言葉とコミュニケーションの重要性を理解する。
2．文章の正しい書き方を理解する。
3．看護学生に必須の漢字力を身に付ける。
4．古典作品を通して歴史的背景や異なる文化を理解し、登場人物や作者の思いについて考える。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・古典作品を扱いますが、現代語訳を読むため古典文法などの知識は必要としません。

□テキスト

・プリントを配布します。

□参考図書・資料・参考ホームページ

・飯田恭子監修『看護学生必須の漢字・熟語・５日間攻略問題集』（滋慶出版／土屋書店・二〇一四年）
・つちや書店編集部編『よくわかる！看護師試験のための論作文術』（つちや書店・二〇一四年）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	ガイダンス・『論語』	ガイダンス・『論語』①
2		『論語』②
3	文章の書き方	文の構造や文章表現上の留意点①
4		文の構造や文章表現上の留意点②
5		悪文訂正問題
6	日本文学（古典）	和歌（『万葉集』①）
7		和歌（『万葉集』②）
8		和歌（『古今集』）
9		平安中期の歴史と文学（『蜻蛉日記』）
10		平安中期の歴史と文学（歴史物語①）
11		平安中期の歴史と文学（歴史物語②）
12		平安中期の歴史と文学（『枕草子』①）
13		平安中期の歴史と文学（『枕草子』②）
14		平安中期の歴史と文学（『枕草子』③）
15	終講試験	筆記試験

科目名	心理学			担当教員		室田洋子		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	大学の学生相談室カウンセラー30 年、心理臨床相談で家族相談 30 年余り相談員として勤めた。その経験をもとに講義を行う。						

□位置付け

基礎分野に位置づけ、人のパーソナリティーや行動の類型など多面的側面から学び、看護の対象となる人間の理解を深めるために設定した。

□授業の目的

人はどのように生き、考え、集うのか。なぜ、傷つき、感じ、行動するのか。心理学では、人の心のさまざまな問題を、人間を理解するという視点に立ちつつ検討する。

そのなかで、人の性格や気質、人格とはどのような内容か、またそれはどのようにして形成されるのか、心の深層の存在とその働き、心理的存在・社会的・身体的存在としての「自分」が被害をうけそうになった時に人が心の反応としておこす様々な防衛機制の行動、思うようにいかない状況（要求阻止）におかれた時に人がとる適応行動と不適応行動、それを人はどのようにして乗り越えるのかについて具体的な事例を多く取り入れながら考察する。
また、自分をとりまく状況や環境の認知を人はどのようにしているのか、その反応や行動の人による違いを知ることを通して、人の心と行動の不可思議さ面白さを探求する。

□授業の到達目標

１．人間への理解を深める

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席時間がない場合は、評価を受けることができません。

□学生へのメッセージ

・

□テキスト

・『図解・心理学』室田洋子他　学術図書出版

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	心理学とは	人間を理解することのむずかしさ
2	性格(personality)	人格・性格・気質・パーソナリティ…定義
3	性格の類型論	クレッチマーの類型論　シェルドンの類型論　ユングの類型論
4	あなたの性格は？	向性検査の実施　ＹＧ性格検査の実施　検査実施の基本的条件
5	心の深層を考える	ふと洩らす言葉や行動の意味　フロイトの深層心理学 ユングの深層心理学
6	行動のしくみ	行動の発生…人の嘘を電流ではかる　人間の行動、動物の行動 感情と行動の関係
7	要求と動機づけ	一次的要求と生理的ホメオスターシス　二次的要求と家族ホメオスターシス
8	誘因と誘発性	ふかし芋とフランス料理の心理的意味・行動契機
9	要求阻止（行動の障害）	フラストレーションを生じさせる要因　要求水準とその変化 再行傾向とツアイガーニック効果
10	要求阻止の時ひとはどう行動するか	代償行動と代償価　葛藤（コンフリクト）　心的飽和
11	適応・不適応	要求阻止における適応行動　要求阻止における不適応行動 適応異常・精神障害
12	自己防衛機制	セルフ・ディフェンス・メカニズムとは合理化、逃避、抑圧、投射、反動形成… 人格形成と要求阻止耐性
13	環境の認知	レマン湖のほとりで旅人は何をみたのか　心理的環境と物理的環境
14	知覚の体制－ものの認知	図と地　ウエルトハイマーの法則　知覚の適応性
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	人間関係論Ⅰ			担当教員		大山一樹		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態		法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	臨床心理学の教育コーチ（非常勤講師）として大学に勤務し、クリニックでの心理的支援に関わった実践例と経験をもとに講義を行う。						

□位置付け

基礎分野に位置づける。人との関係形成とは何かを理解し保健医療の専門職として、人間関係に関連する概念や理論を学ぶために設定している。

□授業の目的

人間の多様な心理・行動的側面を理解し、実際場面、臨床場面に応用できる能力を養う。そのために、人間関係の基礎的な理論のほか、人間関係をより深く理解するための周辺領域について講義する。日常での対人場面、臨床実習や面接場面、実際のクライエントとのやりとりに必要なコミュニケーションの基礎を理解する。

□授業の到達目標

1. 人間の多様な心理・行動的側面を理解し、実際場面、臨床場面に応用できる能力を養う。
2. 人間関係を成立させるための基礎を理解する。
3. 人間関係をよりよくするための知識や実践能力を身につける。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		10
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	90
	平常の授業状況（　　）	
	その他（授業の振り返り、演習小テスト）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・看護の現場だけでなく、日常生活でも重要となる人間関係について、基礎を学びましょう。

□テキスト

・

□参考図書・資料・参考ホームページ

・参考 web page など、随時、指示する

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	人間関係とは	人間関係の始まり、人間関係の発達
2	対人認知	印象形成、原因帰属
3	対人関係の要因と影響	対人関係の成立、対人関係の維持
4	人間関係における葛藤	葛藤と防衛機制
5	パーソナリティ、感情	パーソナリティの理論、感情の生起
6	ストレス	ストレスの仕組み、ストレスコーピング
7	家族、地域との人間関係	家族関係、家族アセスメント、地域との人間関係
8	終講試験	筆記試験

科目名	人間関係論Ⅱ			担当教員		大山一樹		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	臨床心理学の教育コーチ（非常勤講師）として大学に勤務し、クリニックでの心理的支援に関わった実践例と経験をもとに講義を行う。						

□位置付け

基礎分野に位置づける。人間関係論Ⅰの学びを基盤として、自己を知り他者との人間関係を形成するコミュニケーション技法の基礎を考えるために設定している。

□授業の目的

人間の多様な心理・行動的側面を理解し、実際場面、臨床場面に応用できる能力を養う。日常での対人場面、臨地実習や面接場面、実際のクライエントとのやりとりに必要なコミュニケーション手段の基本を学習する。

□授業の到達目標

1. 人間関係をよりよくするための知識や実践能力をさらに幅広いものにする。
2. 効果的コミュニケーション技術を獲得する。
3. 人間関係論を通して個人的成長をとげる。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		10
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	90
	平常の授業状況（　　）	
	その他（授業の振り返り、演習小テスト）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席がない場合は、評価を受ける事はできません

□学生へのメッセージ

・人間関係論Ⅰの学習とともに、看護の現場や日常生活において役立つ人間関係のスキルについて考えましょう。

□テキスト

・

□参考図書・資料・参考ホームページ

・参考 web page など、随時、指示する

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	集団（1）	集団規範、同調
2	集団（2）	集団のもつ影響
3	コミュニケーション	対人コミュニケーション、マスコミュニケーション
4	援助行動	援助、攻撃、社会的スキル
5	カウンセリング	カウンセリングの理論、カウンセリングのスキル
6	リーダーシップ	リーダーシップの理論、チームの人間関係
7	コーチング	コーチングの理論、コーチングのスキル
8	終講試験	筆記試験

科目名	環境生態学			担当教員		渡邉・大地		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

基礎分野に位置づける。人間は環境と共存し生活を営む存在である。自然環境は地球上の生態系に影響を及ぼし人の暮らしや生命にも影響を与える。環境変化における問題を知り人間は環境に大きな影響を受ける存在であることを理解するために設定した。

□授業の目的

生態系保全を含む環境問題の把握のため、現在の地球環境の状況（人口、水、食糧、化学物質の使用など）を知り、環境問題とは何かについて理解する。とくに、環境問題のうち海洋に焦点を当て、地球環境と海洋生態系に関する問題について、最新のトピックスを紹介する。さらに、今後の環境保全のための方策や課題などを考えるヒントを提示する。

□授業の到達目標

１．地球環境と生態系にかかわる問題を理解する。
２．地球環境と海洋生態系に関する問題について理解する。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	
	平常の授業状況（　　）	
	その他（課題レポート）	100
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上の出席時間が無ければ評価を受ける事はできません。

□学生へのメッセージ

・ひとの命を扱う医療の場でも、地球環境や生態系（他者のいのち）を意識することは重要になってくると思います。気軽に受講してみてください。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	現在の地球環境１人口・食糧	今の地球の現状を理解するため、最大の環境問題、人口と食について解説
2	現在の地球環境２水・資源	世界的な水と資源、そして化学物質使用の現状のデータを示して解説する
3	環境問題とは何か？	人類が直面する環境問題とは、そもそもどのようなものか概説する
4	地球	地球環境システムについて、概要を説明する
5	海洋	海洋について、物理、化学、生物および地学的観点から多角的に説明する
6	海洋汚染	海洋汚染の概要を説明するとともに、海洋汚染問題について具体例を紹介する
7	海洋と森林	地球環境保全について、海洋と森林の繋がりに焦点を当て講義を行う
8	終講試験	レポート

科目名	運動と健康			担当教員		長谷川公輝		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	中高体育　運動生理学						

□位置付け

基礎分野に位置づける。運動の効果を健康の視点で学習し健康のための運動の理解を、講義と実技を通して学習する。この体験を通し身体に関心をもち「健康とは」について考えるために設定した。

□授業の目的

『健康について学習する場』としての意義を強調したい。心身の健康を維持するための運動を実施しその効果を実感するだけでなく、運動・スポーツとそれに関連する健康について幅広く学習する機会として重要であると考えている。

□授業の到達目標

１．心身の健康を維持する。運動の必要性を実感する。
２．運動と健康について理解する。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（授業態度）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席時間がない場合は、評価を受けることができません。

□学生へのメッセージ

・各授業では講義と実技の両方行います。運動着で出席してください。

□テキスト

・

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	健康な身体づくり	オリエンテーション　運動と健康について　グループワーク
2	運動の効果１	身体的効果　運動不足による影響　実技
3	効率的な動作	身体バランス　ボディメカニクス　実技
4	運動の効果２	心理的効果　集団効果　チーム・実技
5	運動による障害	予防行動・ストレッチ　運動障害（肉離れ捻挫）　脱水　実技
6	生涯スポーツ	加齢による低下と維持向上　実技
7	身体つくり	筋力トレーニング　実技
8	終講試験	筆記試験

科目名	教育学			担当教員		菊地愛美		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

基礎分野に位置づける。人が何故、教育を受けるのかを理解し自らも生涯学習を続け自己成長し続ける事が出来るように設定している。

□授業の目的

「教育学」の授業は、教育学の基礎的な知識を修得すること、学び方を体得することを目的とする。
前半では、「教育」という行為について、医療や看護の世界と深く関わる領域に焦点を当て、教育の役割と課題について検討する。
後半では、関心のあるテーマについて個人またはグループでプレゼンテーションを行う。

□授業の到達目標

１．教育学の基礎的知識を習得する。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（プレゼンテーション）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席時間がない場合は、評価を受けることができません。

□学生へのメッセージ

・講義だけでなく、ディスカッションや課題研究を行うので、積極的な姿勢を求めます。

□テキスト

・『教育学』医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・プリント

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	ガイダンス	教育学を学ぶ意味
2	人間の発達と教育	人間形成と社会―子ども観の変遷―
3	学校とは何か①	子どもの生活と教育の変化
4	学校とは何か②	義務教育制度の概要
5	学校とは何か③	現代日本における学校教育―子どもたちの生きづらさを考える―
6	教育を受ける権利①	「教育を受ける権利」という概念の登場と現在
7	教育を受ける権利②	障がい児教育―特別ニーズ教育・インクルーシブ教育―
8	教育を受ける権利③	学習の保障―院内学級を事例に―
9	ジェンダーとセクシュアリティ	再生産の視点を入れて
10	リテラシーの概念①	映画から学ぶ
11	リテラシーの概念②	映画から学ぶ―批判的リテラシーという概念―
12	教職の専門性と専門職性	教育実践と評価の理論
13	教育計画と教育評価①	教育評価の実践　授業計画・実践①
14	教育計画と教育評価②	教育評価の実践　授業計画・実践②
15	終講試験	筆記試験

科目名	英会話			担当教員		松村純		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	大学その他の教育機関で、３０年以上にわたり英語教育に従事してきた経験をもとに、看護師として役に立つ英語の教授を行う。上智大学では、看護学科で看護英語を担当。						

□位置付け

基礎分野に位置づける。将来医療現場において多様な国の人々とのコミュニケーション力を養う基礎力を養うために設定した。

□授業の目的

基礎英語をもとにして、実際に医療現場で使うであろう様々な英語表現、また看護師にとり大切な、患者さんと心をつなぐための英語会話を身につけることを目的とする。

□授業の到達目標

来院時の手続き・受診・検査・症状説明・投薬などに伴う英語表現、および患者さんとの個人的な会話表現を口頭で言えるようになることを目的とする。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	20
	作文	—
	随時試験	—
	終講試験	80
	平常の授業状況（　　）	—
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・医療現場で使われる英語表現も「中学英語」が基礎となっています。このクラスでは、医療の場で必要とされる英語を易しい英語で言えるように練習していきます。

□テキスト

・プリントを配布します

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	医療現場で使われる英会話（1）	患者来院時の英語表現
2	患者さんとの日常会話（1）	患者さんと心をつなぐ「Be 動詞を使った英語会話」
3	医療現場で使われる英会話（2）	初診時の英語表現
4	患者さんとの日常会話（2）	患者さんと心をつなぐ「S+V+0 を使った英語会話(1)」
5	医療現場で使われる英会話（3）	バイタルサイン測定の英語表現
6	患者さんとの日常会話（3）	患者さんと心をつなぐ「S+V+0 を使った英語会話(2)」
7	医療現場で使われる英会話（4）	症状説明の英語表現
8	患者さんとの日常会話（4）	患者さんと心をつなぐ「S+V+0 を使った英語会話(3)」
9	医療現場で使われる英会話（5）	痛みについての英語表現
10	患者さんとの日常会話（5）	患者さんと心をつなぐ「助動詞を使った英語会話」
11	医療現場で使われる英会話（6）	投薬についての英語表現
12	患者さんとの日常会話（6）	患者さんと心をつなぐ「疑問詞を使った英語会話(1)」
13	医療現場で使われる英会話（7）	排尿・排便についての英語表現
14	患者さんとの日常会話（7）	患者さんと心をつなぐ「疑問詞を使った英語会話(2)」
15	終講試験	筆記試験

科目名	家族社会学			担当教員		室田洋子		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	大学の学生相談室カウンセラー30 年、心理臨床相談で家族相談 30 年余り相談員として勤めた。その経験をもとに講義を行う。						

□位置付け

基礎分野に位置づける。看護は患者の背景である家族を理解し看護を行う必要がある。そのため看護師として家族の機能・役割を理解するために設定した。

□授業の目的

人間はひとりで生活しているのではなく、多くは家族が存在し、家族の一員として生活している。看護の対象者には家族の理解と支援は重要である。また、看護は家族もケアの対象となり、個人と地域社会を繋ぐ働きもする。そこで、家族をシステムとしてとらえ、家族の形態、家族の機能と役割などを理解し、我が国の家族の状況や問題についても理解する。

□授業の到達目標

１．家族の形態、機能と役割について理解する。
２．我が国の家族の状況や問題について理解する。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上を出席しなければ、終講試験の受験資格はありません。

□学生へのメッセージ

・

□テキスト

・

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	家族社会学の視点	家族の基本的概念と定義
2	家族機能の変遷	gemainshaft と geselshaft
3	家族システム論	生物体システムの７つのレベル(miller)
4	全体としての家族	（family as a whol）の理解
5	母子相互作用	子どもによって親は育てられる
6	家族の危機と Homeostasis	家族の構造と世代間の境界
7	家族ダイナミックスの発達的変化	（反抗期現象の意味　Kroh）
8	家族内の地位と役割	母親コンセプション
9	Moreno の関係論	親子・夫婦・家族・パートナーと家族関係
10	Erikson のアイデンテイテイ論	家族の発達課題と発達の危機
11	家族内コミュニケーション	間主観性　Nonverbal　Communication
12	愛着形成と愛着障害	若い家族の発達課題と乳児期の発達課題
13	躾ける　Autonomy-Shame	母（父）性の形成と失敗　虐待の土壌
14	家族と医療	ライフサイクルと家族
15	終講試験	筆記試験

科目名	解剖生理学Ⅰ			担当教員		神山暢夫		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野に位置づけ人体の構造と機能の理解を目的として設定している。看護において、人体の正常な機能の理解無くして対象の健康障害を捉える事は困難である。よって、看護実践の基盤となる科目である。

□授業の目的

～解剖生理学について～

解剖学と生理学は医学の中で最も基礎となる学問で、これを自転車に例えるなら、解剖学を前の車輪とすれば、生理学は後の車輪である。即ち、両輪が一体となって働かねばヒトの生命は保てない。前者は人間の体の構造や形態を学ぶのに対して、後者は機能や働きを学ぶ。この進んだ現代においても未だ解明されていない点は多々あれど、人間の体の精密さに諸君は感嘆の声を上げることであろう。

人体で営まれている生命現象は、生命を維持するはたらき（植物機能）と生命を活用するはたらき（動物機能）に大別される。植物機能は、人体と細胞の生命を維持する基盤となるものである。ここでは、生命を維持する植物機能のうち「血液の循環とその調節」を学ぶ。

□授業の到達目標

１．人体を構成する細胞・組織・器官・系について理解する。
２．医学用語を正確に理解する。
３．生命を維持する植物機能について理解する。
４．血液・循環器の役割及び正常な機能を理解できる。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	修了認定試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ評価を受ける事はできません。

□学生へのメッセージ

・人体の正常な機能を理解することで、健康を障害した際、何故症状が出現するのか、治療の意味の理解につながります。またこの知識を活かし看護を考えなければなりません。学習の前後に予習・復習が必須な科目で暗記ではなく、理解がとても重要です。

□参考図書・資料・参考ホームページ

『系統看護学講座 専門基礎分野　人体の構造と機能[1]
解剖生理学』 坂井建雄他　医学書院

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	イントロ	授業の概要・人体の構造と機能
2		ヒトの体
3		細胞の中と外
4		体内の水・生理食塩水
5	血液	血液の組成
6		血液の働き
7		免疫、血液凝固
8	循環	循環の概要
9		心臓の構造
10		心臓の収縮（1）
11		心臓の収縮（2）
12		心電図
13		動脈と静脈
14		血液循環の動態　いろいろな血管
15	総括と修了認定試験	総括と筆記テスト（Ⅰ）

科目名	解剖生理学Ⅱ			担当教員		神山暢夫		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野に位置づけ人体の構造と機能の理解を目的として設定している。看護において、人体の正常な機能の理解無くして対象の健康障害を捉える事は困難である。よって、看護実践における臨床判断の基盤となる科目である。

□授業の目的

人体で営まれている生命現象は、生命を維持するはたらき（植物機能）と生命を活用するはたらき（動物機能）に大別される。植物機能は、人体と細胞の生命を維持する基盤となるものである。
ここでは、生命を維持する植物機能のうち「呼吸機能」と「栄養の消化と吸収」について学ぶ。

□授業の到達目標

１．生命を維持する植物機能について理解できる。
２．呼吸器・消化における正常な機能を理解できる。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	修了認定試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上の出席がない場合は評価を受ける事はできません。

□学生へのメッセージ

・人体の正常な機能を理解することで、健康を障害した際、何故症状が出現するのか、治療の意味の理解につながります。またこの知識を活かし看護を考えなければなりません。学習の前後に予習・復習が必須な科目で暗記ではなく、理解がとても重要です。

『系統看護学講座 専門基礎分野　人体の構造と機能[1]
解剖生理学』
坂井建雄他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	呼吸	テストの振り返り　血液・循環器の重要ポイント　呼吸の概要 1
2		呼吸の概要 2
3		肺の構造
4		換気とは
5		ガス交換
6		肺機能
7		肺機能とその検査
8		呼吸とホメオスタシス
9	消化	消化器系の概要
10		栄養と消化、吸収
11		消化器系の構造
12		上部消化管
13		下部消化管
14		腹部実質臓器
15	総括と修了認定試験	総括と筆記テスト（Ⅱ）

科目名	解剖生理学Ⅲ			担当教員		神山暢夫		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野に位置づけ人体の構造と機能の理解を目的として設定している。看護において、人体の正常な機能の理解無くして対象の健康障害を捉える事は困難である。よって、看護実践の基盤となる科目である。

□授業の目的

生命を活用する動物機能は、情報を受容し、処理し出力する、すなわち人体の活動を統合するはたらきである。ここでは、「情報の受容と処理」について学ぶ。

□授業の到達目標

1．人体の活動を統合する働きについて理解する。
2．神経の正常な機能を理解できる。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間 2/3 以上の出席しなければ評価を受ける事はできません。

□学生へのメッセージ

・人体の正常な機能を理解することで、健康を障害した際、何故症状が出現するのか、治療の意味の理解につながります。またこの知識を活かし看護を考えなければなりません。学習の前後に予習・復習が必須な科目で暗記ではなく、理解がとても重要です。

『系統看護学講座 専門基礎分野　人体の構造と機能[1]
解剖生理学』
坂井建雄他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	神経系	テストの振り返り　呼吸器・消化器の重要ポイント　神経系の概要
2		膜電位の発生
3		活動電位の発生と伝導
4		シナプス
5		筋の構造と収縮
6		筋収縮のコントロール、マクロ筋
7		中枢神経系の解剖
8		脊髄と末梢神経
9		反射の解剖と機能
10		感覚器の概要、聴覚と平衡覚
11		視覚
12	自律神経系	自律神経系の概要
13		自律神経系の解剖
14		自律神経系の支配の原則と例外
15	総括と終講試験	総括と筆記テスト（Ⅲ）

科目名	解剖生理学Ⅳ			担当教員		神山暢夫		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野に位置づけ人体の構造と機能の理解を目的として設定している。看護において、人体の正常な機能の理解無くして対象の健康障害を捉える事は困難である。よって、看護実践の基盤となる科目である。

□授業の目的

解剖生理学の最後に生命を維持する植物機能のうち「腎機能」「内臓機能の調節」について学ぶ。
また、ヒトという種を保存するはたらきについて、生命の誕生、成長と老化という経過を通じて学習する。

□授業の到達目標

1．体液と体内の恒常性を維持する機能を理解する。
2．種の保存・成長と老化の過程を理解する。
3．人体を構成する器官について理解する。
4．腎臓・内分泌・生殖機能・皮膚・骨格の理解ができる。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席がなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・人体の正常な機能を理解することで、健康を障害した際、何故症状が出現するのか、治療の意味の理解につながります。またこの知識を活かし看護を考えなければなりません。学習の前後に予習・復習が必須な科目で暗記ではなく、理解がとても重要です。

『系統看護学講座 専門基礎分野　人体の構造と機能[1]
解剖生理学』
坂井建雄他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	腎	テストの振り返り　神経機能の重要なポイント　腎機能の概要
2		ネフロンの構造
3		尿の生成
4		腎機能の調節
5		体液のホメオスタシス
6	内分泌	内分泌系の概要、ホルモンの分類
7		内分泌各論 1
8		内分泌各論 2
9	生殖	生殖の意義と概要
10		男性生殖器
11		女性生殖器
12	皮膚	皮膚の構造と機能
13	骨	骨学の概要
14		全身の骨マクロ
15	総括　終講試験	筆記テストⅣ

科目名	生化学			担当教員		齋藤・石渡・鎌田		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野として位置づける。生体を構成する物質と仕組みを理解し、根拠をもって看護の場で臨床判断につなげられるように設定している。

□授業の目的

ヒトのからだで起こる生理現象は、分子レベルでの反応を基本としている。投薬などにより働きかける対象の多くもそれらである。からだの仕組みに関して、医療現場で生きる知識を得るには、器官・組織レベルに加え、分子レベルの視点が欠かせない。本授業は、分子レベルでからだの仕組みを理解することと、将来看護師としてより適切な看護・治療ができる思考力や応用力を獲得することを目的としている。

□授業の到達目標

1．生化学の知識がどのように現場で生きるか説明できる
2．生体を構成する物質について説明できる
3．生体内の代謝やその働きについて説明できる

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・高校までの生物学を基礎とした科目です。予習して授業に臨むことでより理解が進みます。また、健康障害が生じた際に症状が出現する意味を理解することにつながります。必ず予習や復習をして理解できるように学習しましょう。

□テキスト

・『はじめの一歩の生化学・分子生物学』　第３版
前野正夫他著　羊土社

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	生化学の基礎	一般化学と細胞生物学の基礎
2	生体を構成する物質	タンパク質
3	生体内の物質代謝	タンパク質の代謝
4	生体を構成する物質	核酸
5	生体内の物質代謝	核酸代謝
6	遺伝情報とその発見	遺伝情報と遺伝病
7	生体を構成する物質	脂質
8	生体内の物質代謝	脂質の代謝
9	生体を構成する物質	ホルモン
10	生体内の物質代謝	酵素・補酵素・ビタミン
11	生体を構成する物質	生体内のエネルギー代謝・糖類
12	生体内の物質代謝	糖類の代謝・エネルギー産生
13	生体を構成する物質	水・無機質
14	総復習	総復習
15	終講試験	筆記試験

科目名	栄養学			担当教員		能間　国光		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	5 年以上の臨床経験と研究歴から，臨床での看護に必要な栄養学の基礎知識の取得を目指し講義を行う。						

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。栄養の意義を生体の消化・吸収の視点から理解し、健康障害時の食事・栄養を看護に関連させて考えられるように設定している。

□授業の目的

健康にとっての栄養の意義と栄養系の生体内における消化・吸収について理解する。
また、食事療法の基礎を理解する。

□授業の到達目標

１．栄養の意義と消化・吸収について理解する。
２．食事療法の基礎を理解する。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
・

□学生へのメッセージ
・

□テキスト
・『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[3]　栄養学』
小野章史他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ
・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	栄養学の意義	人間栄養学と看護
2		健康づくりと食品・食事・食生活
3		エネルギー代謝
4		栄養素の種類とはらたき 炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、水
5		栄養素の消化・吸収と体内代謝
6		栄養状態の評価・判定と栄養ケアマネジメント
7		ライフステージと栄養
8	食事療法の基礎	臨床栄養
9		病院食
10		疾患別食事療法の実際
11		手術と食事
12		妊娠と食事
13		在宅療養者の食事療法
14		栄養補給法
15	総括・終講試験	筆記試験

科目名	病理学			担当教員		能間　国光		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	５年以上の勤務経験と研究歴に基づき，最新の情報かつ実際の臨床現場に則した講義を行う。						

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。さまざまな病気の本質を理解し、科学的根拠に基づき看護に活用できるようにするために設定している。

□授業の目的

疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝の病理学的変化の基礎を理解する。看護実践において、病気の原因やその経過、それによって人体が形態的・機能的にどのように変化することを理解することで病態理解と看護の視点における観察につなげる。

□授業の到達目標

１．疾病の成り立ちと回復過程について理解する。
２．病理的変化の基礎を理解する。
３．病理診断の役割を理解する。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・人体の正常な機能を理解することで、健康障害の際、診断の意味や病状の意味の理解につながります。またこの知識を活かし病態把握や看護を考えなければなりません。学習の前後に予習・復習が必須な科目で暗記ではなく、理解がとても重要です。

□テキスト

・病理学　疾病のなりたちと回復の促進①
　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	疾病の成り立ち	病理学概論・細胞・組織の損傷と修復
2	病理的変化	免疫・移植と再生医療
3	病理的変化	感染症①
4	病理的変化と診断	感染症②
5	病理的変化	循環障害①
6	病理的変化と診断	循環障害②
7	病理的変化と診断	呼吸障害
8	病理的変化	炎症　（免疫も含む）①
9	病理的変化	炎症　②
10	病理的変化と診断	代謝障害
11	病理的変化と診断	先天異常と遺伝性疾患
12	病理的変化	新生物（腫瘍）①
13	病理的変化と診断	新生物（腫瘍）②
14	病理的変化と診断	新生物（腫瘍）③
15	総括　終講試験	総括　筆記試験

科目名	病態生理と治療（循環・呼吸・血液）			担当教員		林　香純		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。人体を系統立てて理解し、健康･疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するために解剖生理学を基礎とした上で病態生理学を臨床で活用可能なものとして学ぶ。病態生理学とは、疾病により機能がどう変化するという視点から疾病を解明したものである。疾病による機能の変化により生じてくる代表的な症状について、メカニズムを学び、主な疾患、検査、治療について理解を深め、看護に結び付けられる基礎知識とするために設定した。

□授業の目的

病態生理の理解により看護において臨床判断能力の基盤とする。循環器・呼吸器系の障害では、人間の生命維持に必要な酸素や栄養の供給、内部環境維持に影響を与え、血液・造血系の障害では、生体防御機能の著しい障害が起き、生命維持を困難にすることを理解する。

□授業の到達目標

１．疾病による機能の変化と症状について理解する。
２．主な疾患の検査治療について理解する。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。
・各講師合わせて 100 点の評価となります。

□学生へのメッセージ

・呼吸・循環・血液は生命を維持する重要な器官です。この科目を理解するためには解剖生理学の理解が重要です。復習をしてから臨んでください。健康障害の機序を理解し看護の臨床判断につなげてください。

□テキスト

・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[3]　循環器』上塚芳郎他　医学書院
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[2]　呼吸器』浅野浩一郎他　医学書院
・　成人看護学［3］『血液・造血器』飯野京子他　医学書院
飯野京子他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	循環器の病態生理	心臓の役割　体循環
2	主な疾患の病態	虚血性心疾患
3	主な疾患の病態	心臓カテーテル検査と治療
4	主な疾患の病態	不整脈と治療
5	主な疾患の病態	症例の判断
6	呼吸器の解剖と病態	呼吸器の症状　感染症
7	主な疾患の病態	アレルギー疾患と病態
8	主な疾患の病態	閉塞性疾患　拘束性疾患
9	主な疾患の病態	肺がん
10	主な疾患の病態	睡眠時無呼吸　肺生理
11	血液疾患と病態生理	血液の成分と機能、造血のしくみ　貧血
12	主な疾患の病態	血液の疾患　白血病
13	主な疾患の病態	血液の疾患　リンパ腫　血栓
14	主な疾患の病態	血液の疾患　血栓　止血
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	微生物学			担当教員		林谷　秀樹		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	林谷：大学において、40 年間細菌性病原体に関する教育・研究に従事。実例を活用した講義を行う。						

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。人体に影響を及ぼす微生物の特性を理解し、疾病の予防や看護に根拠をもって活用できるように設定している。

□授業の目的

微生物の生態・種類と特徴、人体に及ぼす影響と対応について理解する。

□授業の到達目標

1. 微生物の種類と特徴について理解する。
2. 人体への影響とその対応を理解する。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	90
	平常の授業状況（　　）	10
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ、終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・看護における安全管理の基本として、感染対策は重要です。感染症の成り立ちの理解に繋がるように復習しながら学んで行きましょう。

□テキスト

・『系統看護学講座 専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進[4]　微生物学』南嶋洋一他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

講義資料の PDF を配布

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	微生物学の基礎	微生物とは、微生物学の歴史
2		細菌の性質
3		ウイルスの性質,,真菌の性質
4	感染とその防御	感染と感染症
5		免疫（自然免疫・獲得免疫・粘膜免疫）
6		滅菌と消毒
7		感染症の診断
8		感染症の治療
9		感染症の現状と対策
10	主な病原微生物	主な病原細菌と細菌感染症
11		主な病原細菌と細菌感染症
12		主なウイルスとウイルス感染症
13		主なウイルスとウイルス感染症
14		主な病原真菌と寄生虫、ならびにそれらの感染症
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	医療概論			担当教員		藤川裕恭		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。社会の中で医療が担う役割を理解しその中で、看護師の役割を考えるために設定している。

□授業の目的

チーム医療の一員である看護師は、看護の基礎となる真の医学のすがたとあるべき医療のすがたを正しく理解する必要がある。
ここでは、医学の概念と健康・病気・医学の体系について学習する。また、医学の進歩と生命の意義や医療のあり方について学ぶ。

□授業の到達目標

1．医学と医療の違いを理解する。
2．医療の歴史と現在・未来の医療の課題を理解する。
3．病いと疾患の捉え方を理解する。

□成績評価の方法 評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント
・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ
・

健康支援と社会保障制度　医療学総論　メヂカルフレンド社

□参考図書・資料・参考ホームページ
・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	医学と医療の違いとは？	医療と医学　倫理的問題とプロフェッショナリズム
2	医療の歴史	医療の歴史から現在・未来の医療の課題を考える
3	健康と病いとは？	疾患、病い、健康の違いとヘルスプロモーション
4	医療とプライマリケア	専門職と連携
5	健康とは	健康格差と社会的要因
6	社会資源と医療保障	我が国の社会保障制度
7	医療のグローバル化	グローバル化と医療
8	終講試験	筆記試験

科目名	生活科学			担当教員		横尾優美		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	非常勤助手（日本女子大学）、被服実験・実習時の指導補助を担う。非常勤講師（日大豊山中学・高校）、家庭科の非常勤講師を担う。						

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。人々の暮らしの環境を衣食住と身近な視点から科学的にとらえ人々の健康支援を考え看護につなげられるように設定した。

□授業の目的

人間の生活にとって不可欠な衣食住の様々な事柄について科学的視点からとらえ、現代社会における生活者として身近な衣食住の問題を考える。また、看護の立場に立ったとき実践に役立つ知識を修得することを目的とする。

□授業の到達目標

１．衣食住を科学的視点からとらえ実践的知識と結びつけて考える。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	15
	作文	
	随時試験	
	終講試験	85
	平常の授業状況（授業態度）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・成績評価は、授業中の課題 15%と終講試験 85%で行います。

□テキスト

・

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	住宅の役割と現代の住環境	生活空間の構成
2		住宅の安全
3	健康のための食生活	栄養素と健康
4		食品の安全
5	被服の役割と機能	SDGs とファッション
6		衣服の役割と設計、衣服の材料
7		快適な衣生活
8	終講試験	筆記試験

科目名	看護学概論			担当教員		伊東由美		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	大学病院に６年間勤務。障害児通園・保育園勤務５年間の勤務経験をもとに看護師と多職種連携などを含めて授業を行う。						

□位置付け

専門分野として最初に学習する専門科目として位置付けている。入学動機である「人の役に立ちたい」という看護師への思いを具現化につなげる科目として設定し基礎看護学実習Ⅱの履修要件となる科目である。看護の基本概念をふまえ、人間の健康の保持増進にかかわる看護の役割と機能を幅広く学ぶものとした。看護に必要な、人間理解を深めるとともに、人々の価値観・人生観、また多様化する看護の活躍の場や看護には正解がないなど看護を志す初学者として「看護とは？」を考え続けられるようにしている。

□授業の目的

看護学概論では、初めて看護を学ぶ学習者が看護全般の基本となる概念を理解し、看護の本質を学ぶことにより各領域の看護学への学習意欲を高めることをねらいとする。本校での看護実践の基礎となる看護理論や専門職としての看護倫理についても理解し、社会や医療における看護の位置づけと役割について学ぶ。

□授業の到達目標

１．看護の歴史、理念、本質について理解する
２．看護師に求められる基本的能力と責任について理解する
３．看護理論について理解し、看護を理論として捉える力を養う
４．保健医療福祉における看護の役割と機能を理解する
５．専門職の定義や基準を理解する

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提出物	20
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	80
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・看護は目に見えるものではありません。対象者の健康維持・回復のためにどのような役割があり、専門職業人としてあるべき姿に向かって何をすべきか、常に考えながら各領域の看護を学んで行きましょう。

□テキスト

・『系統看護学講座 専門分野Ⅰ　基礎看護学[1]　看護学概論』茂野香おる他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・「看護覚え書」　現代社
「看護の基本となるもの」　日本看護協会出版会

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	看護教育について	3 年間の教育課程と教育目標
2	看護とは何か	看護の概念
3	看護の歴史	看護の動向
4	看護の理論家	F. ナイチンゲールの看護
5	看護の理論家	ヘンダーソンの看護
6	看護の機能と役割	ベナーの看護
7	看護の対象	発達段階　健康　（ヘルスプロモーション）
8	看護の対象	生活者の暮らし
9	対象理解と看護	健康障害と看護
10	看護の実践	看護判断に基づく実践
11	専門職としての看護師	法律　倫理綱領
12	チーム医療	多職種との連携・協働
13	チーム医療	看護サービス提供の場
14	専門職とは	専門職としての看護　看護の業務と義務
15	総括　終講試験	筆記試験

科目名	看護倫理			担当教員		伊東由美		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	大学病院に６年間の勤務。障害児通園・保育園勤務５年間の経験をもとに専門家である意味を考えられるような授業を行う。						

□位置付け

専門分野の基礎看護学に位置づける。看護倫理は各領域の看護学においても多段階で学び更に実践の場でも学ぶことである。まずは倫理に関心を持ち看護を考えるために設定した。

□授業の目的

看護実践の専門家として倫理とは何か考え、「よい看護師とは」「よい看護の実践とは」を考える基礎的能力を学習する。

□授業の到達目標

１．看護の現場にある倫理的課題に「気づく」ことができる。
２．倫理的課題を分析するために「参照すべき手がかり」を見出すことができる。
３．倫理的課題の解決のために「何をすべきか」を考えられる

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	20
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	80
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・様々な具体的事例を通して看護者の倫理について自分に問いかけながら学んで行きましょう。

□テキスト

・系統看護学講座　「看護学概論」医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	倫理の基礎	倫理とは　職業倫理　看護の倫理綱領
2	倫理原則	生命倫理の４原則　看護実践のための５原則
3	患者中心とは	患者の権利　インフォームドコンセント　意思決定支援
4	倫理的問題へのアプローチ	倫理的ジレンマ
5	ケアの倫理	ケアリング
6	情報とプライバシー	守秘義務
7	思いやりの心	コンパッション　　まとめ
8	終講試験	筆記試験

科目名	基本技術			担当教員		岡野全子		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	12 年間の外科・内科の診療科での看護実践を通して身につけた知識技術態度を講義する。						

□位置付け

専門分野に位置づけ基礎看護学実習Ⅱの履修要件となる科目である。看護を実践する上で土台となる技術を学ぶ。

□授業の目的

基本看護技術は、看護実践における看護技術の意義や概要を学ぶとともに、看護実践の基本となる技術について学習する。基本技術の項目として、「観察」「報告・記録」の原則と方法、バイタルサイン測定の方法、看護場面における対象の安全・安楽を守る技術についての知識と技術を学ぶ。

１．看護技術を学習する意義と学習方法を理解する。
２．対象の安全安楽を守る意義と基本的な方法を理解する。
３．対象の健康状態を把握するために必要な方法を理解する。
４．基礎的な身体観察のための技術を習得する。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		–
試験等	提出物	
	作文	–
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・バイタルサイン測定では、解剖生理の知識も必要となります。事前学習として指示された内容をしっかり学習して授業に臨むようにしましょう。

□テキスト

・系統看護学講座専門Ⅰ基礎看護学②
基礎看護技術Ⅰ

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1		看護実践における看護技術とは何か
2		1. 感染防止の技術①
3		校内実習：手洗いと防護具の取り扱いの実際
4		１．感染防止の技術②
5		１．安全確保の技術　、医療とコミュニケーション①
6		１．医療とコミュニケーション②
7		１．観察　－看護的な視点からの観察、記録
8		１．ヘルスアセスメントの意義と技術
9		１．バイタルサイン　　①体温
10		１．バイタルサイン　　②呼吸　③脈拍
11		１．バイタルサイン　　④血圧
12		１．バイタルサイン　　④血圧
13		１．記録、報告
14		校内実習：バイタルサイン測定
15		終講試験

科目名	ヘルスアセスメント			担当教員		岡本・吉津		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義・演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師の臨床経験等をふまえて授業を展開する。臨床医による演習も交え、実践に役立つ側面も重視する。						

□位置付け

専門分野、基礎看護学の科目として位置付け、２年次の基礎看護実習Ⅲの履修要件科目である。
対象者の健康と生活に関する情報の意図的な収集や正確な査定は、看護の質や方向性を決定する重要点である。そのために看護師は対象者とのコミュニケーション技術を修得する必要がある。また、対象者の身体的状況について判断できる系統的なフィジカルアセスメントの方法を修得する必要がある。

□授業の目的

ヘルスアセスメントの基本的な知識・技術・態度を学修する。

□授業の到達目標

１．対象の健康状態を評価する意義と方法を理解する。
２．看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解する。
３．看護場面における基礎的な面接技術を修得する。
４．基本的なフィジカルイグザミネーションを実施でき、正常な身体状況を理解する。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提出物	20
	作文	－
	随時試験	5
	終講試験	75
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・臨地実習、卒業後の看護実践に欠かせない授業内容です。修得し、看護へ大いに活かしましょう。

□テキスト

・『系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ』医学書院
・看護がみえる vol.3 ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ　ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ

□参考図書・資料・参考ホームページ

・ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄ　NOUVELLE　HIROKAWA
・『はじめてのﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ』ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社
・ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ　医学書院　　他

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	ヘルスアセスメントとは	ヘルスアセスメント、コミュニケーション
2	全体の概観	全体の概観(ｱｾｽﾒﾝﾄの枠組み、ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝｽﾞ、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ)
3	系統的ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ	フィジカルアセスメント(ＩＰＰＡ、頭頚部)
4	系統的ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ	フィジカルアセスメント(呼吸器)
5	系統的ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ	フィジカルアセスメント(循環器、腹部)
6	系統的ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ	フィジカルアセスメント(筋/骨格/神経、乳房)
7	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの実際	フィジカルアセスメントの演習
8	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの実際	フィジカルアセスメントの演習
9	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの実際	フィジカルアセスメントの演習
10	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの実際	フィジカルアセスメントの演習
11	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの実際	フィジカルアセスメントの演習
12	事例検討	事例検討(コミュニケーション)
13	事例検討	事例検討(呼吸器)
14	事例検討	事例検討(腹部)
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	生活を整える技術Ⅰ			担当教員		岡本・岡野		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義・演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師の臨床経験等をもとに看護技術に必要な知識・技術・態度が修得できるよう授業を行う。						

□位置付け

専門分野　基礎看護学に位置づけ、各看護学及び地域・在宅看護論の基礎となる対象の生活の状態に応じた看護の基本を学ぶ。また、人間をどのようにとらえ、健康上の問題を分析するのかを学ぶとともに、看護を実践するための方法として基本となる技術を学ぶ。

□授業の目的

人は生活行為や行動に応じて空間や場所を使い分けて、健康的な日常生活を持続している。しかし疾病や機能低下が生じると、限られた行動範囲の中で様々な生活欲求を満たすことを余儀なくされる。

本授業では看護の対象を「生活者」として捉え、日常生活行動が制限された人の生活（特に「環境」「清潔」「衣生活」）を整えるための知識と技術、看護師に必要な態度を修得することを目的としている。

□授業の到達目標

＜環境＞
1．療養環境を整える意義が説明できる
2．安全で快適な療養環境の構成要素が説明できる
3．療養環境のアセスメントができる
4．基礎的な療養環境を整える技術が実施できる
5．療養環境の調整を行い、自己課題を記述できる

＜清潔・衣生活＞
1．清潔の援助や衣生活の援助を行う意義が説明できる
2．清潔・衣生活のアセスメントができる
3．基礎的な清潔の援助と衣生活の援助が実施できる
4．清潔・衣生活の援助を実施して今後の課題を記述できる

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	10
	作文	－
	随時試験	－
	終講試験	90
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

校内実習では看護師に必要な技術や態度を学びます。授業で学ぶ知識を活用して積極的に取り組んでください。

□テキスト

『系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ』医学書院
『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』メディックメディア

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方	
1	「環境」 環境調節 臥床患者のリネン交換	講義/演習	療養環境とは、環境調節援助
2		演習	事例説明、リネン交換の技術練習
3		演習／校内実習	援助計画、技術確認、「環境」まとめ
4			
5	「衣生活」寝衣交換	講義/演習	実施前のアセスメント、基礎的な技術の実施
6	「清潔」 部分浴①足浴	講義/演習	実施前のアセスメント、実施中～後の観察、部分練習
7		校内実習	基礎的な技術の実施
8			
9	「清潔」 部分浴②洗髪	講義/演習	実施前のアセスメント、実施中～後の観察、部分練習
10		校内実習	基礎的な技術の実施
11			
12	「清潔・衣生活」 清拭・寝衣交換	講義/演習	実施前のアセスメント、実施中～後の観察、部分練習
13		校内実習	基礎的な技術の実施
14			
15	終講試験	筆記試験	

科目名	生活を整える技術Ⅱ			担当教員		渡邊明子		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として病院に 10 年勤務。臨床経験をもとに看護技術に必要な知識・技術が修得できるよう講義と実習を行う。						

□位置付け

専門分野に位置づける。基礎看護学は、地域・在宅看護論及び各看護学の基礎となる対象の生活の状態に応じた看護の基本を学ぶ。よって、基礎看護学実習Ⅱの履修要件となる科目である。また、人間をどのようにとらえ、健康上の問題を分析するのかを学ぶとともに、看護を実践するための方法として基本となる技術を学ぶ。

□授業の目的

健康的な日常生活は持続されるべきだが、疾病や機能低下が生じると制限されるようになる。看護の対象を生活者として捉え、日常生活行動を制限された人に援助するためには、生活を支える援助技術の基本について理解し、技術を習得する必要がある。

人間にとっての「活動・休息」「食」「排泄」の意義を理解し、運動・休息・食・排泄を整えるための基本的な技術を習得する内容として設定した。

□授業の到達目標

１．健康生活と運動・休息の関連の理解と基本的な技術を修得する。
２．健康生活と食の関連の理解と安全な援助技術を修得する。
３．健康生活と排泄の関連の理解と基本的な技術を修得する。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提出物	10
	作文	–
	随時試験	–
	終講試験	90
	平常の授業状況（　　）	–
	その他（　　）	–
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・校内実習では互いに看護師役や患者役となり、正確な技術や看護師に必要とされる態度を学びます。講義での知識を活用して積極的に取り組んでください。

□テキスト

・『系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［３］基礎看護技術Ⅱ』有田清子他　医学書院
・看護が見える①基礎看護技術メディックメディア

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	活動の意義	活動の基礎知識
2	活動を促す援助	ボディメカニクス
3	体位	ポジショニング、体位変換①（体験学習）
4	運動の援助方法	校内実習：体位変換②
5	運動の援助方法	校内実習：移動のための援助：車椅子、ストレッチャー
6	休息の意義	睡眠の生理、睡眠を促すための援助
7	食の意義	食の基礎知識
8	食のアセスメント	食を取り巻く職種、栄養としての食
9	食事介助の原則と方法	食事介助が必要な対象理解と援助
10	食事介助	校内実習：食事介助
11	排泄の意義	排泄の基礎知識
12	排泄における看護師の役割	排泄に必要な器具の理解
13	排泄機能障害時の看護	便秘と下痢それに伴う看護
14	床上排泄の援助	校内実習：便器介助、陰部洗浄
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	診療・処置に伴う技術			担当教員		二階堂琢馬		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	急性期病院における6年間の勤務　リハビリテーション病院2年の経験を基に診療・処置に伴う看護師として必要な技術を中心に講義する						

□位置付け

専門分野　基礎看護学に位置づける。各看護学及び地域・在宅看護論の基礎となる対象の健康状態の理解や生活の状態に応じた看護の基本を学ぶ。さらに看護師として倫理的な判断と実践につながる基礎的能力を養い、医療環境を整える基本的技術を学ぶ。

□授業の目的

診療を支える看護にとって、検査を安全かつ正確に実施または支援する技術や治療・処置に伴う援助技術を理解することは重要である。ここでは、治療・検査における看護技術の意義を理解し、基本的な技術を習得する。

□授業の到達目標

１．診断過程における診察の意義を理解し、診察時の援助方法を理解する
２．検査を安全かつ正確に行うための援助方法を理解する
３．健康障害を持つ人に対する治療法を理解し、基礎的な援助方法を理解する

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提出物	–
	作文	–
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・診療、処置を安全に行うためには基本的な解剖生理学の知識が重要になります。本講義の知識だけでなく既習の知識も復習して学習に臨みましょう。

□テキスト

・『系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ』医学書院
・『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』メディックメディア
・『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』メディックメディア

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	診療に伴う技術	診療に伴う看護師の役割、包帯法
2	呼吸障害に対する技術	酸素吸入について
3	呼吸障害に対する技術	校内実習：酸素吸入
4	呼吸障害に対する技術	吸入・吸引について
5	呼吸障害に対する技術	校内実習：吸入・吸引
6	呼吸障害に対する技術	校内実習：吸入・吸引
7	排泄障害に対する援助	導尿、浣腸について
8	排泄障害に対する援助	校内実習：浣腸
9	排泄障害に対する援助	校内実習：浣腸
10	排泄障害に対する援助	校内実習：導尿
11	排泄障害に対する援助	校内実習：導尿
12	検査時の看護	生体検査、検体検査
13	検査の方法	採血
14	検査の方法	校内実習：採血
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	看護過程展開の技術			担当教員		渡邊明子		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	総合病院にて外科・内科看護師として 10 年勤務。看護実践に必要な看護展開の技術の基本や事例を用いての看護展開の方法の講義を行い、看護実践に適応できる能力を養うために講義を行う。						

□位置付け

専門分野　基礎看護学に位置づけ、2 年次の基礎看護学実習Ⅲの履修要件となる科目である。各看護学の基礎となる対象の健康状態に応じた看護の基本を学び、看護過程の展開の技術においても看護師になったときの思考過程の基礎を学ぶ科目である。

□授業の目的

看護過程は、看護師があらゆる看護現象を対象として看護を提供する際に用いる科学的思考過程である。この思考過程により看護師はケアの受け手のニードおよび問題を的確に把握し、看護計画を立て、効率かつ効果的に看護を提供し評価することができる。
ここでは看護過程の技術の基本を学習し、看護実践に適応できる能力を養う。

□授業の到達目標

１．看護過程の概要を理解できる
２．看護過程の基礎となる思考過程を理解できる
３．臨床実習における看護過程の活用法が理解できる

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	10%
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	90%
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント
・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。提出物に関しても評価の対象とします。

□学生へのメッセージ
・看護過程はこの講義の中だけで完結するのではなく、実習で出会った対象を通して学びを深めていくようになります。
第一歩として看護過程の理解につながることを望んでいます。

□テキスト
・基礎看護技術Ⅰ

□参考図書・資料・参考ホームページ
・その都度、お伝えします。

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	看護過程とは	看護過程の各要素
2	アセスメントとは	収集の方法、主観的情報、客観的情報
3	アセスメントの枠組み	アセスメントの枠組みの理解
4	アセスメントの実践	事例に基づきアセスメント　個人ワーク
5	アセスメント	個人ワークの解説　全体像
6	全体像	全体像の書き方　グループワーク
7	関連図	関連図の作成　　グループワーク
8	看護問題の明確化	看護問題とは
9	看護問題の優先順位	優先順位と計画の立て方
10	実施・評価	実施・評価の書き方
11	看護問題・計画作成の実践	事例に基づき個人ワーク
12	看護計画立案	事例に基づきグループワーク
13	看護計画	グループワーク発表
14	看護問題の評価・まとめ	評価記載
15	まとめ　筆記テスト	筆記試験

科目名	臨床看護総論			担当教員		佐々木元子		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として病院で 16 年勤務（手術室 10 年）健康水準に応じた看護、臨床判断について実務経験をもとに講義演習を行う。						

□位置付け

専門分野　基礎看護学に位置づけ、2 年次の基礎看護学実習Ⅲの履修要件となる科目である。臨床判断のプロセスを理解し、看護への活用のための基礎的能力を養う科目

□授業の目的

臨床でよく遭遇する「症状」に焦点を当て、症状のメカニズム、生体反応の変化や特徴を健康水準の看護と連動させ、シミュレーションを通し知識を活用、観察し情報収集するための基礎的な知識を学ぶ。

□授業の到達目標

・健康水準とそれに応じた看護の基本を理解する。
・機能障害から起こる症状とそれに応じた看護の基本を理解する。
・既習の知識を統合し対象の状態に気づくことができる。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提出物	20
	レポート（普通救命講習）	10
	随時試験	
	終講試験	60
	平常の授業状況（　　）	
	その他（演習・グループワーク）	10
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・「気づき」を大切にした科目になります。思たことや考えたことを積極的に発信していきましょう。
・必要な課題に事前に取り組み授業に臨みましょう。

□テキスト

系統看護学講座　専門分野Ⅰ臨床看護総論　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ成人看護学［2］呼吸器　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ成人看護学［8］腎・泌尿器　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	健康水準と看護	概論　健康期
2	健康水準と看護	急性期　回復期
3	健康水準と看護	慢性期　終末期
4	健康水準と看護	普通救命講習（豊島消防署）
5	健康水準と看護	普通救命講習（豊島消防署）
6	臨床判断	「気づき」トレーニング
7	生命維持機能障害と看護	「呼吸困難」　講義
8	生命維持機能障害と看護	事例検討：グループワーク
9	生命維持機能障害と看護	事例検討：グループワーク
10	生命維持機能障害と看護	演習（シミュレーション）
11	栄養代謝障害と看護	「浮腫」　講義
12	栄養代謝障害と看護	事例検討：グループワーク
13	栄養代謝障害と看護	事例検討：グループワーク
14	栄養代謝障害と看護	演習（シミュレーション）
15	終講試験	・筆記試験

科目名	地域・在宅看護概論			担当教員		伊東由美		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容							

□位置付け

専門分野、基礎看護学の次に位置づける。3 年次の地域・在宅看護論実習Ⅱの履修要件の科目である。看護は病院などの施設だけではなく地域に暮らす人々を対象とすることを学ぶ科目である。本授業では地域・在宅看護論の始めとして人々が住み慣れた地域で暮らす事について考えられるように設定した。

□授業の目的

看護の対象は病院に入院する患者のみでない事を理解し、看護の対象は地域で暮らす人々である事を理解する。
人々が住み慣れた地域で暮らすための看護の在り方を学習する目的とする。

□授業の到達目標

1．地域・在宅看護の目的を理解できる。
2．住み慣れた地域で暮らす意味を理解できる。
3．健康な暮らしを支える看護の役割を理解できる。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	20
	作文	
	随時試験	
	終講試験	80
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・地域・在宅看護論実習Ⅰと連携する講義です。事前学習にもつながります。復習して臨んで下さい。

□テキスト

・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論①
・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論②

□参考資料

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	地域・在宅看護とは	地域・在宅看護の必要性・在宅看護の目的と役割
2	暮らすということ	地域の特性と暮らしの変化　演習
3	支えあって生きるとは	家族の支え・こどもの支え・近所の支え　コミュニティー
4	地域包括ケアシステムとは	自助・共助・互助・公助
5	暮らしを支える	フィールドワーク
6	暮らしを支える	フィールドワークまとめ　演習
7	人々の暮らしを支えるとは	暮らしが健康に与える影響　看護の役割
8	終講試験	筆記試験

科目名	地域・在宅療養を支える看護			担当教員		小坂宣靖		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野に位置づけ地域・在宅看護概論の次に学ぶ科目である。3 年次における地域・在宅看護学実習Ⅱの履修要件となる科目である。地域で療養を支援するための社会資源や看護について学ぶ科目として設定した。

□授業の目的

地域で生活する療養者とその家族を理解し人々の暮らしを支えるための社会資源と看護の在り方を学ぶ。

□授業の到達目標

1．地域・在宅看護の対象の特性を理解できる。
2．在宅療養における家族の特徴と看護を理解できる。
3．地域での暮らしを支える社会資源を理解できる。
4．在宅看護の機能と役割について理解できる。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提出物	20
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	80
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・

□テキスト

・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論①
・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論②

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	地域・在宅看護の対象	地域・在宅における生活者と看護のつながり
2	地域・在宅看護の対象者	法制度　ライフサイクル　健康レベル
3	地域・在宅看護の対象者	疾患　障害レベル
4	地域・在宅看護の対象者	対象者の暮らし　（特養・グループホームなど・・）
5	地域・在宅療養の成立	療養条件　経済
6	療養を支える支援	アドバンス・ケア・プランニング
7	療養を支える支援	インフォーマルとフォーマルな支援　社会資源の活用と制度
8	療養を支える家族支援	療養を支える家族の現状
9	療養を支える家族支援	家族へのかかわり　家族へのアセスメント
10	療養を支える家族支援	地域療養を考える　　事例検討
11	療養を支える家族支援	地域療養を考える　　事例検討
12	療養を支える家族支援	地域療養を考える　　事例検討
13	地域・在宅看護の機能と役割	チームアプローチ
14	地域・在宅看護の機能と役割	多職種連携
15	終講試験	筆記試験

科目名	成人看護学概論			担当教員		長谷部由美		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容							

□位置付け

専門分野に位置づけ 2 年次の成人・老年看護学実習Ⅱの履修要件とする科目である。成人看護学の基本を学習する科目である。

□授業の目的

成人期は幅広く、社会の中でも重要な役割を担っている人々である。成人期にある人の特徴から健康問題をとらえ、その原因を生活の視点から考える。

また成人の健康課題のとらえ方成人看護に有用な理論について学ぶ。我が国の成人の保健問題の動向と保健対策を学ぶ。

□授業の到達目標

成人期の特徴を理解する。
成人各期の特徴を理解する。
成人の健康問題を理解する。
成人保健を理解する。
成人期にある人の健康増進・疾病予防のための看護を理解する。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提出物	10
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	90
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・成人期にある人は社会の中心であり身体的・精神的・社会的に人生のピークを迎え、維持し、徐々に老年期に向け衰退に向かっていきます。長い成人期にある人が健やかに生活するための看護を学びます。

□テキスト

・成人看護学概論　ヌーヴェルヒロカワ
・国民衛星の動向　厚生労働統計協会

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	成人看護学の概念	成人看護の目的
2		成人看護の対象
3		成人看護の方法
4	成人各期の発達段階と特徴	成人期の発達段階と特徴
5		成人期の発達段階と特徴
6		成人のヘルスプロモーション
7		成人のヘルスプロモーション
8		成人各期の健康障害の特徴
9	成人期の看護に有用な理論	ストレス理論
10		セルフケア理論
11		危機理論
12	保健医療福祉の現状と課題	保健医療福祉における動向と対策
13		保健医療福祉における動向と対策
14		グループワーク・討議・まとめ
15	まとめ・終講試験	記述式試験

科目名	老年看護学概論			担当教員		岡本隆行		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義・演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として５年以上勤務した臨床経験等に基づき、高齢者の特徴や高齢者を取巻く社会環境等について概説する。						

□位置付け

専門分野、老年看護学の科目で、成人・老年看護学実習Ｉの履修要件科目である。高齢化の進む日本では看護対象の多くを高齢者が占め、看護へのニーズは高い。他方、学生は老いに関して経験が乏しい傾向が強く、老年看護を学ぶ難しさがある。老年看護の専門的科目へつながる土台の科目として老年期を生きる人の特徴とその生活、加齢に伴う変化、高齢者を取り巻く家族や社会システム、健康の段階に応じた看護の場と機能等を学び、高齢者の看護へ関心と理解を持てる内容を設定する。

□授業の目的

高齢者の特徴、多様化する社会システム、看護を学修し、高齢者看護への関心と理解を深める。

□授業の到達目標

１．老年看護学の主な概念を理解する。
２．高齢者を取り巻く社会と主な社会保障を理解する。
３．加齢に伴う変化や主な病気を理解する。
４．療養生活とヘルスプロモーションを理解する。
５．高齢者のリスクマネジメントを理解する。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	50
	作文	－
	随時試験	－
	終講試験	50
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・特に現役生は、高齢者と関わりが殆ど無い人も増えつつあります。そういった学生背景もふまえて、高齢者への看護について気づき、学べるように授業を計画します。更なる老年看護の専門的な科目へつながる土台を当科目で築きましょう。

□テキスト

・『系統看護学講座　老年看護学』医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・『置かれた場所で咲きなさい』　渡辺和子　幻冬舎
・『九十歳。何がめでたい』　佐藤愛子　小学館
・『認知症の語り』 www.dipex-j.org/dementia/
・『国民衛生の動向』厚生労働統計協会

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	老いる、老いを生きる	加齢に伴う諸変化、老年期の発達課題
2 3	超高齢社会と社会保障	統計、保健医療福祉の動向、権利擁護
4	老年看護のなりたち	老年看護の発展、特徴的な理論・概念
5 6 7 8 9	加齢変化や病気とｱｾｽﾒﾝﾄ 生活機能を整える看護	加齢変化や病気とアセスメント ○外皮系　○感覚器系　○循環器系　○呼吸器系 ○消化器系　○内分泌系　○泌尿器系　○運動器系 ○脳神経系　○認知機能　○全身症状　○治療と看護　他 生活機能を整える看護 ○日常生活　○コミュニケーション
10	療養生活とﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ	検査、治療、予防、施設サービス
11	高齢者のﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	医療安全、脆弱性
12 13 14	高齢者の理解	トピックに応じたグループワーク
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	高齢者の生活と社会			担当教員		音山若穂		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野、老年看護学の１科目として位置づけ、特に心理的側面を中心に扱う。この科目は２年次の成人・老年看護学実習Ⅰの履修要件とする科目である。
最新の高齢社会白書などをもとに、少子高齢社会の傾向や高齢者の生活実態を学ぶ。また、高齢者の家族関係や地域社会との関係、対人関係の基本的スキルを学ぶ。対話形式の演習を通して、高齢者やその家族について理解を深める内容を設定する。

□授業の目的

高齢者やその家族への理解を深めること、将来、高齢者のこころの理解の助けになることを目的とする。

□授業の到達目標

１．社会の中で高齢者が生きる事を理解する。
２．高齢者の生活と家族・社会の支援について理解する。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提出物	－
	作文	－
	随時試験	－
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・試験は、基本的知識を問う問題 10 問程度、論述１～２問の予定です。

□テキスト

・『系統看護学講座　老年看護学』医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・高齢社会白書(高齢社会対策)、子ども・子育て白書(少子化対策)の最新資料参考
　→内閣府ホームページ。概要の一部は授業時に配布する。
・文献は講義中に適宜紹介する。

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	高齢社会の理解Ⅰ	老いを生きる、高齢社会の統計的輪郭、少子高齢化の実態
2	高齢社会の理解Ⅱ	団塊の世代の意識
3	高齢社会の理解Ⅲ	高齢者世帯と生活、健康状況、就業実態
4	未来の社会生活を予測してみる	グループワーク
5	高齢社会対策Ⅰ	エイジレス・ライフ、地域資源と社会参加
6	高齢社会対策Ⅱ	介護家族とその支援
7	高齢者、地域の絆づくりのための対話	グループワーク
8	終講試験	筆記試験

科目名	小児看護学概論			担当教員		保井理子		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	小児病棟と NICU を含む（５年）・特別支援学校の医療的ケア（２年）の看護から子どもと家族への看護実践能力と技術を教授する。						

□位置付け

専門分野で小児看護学の基盤として位置づける。現在の子どもと家族の概況や倫理的視点から小児看護の役割と課題を学ぶために設定している

□授業の目的

子どもの成長・発達および子どもを取り巻く環境・保健・福祉・法律、小児看護の概念について学ぶ

□授業の到達目標

子ども（乳児期から青年前期）の成長・発達の特徴を理解する
子どもを支える保健・福祉・法律を習得する
小児看護の目標と看護師の役割を理解する

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	40
	演習・レポート	
	随時試験	－
	修了認定試験	60
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ修了認定試験は受験できません。
・成績評価は、レポート、修了認定試験とする。

□学生へのメッセージ

・健康な子どもを理解できるように、さまざまな視点から資料や視聴覚教材を用いて講義をします。

□テキスト

・小児の発達と看護　小児看護学①（メディカ出版）
・国民衛生の動向

□参考図書・資料・参考ホームページ

・小児看護学　子どもと家族の示す行動への判断とケア（日総研）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	小児看護とは	・子どもについて・小児看護の特徴・子どもの看護活動
2	子どもの権利と看護	・子どもの医療、看護、権利の変遷　・小児看護と倫理的配慮
3	子どもの健康と安全	・子どもを取り巻く社会環境・子どもの事故と安全
4	子どもをめぐる法律と保健対策①	・母子保健と子育て支援・児童福祉
5	子どもをめぐる法律と保健対策②	・難病、障害児保健福祉
6	子どもをめぐる法律と保健対策③	・予防接種・学校保健施策・児童虐待の防止
7	子どもの成長・発達と看護①	・成長発達・乳児期の成長・発達と看護①
8	子どもの成長・発達と看護②	・乳児期の成長・発達と看護②
9	子どもの成長・発達と看護③	・幼児期の成長・発達と看護①
10	子どもの成長・発達と看護④	・幼児期の成長・発達と看護②
11	子どもの成長・発達と看護⑤	・学童期から青年前期の成長・発達と看護①・発育評価
12	子どもの成長・発達と看護⑥	・子どもの健康問題：グループワーク
13	子どもの成長・発達と看護⑦	・子どもの健康問題：グループワーク発表と評価
14	特別な状況にある子どもと家族への看護	・災害を受けた子どもと家族への看護 ・被虐待児と子どもへの看護
15	総括・定期試験	まとめ・筆記試験

科目名	母性看護学概論			担当教員		前田律子		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師、助産師として総合病院に 10 年間勤務。その後、母性看護学の臨地実習に従事。実例・経験をもとに講義を行う。						

□位置付け

専門分野に位置づけ 3 年次における母性看護学実習の履修要件となる科目である。母性看護学全体の導入的位置づけであり、生涯を通じての性と生殖に関する健康という大きな概念で捉えた科目。

□授業の目的

現代社会において母子をめぐる生活環境は著しく変化し、母性看護の役割はますます拡大されている。
生涯を通じての性と生殖に関する健康を守るという観点から母性看護の対象、役割を理解し「命」に対する畏敬の念、慈しむ心を育んでいく。

□授業の到達目標

１．母性看護の主な概念について理解する
２．母性看護における倫理について理解する
３．母性看護の動向と法、施策について理解する
４．母性看護の対象を理解する
５．ライフサイクル各期にある人の特徴と看護について理解する

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	95
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　GW 参加状況　）	5
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・知識として身につける内容と自己の感性に気づき育んでいくべき内容が含まれます。常に自己の考えを問いながら学んで下さい。

□テキスト

・『系統看護学講座　専門分野Ⅱ
　母性看護学［1］　母性看護学概論
　　森 恵美他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・国民衛生の動向　厚生労働統計協会

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	母性看護の主な概念	母性とは、父性とは
2	母性看護の主な概念	愛着行動（アタッチメント）と相互作用
3	母性看護の主な概念	セクシュアリティ
4	母性看護の主な概念	リプロダクティブヘルス／ライツ
5	母性看護と倫理	母性の権利と擁護
6	母性看護と倫理	母性看護における生命倫理諸問題
7	母性看護の動向と法、施策	歴史的変遷、近代社会と母性看護
8	母性看護の動向と法、施策	母子保健統計からみた動向
9	母性看護の動向と法、施策	母性を保護する法律
10	母性看護の動向と法、施策	子育て支援、対象をとり巻く環境
11	母性看護の対象	形態、機能の変化
12	母性看護の対象	女性、家族のライフサイクル
13	ライフサイクル各期の特徴と看護	思春期・更年期の変化と健康問題
14	ライフサイクル各期の特徴と看護	成熟期の健康問題・まとめ
15	総括・試験	筆記試験

科目名	精神看護学概論			担当教員		岡野・渡辺		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	渡辺：精神科病院において精神看護専門看護師として勤務。その経験を踏まえ、実際の病院臨床の現状や事例を活用した講義を行う。						

□位置付け

専門分野に位置づけ２年次の精神看護学実習の履修要件となる科目である。精神看護学の基礎となる考え方、概念を修得する科目

□授業の目的

人間の健康な心の発達とそれに影響を与える要因を理解し、現代社会における精神的健康の保持・増進への援助に必要な知識を学習する。精神とストレス、危機について学習し、健康に及ぼす影響と介入の方法について学習する。精神に健康障害をもつ人がたどってきた歴史を概観し、現代の社会が担う課題に気付き、看護師の役割について理解を深める。

□授業の到達目標

健康なこころの考え方、人間の心理社会的な成長について理解する。精神看護学に必要な諸概念がわかる。また、精神医療の歴史の中で精神障害者がどのように受け止められてきたのか理解し、精神障害者をまもるための法・制度について理解する。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提出物	
	レポート	10
	随時試験	
	終講試験	90
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・私たちはどのようにこころのコントロールをし、環境と調和をとりながら過ごしているのか学んでほしいと思います。自分の生活で体験していることと重ね合わせながら学びましょう。

□テキスト

・新体系　看護学全書　精神看護学②
精神障害を持つ人の看護　メヂカルフレンド社

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	精神看護学の理解	精神看護と精神科看護、精神的健康についての考え方
2	こころの健康と精神障害	精神障害のとらえ方、人間の心のはたらき（S.フロイト）
3	精神の発達と健康	映画「奇跡の人」
4	精神の発達と健康	映画「奇跡の人」
5	精神の発達と健康	ライフサイクルと発達課題（エリク・H・エリクソン）
6	社会とメンタルヘルス	現代社会における精神保健における主な問題:演習
7	社会とメンタルヘルス	現代社会における精神保健における主な問題:演習
8	精神の危機状況と精神保健	ストレスとコーピング
9	精神の危機状況と精神保健	危機理論（アギュララ）
10	家族と精神の健康	家族のライフサイクル、家族システムの考え方
11	精神保健医療福祉の歴史と現在	精神医療の歴史
12	精神保健医療福祉の歴史と現在	精神障害をもつ人を守る法・制度
13	対人関係論	ペプロウ看護論
14	対人関係論	感情労働とプロセスレコード
15	総括　終講試験	筆記試験

科目名	キャリアデザインⅠ			担当教員		1年生担任		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野　看護の統合と実践に位置づける。1年次に設定し入学の目的を明らかにし、自己の目標を定める事を目的として設置した。あこがれの職業から専門職業人を目指す事の意味を自覚し学修に臨むことができるように規律・時間管理を始めとする社会人としてのマナーを身につける。

□授業の目的

看護科の学生として自己の目標を確認し専門学校における「学び方」について学ぶ事を目的とする。
専門学校の教育は、暗記中心ではなく積み上げ学習により、主体的に学ぶ事の大切さを認識する事。他学年との交流を通し目標を具現化しながら主体性をもった学び方の習得を目的とする。

□授業の到達目標

１．何故専門職業人を目指すのか文章化できる。
２．自己学習の重要性が理解できる。
３．規律・時間管理に基づく行動ができる。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	50
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	
	平常の授業状況（　　）	50
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ評価を受ける事はできません。

□学生へのメッセージ

・この科目は、看護師を目指すための自らの学びと課題を各自が考えて修得することが重要です。学生間で積極的に意見交換し、学生生活ガイドに掲げる１年次の目標へ到達できるよう努めましょう。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ
（必要に応じて授業で伝えます）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	専門職業人とは　ポートフォリオ
2	交流学習（学年交流）	自己学習方法　「先輩の学び方を知る」3学年で意見交換
3	テーマ学習	プレゼンテーション　医療に関するテーマごとに学ぶ
4	テーマ学習	学びの発表　学年到達目標の中間評価
5	交流学習（学年交流）	2年生発表へ参加　意見交換
6	交流学習（学年交流）	3年生と意見交換
7	学力測定	各自で学力を評価
8	１年間のまとめ	学年到達目標の最終評価と次年度に向けた検討

科目名	基礎看護学実習Ⅰ			担当教員		渡邊明子		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として5年以上勤務。経験をもとに、基礎看護学を基盤とし対象の状態に応じた看護が実践できるように支援する。						

□位置付け

専門分野　臨地実習に位置づける。初回の病院実習である。看護の対象である人間を捉え、講義や校内実習で学んだ基礎知識や、看護技術を統合して初めて対象に援助を実施することにより対象の理解と技術の習得を目指す。

□授業の目的

入院による生活への影響を捉えた上で対象を理解する

□授業の到達目標

1．対象の入院中の生活環境がわかる
　1）病院内の環境の特徴や工夫がわかる
　2）対象の療養環境を知ることができる
　3）病室・病床の環境を調整できる
2．対象の入院に対する思いや基本的ニードを考えることができる
3．対象の入院による生活への影響を考えることができる
4．看護師が行う看護ケアに同行し看護活動の実際を知ることができる
5．相手の立場に立ったコミュニケーションの図り方がわかる
　1）コミュニケーションをはかるための基本的行動がとれる
　2）対象の言動の意味を考えることができる
5．専門職業人としての態度がわかる
　1）看護学生として自覚と責任を持った行動がとれる
　2）自己の行動の振り返りができる
　3）自己の課題が見いだせる

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		○
試験等	提出物	○
	レポート	○
	随時試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況（実習態度）	○
	その他（実践）	○
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習時間の4/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終実習レポート提出が決められた時間に提出できない場合は減点となります。
実習目標に沿い○の項目を総合的に評価します。

□学生へのメッセージ

　看護学生になって2度目の実習になります。療養環境をや対象の思いについて、新鮮な気持ちで感じることや考えることが、学びの第一歩になることを期待しています。

□テキスト

基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ他

□参考図書・資料・参考ホームページ

・1年生前期の講義資料

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	基礎看護学実習Ⅰ	実習オリエンテーション、技術練習
2		病棟オリエンテーション、療養環境の見学、コミュニケーション
3		受け持ち患者担当の看護師に同行し看護実践の見学
4		環境整備、情報収集、ケアの見学・実施
5		環境整備、情報収集、ケアの見学・実施
6	↓	合同カンファレンス、まとめ

科目名	基礎看護学実習Ⅱ			担当教員		渡邊明子他		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として 5 年以上勤務。経験をもとに、基礎看護学を基盤とし対象の状態に応じた看護が実践できるように支援する。						

□位置付け

看護の対象である人間を捉え、講義や校内実習で学んだ基礎知識や、看護技術を統合して初めて対象に援助を実施することにより対象の理解と技術の習得を目指す。

□授業の目的

生活上の基本的ニーズの充足にむけて日常生活援助を安全・安楽に実施する。

□授業の到達目標

1．対象の状態に応じた基本的ニーズを把握できる。
　1）アセスメントの枠組みにそって情報収集する。
　2）集めた情報をアセスメントする。
　3）対象の状態が日常生活に及ぼす影響を把握することができる。
2．対象の状態に応じた日常生活援助が実施できる。
　1）対象の安全・安楽・自立を考えて実施できる。
　2）対象の反応をとらえることができる。
　3）実施した内容を報告・記録ができる。
　4）実施した援助を振り返ることができる。
3．対象との良好な人間関係を築くことができる。
　1）対象の言動を受け止め、その意味を考えることができる。
　2）対象の苦痛・悲しみ・喜びなどを受け止めることができる。
　3）自分の考えを伝えることができる。
4．専門職業人としての態度がわかる。
　1）対象の価値観について考えることができる。
　2）看護学生として、自覚と責任を持った行動がとれる。
　3）自己の振り返りができる
　4）実習の学びから課題を見出し、継続した学習につなげることができる。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	レポート	
	随時試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況（実習態度）	20
	その他	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習時間の 4/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終提出物が決められた時間に提出できない場合も、評価を受けられません。

□学生へのメッセージ

講義や校内実習で学んだことを活かし、対象にとって安全・安楽な看護とは何か一緒に考えていきましょう。

□テキスト

基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ他

□参考図書・資料・参考ホームページ

・1 年生前期の講義資料

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	基礎看護学実習Ⅱ	実習オリエンテーション、技術練習
2		病棟オリエンテーション、情報収集、援助の見学
3		病棟の看護計画に沿った援助の見学、情報収集
4		病棟の看護計画に沿った援助の見学・実施、情報収集
5		情報整理
6		計画した看護の実施
7		計画した看護の実施
8		合同カンファレンス

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅰ			担当教員		二階堂・伊東		単位数	1
対象学科	看護			学年	1	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野・臨地実習　地域・在宅看護論実習に位置づける。看護を学ぶ初学の段階において看護の対象は「地域に暮らす人々」を意識づけるために設定している。

□授業の目的

看護の対象である地域で暮らす人々を知り支援活動の実際を知るための実習である。学校近隣の地域を知り、人々の暮らしを支える看護の役割を学習する。

□授業の到達目標

１）地域包括支援センターの特徴を理解できる。
２）地域で生活する高齢者の暮らしがわかる。
３）暮らしを支える看護の役割を知る。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		○
試験等	提出物	○
	レポート	○
	随時試験	
	終講試験	
	平常の授業状況（態度）	○
	その他（事前学習・実践）	○
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習時間の４/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終実習レポート提出が決められた時間に提出できない場合は減点となります。
実習目標に沿い○の項目を総合的に評価します。

□学生へのメッセージ

・学生になって初めての実習になります。今まで知らなかった、地域に暮らす人々を看護の対象者として考える機会としましょう。地域や施設の人々、利用者の方々には礼節をわきまえて行動しましょう。

□テキスト

・専門分野　地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論Ⅰ

□参考図書・資料・参考ホームページ

・豊島区・北区ホームページ・施設ホームページ・
・認知症高齢者資料他

□授業計画

日数	テーマ	授業の内容、進め方
1	実習準備	地域の特徴･施設の目的･設置目的の背景　事業内容とその意味
2	施設実習	豊島区・北区地域包括支援センター、グループホームで実習
3	施設実習	豊島区・北区地域包括支援センター、グループホームで実習
4	学内実習	まとめ
5	学内実習	各施設ごとに学習発表会

看 護 科　　２年生

看護科　2024年度生カリキュラム

科目区分		教育内容		科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計	
履修方法	科目内容					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
登録指定科目	基礎科目	基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	論理学Ⅰ	講義	1	15					1	15
				論理学Ⅱ	演習	1	15					1	15
				情報科学	演習	1	15					1	15
				情報リテラシー	講義	1	15					1	15
				文学	講義	1	30					1	30
				心理学	講義	1	30					1	30
				人間関係論Ⅰ	講義	1	15					1	15
				人間関係論Ⅱ	演習	1	15					1	15
				環境生態学	講義	1	15					1	15
				運動と健康	演習	1	15					1	15
				教育学	演習	1	30					1	30
				英会話	演習	1	30					1	30
				家族社会学	講義	1	30					1	30
				社会学	演習			1	30			1	30
			小　計			13	270	1	30			14	300
	専門科目	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅱ	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅲ	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅳ	講義	1	30					1	30
				生化学	講義	1	30					1	30
				栄養学	講義	1	30					1	30
			疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	講義	1	30					1	30
				病態生理と治療（循環・呼吸・血液）	講義	1	30					1	30
				病態生理と治療（消化器・代謝）	講義			1	30			1	30
				病態生理と治療（運動・脳神経・眼）	講義			1	30			1	30
				病態生理と治療（腎・泌尿・免疫）	講義			1	15			1	15
				病態生理と治療（感覚器）	講義			1	15			1	15
				病態生理と治療(小児)	講義			1	15			1	15
				臨床放射線医学	講義			1	15			1	15
				臨床薬理学	講義			1	30			1	30
				微生物学	講義	1	30					1	30
			健康支援と社会保障制度	医療概論	講義	1	15					1	15
				公衆衛生学	講義			1	30			1	30
				生命倫理	演習					1	15	1	15
				社会福祉	講義			1	30			1	30
				関係法規	講義					1	30	1	30
				生活科学	講義	1	15					1	15
			小　計			11	300	9	210	2	45	22	555
		専門分野	基礎看護学	看護学概論	講義	1	30					1	30
				看護倫理	講義	1	15					1	15
				基本技術	演習	1	30					1	30
				ヘルスアセスメント	演習	1	30					1	30
				生活を整える技術Ⅰ	演習	1	30					1	30
				生活を整える技術Ⅱ	演習	1	30					1	30
				診療・処置に伴う技術	演習	1	30					1	30
				与薬の技術	演習			1	30			1	30
				看護過程展開の技術	演習	1	30					1	30
				臨床看護総論	講義	1	30					1	30
				臨床看護技術	演習			1	30			1	30
			地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	講義	1	15					1	15
				地域・在宅療養を支える看護	講義	1	30					1	30
				地域・在宅療養と多職種連携	講義			1	15			1	15
				地域・在宅療養者の健康状態に応じた看護	講義			1	15			1	15
				在宅看護技術	演習			1	15			1	15
				地域・在宅看護過程	演習			1	15			1	15

科目区分		教育内容		科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計	
履修方法	科目内容					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
登録指定科目	専門科目	専門分野	看護学 成人	成人看護学概論	講義	1	30					1	30
				健康危機状況にある成人の看護	演習			1	30			1	30
				侵襲的治療を受ける成人の看護	演習			1	30			1	30
				セルフケア再獲得に向けての成人の看護	演習			1	30			1	30
				セルフマネジメントを必要とする成人の看護	演習			1	30			1	30
				緩和ケアを必要とする人の看護	講義			1	30			1	30
			看護学 老年	老年看護学概論	講義	1	30					1	30
				高齢者の生活と社会	講義	1	15					1	15
				高齢者の日常生活援助	演習			1	30			1	30
				高齢者の健康障害時の看護	講義			1	30			1	30
			看護学 小児	小児看護学概論	講義	1	30					1	30
				小児の発達段階に応じた看護	演習			1	30			1	30
				小児の健康状態に応じた看護	講義			1	30			1	30
				小児のアセスメントと看護	演習			1	15			1	15
			看護学 母性	母性看護学概論	講義	1	30					1	30
				妊娠期・分娩期の看護	演習			1	30			1	30
				産褥期・新生児の看護	演習			1	30			1	30
				生殖機能障害のある患者の看護	講義			1	15			1	15
			看護学 精神	精神看護学概論	講義	1	30					1	30
				精神に障害を持つ人の理解	講義			1	15			1	15
				精神看護の基本技術	演習			1	30			1	30
				精神に障害を持つ人の生活と看護	演習			1	30			1	30
			看護の統合と実践	診療の補助技術における安全	演習			1	30			1	30
				臨床看護の実践Ⅰ	演習					1	15	1	15
				臨床看護の実践Ⅱ	演習					1	15	1	15
				臨床看護の実践Ⅲ	演習					1	15	1	15
				看護研究	演習					1	30	1	30
				看護管理	講義					1	15	1	15
				国際協力と災害看護	演習					1	15	1	15
				キャリアデザインⅠ	演習	1	15					1	15
				キャリアデザインⅡ	演習			1	15			1	15
				キャリアデザインⅢ	演習					2	30	2	30
			小計			18	480	24	600	8	135	50	1,215
			臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	45					1	45
				基礎看護学実習Ⅱ	実習	1	45					1	45
				基礎看護学実習Ⅲ	実習			2	90			2	90
				地域・在宅看護論実習Ⅰ	実習	1	45					1	45
				地域・在宅看護論実習Ⅱ	実習					2	90	2	90
				成人・老年看護学実習Ⅰ	実習			1	45			1	45
				成人・老年看護学実習Ⅱ	実習			1	45			1	45
				成人・老年看護学実習Ⅲ	実習					2	90	2	90
				成人・老年看護学実習Ⅳ	実習					2	90	2	90
				成人・老年看護学実習Ⅴ	実習					2	90	2	90
				小児看護学実習	実習					2	90	2	90
				母性看護学実習	実習					2	90	2	90
				精神看護学実習	実習			2	90			2	90
				統合実習	実習					2	90	2	90
			小 計			3	135	6	270	14	630	23	1,035
合 計						45	1,185	40	1,110	24	810	109	3,105

※看護科の卒業には修業年限以上在学し、109単位の修得が必要。

科目名	社会学			担当教員		峯岸英雄		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

基礎分野に位置づける。人が暮らす社会を健康の視点から仕組みを学び社会が健康に及ぼす影響を理解し、人がもつ権利について学ぶために設定した。

□授業の目的

一社会人として、健康と社会とのかかわりについて理解する事は重要であり、医療・看護職を目指す学生に有益な「医療福祉社会学」の修得を目指す。

□到達目標

１．医療・福祉と人間の関係を理解する。
２．社会が健康に及ぼす影響を理解する。
３．人間が人間らしく生きる社会を理解する。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（課題）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・

□テキスト

・なし

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	プロローグ	社会学概要説明と授業方針
2		乳業の歴史―健康と社会貢献
3		労働問題と医療・福祉―文学にあらわれた病気
4		医療としての「温泉」、「海水浴」
5		健康と衛生装置としての「ラジオ体操」と「運動会」
6		災害と医療―関東大震災の場合
7		人口問題と医療（前編）
8		人口問題と医療（後編）―移民・流行病・社会保障
9		医学者の軌跡に学ぶこと―野口英世とヘボン
10		国際医療―赤十字の存在と活動
11		心と脳を巡る考察
12		高齢化社会―過去・現在・未来
13		社会福祉と社会事業
14		看護の歴史と展開
15	終講試験	筆記試験

科目名	病態生理と治療（消化器・代謝）			担当教員		小池　正美		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。人体を系統立てて理解し、健康･疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するために解剖生理学を基礎とした上で病態生理学を臨床で活用可能なものとして学ぶ。病態生理学とは、疾病により機能がどう変化するという視点から疾病を解明したものである。疾病による機能の変化により生じてくる代表的な症状について、メカニズムを学び、主な疾患、検査、治療について理解を深め、看護に結び付けられる基礎知識とするために設定している。

□授業の目的

病態生理学とは、疾病により機能がどう変化するという視点から疾病を解明したものである。
　生体は、自分の身体を維持したり、活動したり、生態内部の恒常性を維持するためにエネルギー源や体成分原料となる物質を食物として取り入れて、さまざまな目的のために消費している。そこに消化機能、内分泌・代謝機能がさまざまな形で関与している。
ここでは、消化器系、内分泌・代謝系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学んでほしい。

□授業の到達目標

１．疾病による機能の変化と症状について理解する。
２．主な疾患の検査・治療について理解する。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提出物	
	作文	–
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・1 年次の解剖生理学・病理学・生化学などを基盤として学習します。臨地実習における疾患を理解していなければ、看護の方向性が見いだせなくなります。復習し看護に生かしてください。

□テキスト

・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[5]消化器』
金田智他　医学書院
・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[6]内分泌・代謝』
黒江ゆり子他　医学書院
・『系統看護学講座 別巻　臨床外科看護総論』　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	消化器の構造と機能	消化器の特徴
2	症状と病態生理	消化器の症状
3	主な検査	画像検査　血液検査　　内視鏡検査
4	病態の理解	食道・胃
5		小腸・大腸・肝臓
6		肝臓・胆のう・膵臓
7	主な内科的治療	保存的治療
8	消化器障害の外科的治療	外科的診断学　外科的治療　胃
9		外科的治療　大腸
10	内分泌・代謝障害の病態生理	代表的疾患の病態生理　糖尿病　糖尿病と妊娠
11		糖尿病の食事療法　運動療法　脂質代謝異常　メタボリックシンドローム
12		糖尿病の薬物療法
13		下垂体・副腎・甲状腺疾患など
14	内分泌・代謝疾患の検査	緊急性の高さ　コンプライアンス不良
15	総括　終講試験	筆記試験

科目名	病態生理と治療（運動・脳神経・眼）			担当教員		林　香純		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。人体を系統立てて理解し、健康･疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するために解剖生理学を基礎とした上で病態生理学を臨床で活用可能なものとして学ぶ。病態生理学とは、疾病により機能がどう変化するという視点から疾病を解明したものである。疾病による機能の変化により生じてくる代表的な症状について、メカニズムを学び、主な疾患、検査、治療について理解を深め、看護に結び付けられる基礎知識とするために設定している。

□授業の目的

脳神経･運動器･感覚器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学んでほしい。 特に疾病による機能の変化と症状との関連について理解を深める。

□授業の到達目標

1.　疾病による機能の変化と症状について理解する。
2.　主な症状の検査･治療について理解する。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・解剖生理学・病理学を基盤として授業は進みます。復習をしながら臨んでください。臨地実習において観察をする際に出現している症状の意味などが理解できるように繰り返し学習してください。

・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[7]　脳・神経』
井手隆文他　医学書院
・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[10]　運動器
織田弘美他　医学書院
・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[13]　眼』
大鹿哲郎他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	脳神経内科総論	意識障害　認知症　せん妄について
2	各論	麻痺　不随意運動　失調
3	各論	主な検査･治療　薬物療法等
4	脳神経の病態生理と主症状①	脳神経の解剖生理の理解　脳出血　頭部外傷
5	脳神経の病態生理と主症状②	脳の循環･代謝の障害　水頭症　外傷
6	脳神経の病態生理と主症状③	脳腫瘍
7	脳神経の病態生理と主症状④	脳血管障害
8	運動器障害の総論　1	運動器の構造と機能　運動器の病態生理
9	運動器障害の各論　2	運動器疾患　外傷による影響
10	運動器障害の各論　3	脊髄･神経疾患　末梢部位の疾患
11	運動器障害の各論　4	非外傷性運動器疾患
12	眼の健康障害病態生理と主な症状	1)白内障　2)緑内障　3)網膜剥離
13	眼の健康障害病態生理と主な症状	角結膜疾患　DMR　AMD
14	主な診断と検査	眼科の検査・治療
15	総括と終講試験	

科目名	病態生理と治療（腎・泌尿・免疫）			担当教員		福本　皇		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。人体を系統立てて理解し、健康･疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するために解剖生理学を基礎とした上で病態生理学を臨床で活用可能なものとして学ぶ。病態生理学とは、疾病により機能がどう変化するという視点から疾病を解明したものである。疾病による機能の変化により生じてくる代表的な症状について、メカニズムを学び、主な疾患、検査、治療について理解を深め、看護に結び付けられる基礎知識とするために設定している。

□授業の目的

腎・泌尿器、免疫系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学ぶ。特に、疾病による機能の変化と症状との関連について理解を深める。

□授業の到達目標

１．疾病による機能の変化と症状について理解する。
２．主な疾患の検査・治療について理解する。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・

□テキスト

・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[8]　腎・泌尿器』大東貴志他　医学書院
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[11]　アレルギー膠原病　感染症』岩田健太郎他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・1 年次の解剖生理学・病理学・生化学などを基盤として学習します。臨地実習における疾患を理解していなければ、看護の方向性が見いだせなくなります。復習し看護に生かしてください。

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	腎泌尿器の機能的変化と主症状	腎・泌尿器の疾病と治療　総論
2	腎泌尿器の病態生理と主な症状	腎・泌尿器の病態生理　各論①
3		腎・泌尿器の病態生理　各論②
4		腎・泌尿器の病態生理　各論③
5		腎・泌尿器の病態生理　各論⑤
6	免疫障害と病態生理・検査	免疫・アレルギー性疾患の発生機序の基礎的理解
7		自己免疫疾患　膠原病
8	終講試験	筆記試験

科目名	病態生理と治療 （感覚器:皮膚、耳鼻咽喉、歯・口腔）			担当教員		百瀬　修久		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。人体を系統立てて理解し、健康･疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するために解剖生理学を基礎とした上で病態生理学を臨床で活用可能なものとして学ぶ。病態生理学とは、疾病により機能がどう変化するという視点から疾病を解明したものである。疾病による機能の変化により生じてくる代表的な症状について、メカニズムを学び、主な疾患、検査、治療について理解を深め、看護に結び付けられる基礎知識とするために設定している。

□授業の目的

感覚器:口腔･皮膚･耳鼻咽喉部に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を学んでほしい。 特に　疾病による機能の変化と症状との関連について理解を深めてほしい。

□授業の到達目標

1. 病による機能の変化と症状について理解する
2. 主な疾患の検査と治療について理解する。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・

□テキスト

・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[12]　皮膚』
佐藤博子他　医学書院
・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[12]　耳鼻咽喉』
医学書院
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学[15]　歯・口腔』
渋谷絹子他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	皮膚の構造と機能	代表的な症状
2	診断・検査および治療	問診、視診　検査
3	代表的皮膚疾患	主な疾患の病態生理と治療
4	聴覚・内耳後迷路性障害	聴覚障害　難聴　検査と治療
5	聴覚・内耳後迷路性障害	めまい　検査と治療　メニエール病
6	歯・口腔疾患の予防と治療	口腔内清掃の基本　口腔ケア
7	歯・口腔疾患の予防と治療	歯・口腔疾患の治療
8	終講試験	筆記試験

科目名	病態生理と治療（小児）			担当教員		小池　正美		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	大学病院・総合病院にて小児の臨床医として 10 年以上勤務。実際の症例を通して講義を行う。						

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。小児の健康障害は小児期特有のものと、永続的な健康障害を持つ場合がある。また、治療においても薬物の使い方が異なるなど特有の治療方法がある。そのことを理解し看護に活用できるように設定している。

□授業の目的

小児期特有の健康障害とその病態の特性・治療について学ぶ。

□授業の到達目標

１．小児の健康障害の特徴を理解できる
２．小児期特有の健康障害を理解できる

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・1 年次の解剖生理学を基盤として小児の身体生理機能を理解してくいきます。小児看護学につながり臨地実習における疾患において理解していなければ、看護の方向性が見いだせなくなります。復習し看護に生かしてください。

□テキスト

・ナーシンググラフィカ　小児看護学③
　小児の疾患と看護　　メディカ出版

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	小児期にみられる主な健康障害	免疫・感染症予防接種
2		循環器疾患　血液
3		アレルギー
4		内分泌・代謝疾患
5		染色体異常　先天異常　虐待
6		新生児　消化器
7		けいれん性疾患　熱中症
8	終講試験	筆記試験

科目名	臨床放射線医学			担当教員		篠原・江田・今尾・岩井市川		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容	先端の医療現場での経験をもとに講義を行う。						

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。放射線医学の進歩により、医療の診断・治療において多く用いられ、多職種と連携し安全な診断治療にむけて看護者の役割を理解するために設定している。

□授業の目的

放射線医学は医療の進歩にともない、疾病の診断・治療の上で重要な役割があり、特に悪性新生物の治療において手術成績に匹敵する治療成績が得られるようになってきた。また、安全な放射線医療には看護師、医師だけではなく診療放射線技師をはじめ他職種との連携も重要である。看護師は患者の病状アセスメントにおいて画像所見を確認する機会も増え放射線診療の理解を深める事を目的とする。

□授業の到達目標

1．放射線医学の意義を理解する。
2．画像診断を理解する。
3．放射線治療を理解する。
4．放射線障害と防護を理解する。
5．放射線現場の医療者の業務を理解する。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提出物	
	作文	–
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・放射線医療の現場で従事する医療者を理解していただき、安全、安心に行われている検査などを理解していただきたい。

□テキスト

・系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	放射線医学のなりたちと意義	放射線科とは／画像診断および放射線治療の役割
2	画像診断Ⅰ	画像診断と看護／チーム医療／安全管理／セーフティマネジメント
3	画像診断Ⅱ	Ｘ線診断の特徴／CT／MRI
4	画像診断Ⅲ	超音波検査／核医学検査／IVR・血管撮影
5	放射線治療	放射線治療総論／看護／各論
6	放射線防護	放射線障害と防護
7	放射線と医療者	放射線の管理および放射線医師、診療放射線技師、看護師、医療者の役割
8	終講試験	筆記試験

□担当講師

回数	テーマ	講師名
1	放射線医学のなりたちと意義	篠原健一（東京都診療放射線技師会）
2	画像診断Ⅰ	江田哲男（日本診療放射線技師会）
3	画像診断Ⅱ	江田哲男（日本診療放射線技師会）
4	画像診断Ⅲ	今尾　仁（群馬パース大学）
5	放射線治療	岩井譜憲（国際医療福祉大学三田病院）
6	放射線防護	岩井譜憲（国際医療福祉大学三田病院）
7	放射線と医療者	市川重司（城西放射線技術専門学校）

科目名	臨床薬理学			担当教員		福本　皇		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。現代の高度化した医療においてチーム医療が重視されており、薬物治療においては看護師は患者に接する時間・機械が多く薬物の作用・副作用を十分に理解する必要がある。更に医療事故の防止に努める事が重要であるため設定している。

□授業の目的

医療の世界は私たちが考えている以上に速い速度で変化している。少子高齢社会のなかで、いかに薬物療法の効果を挙げることができるかが大切なことといえる。臨床薬理学は「薬物の人体における作用と動態を研究し、合理的薬物治療を確立するための科学」と定義されている。授業では薬理学の基礎知識、薬物療法の実際までを学ぶ。薬理学の基礎知識としては薬物の作用機序から薬理作用、そして薬物療法の実際としては疾患に対する薬物療法について学ぶ。また、薬物（医薬品）として臨床現場における医薬品の適正使用・管理のための必要な知識についても学ぶ

□授業の到達目標

１．臨床における薬物療法について理解する。
　薬物療法の意義と目的を説明できる
　薬の作用機序と人体への影響を説明できる）
　薬の投与方法を説明できる）
　薬剤の体内での働き（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる
２．臨床における薬物の薬理作用と作用機序について理解する。
　薬剤の薬理作用と作用機序を説明できる
　薬の単位と濃度を説明できる

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・臨床における薬物治療は様々な疾患に対し主な治療として行われています。理解するためには解剖生理学・生化学などの生体機能や病態生理と治療を基礎的知識として理解しておくことが必要です。作用や副作用など確実に理解し看護者として安全な取り扱いができるように学習をつなげましょう。

□テキスト

・『系統看護学講座 専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進[3]　薬理学』吉岡充弘他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	臨床薬理学総論	薬物療法の意義と目的　医薬品概要
2		薬の作用機序と人体への影響
3	臨床薬理学各論	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
4		抗アレルギー薬　抗炎症薬
5		救急の際に使用される薬物　消毒薬
6		皮膚科用薬　眼科用薬　　漢方薬
7		輸液製剤　輸血製剤
8		末梢神経に作用する薬剤
9		中枢神経に作用する薬剤
10		抗がん剤
11		免疫抑制をする薬剤
12		物質代謝に関する薬剤
13		循環器系に作用する薬剤
14		抗感染症の薬剤
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	公衆衛生学			担当教員		足立知永子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎分野として位置付ける。人々の暮らしに直接かかわる公衆衛生は社会の必要に応じて対策は変化している。看護者として我が国の公衆衛生の動向を理解し、人々の健康支援の幅を広げるために設定している。

□授業の目的

疾病を予防し、健康を増進するための方法と制度を理解することができる。

□授業の到達目標

１．公衆衛生の概念、健康の概念について理解する。

２．疫学方法、健康指標を理解し、活用できるようにする。

３．健康に関連する環境要因について理解する。

４．公衆衛生活動の行政の仕組みと内容を理解する。

５．健康づくりの方法について理解する

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ
　終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・疾病予防、健康増進についての基本的知識を学び、
　現在行われている健康づくり対策を理解しましょう。

□テキスト

・『わかりやすい公衆衛生学』
清水忠彦・佐藤拓代　ヌーヴェルヒロカワ
『国民衛生の動向』厚生労働統計協会

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	公衆衛生とは	公衆衛生の定義、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション
2	疫学的方法	スクリーニングテストの評価、疫学の方法、臨床疫学とエビデンス
3	健康の指標（1）	国勢調査、人口動態統計（出生、死亡）平均寿命、健康寿命
4	健康の指標（2）	国民生活基礎調査（有訴者率）患者調査（受療率、入院期間）
5	健康の指標（3）	食品衛生法、食中毒、国民栄養の現状、栄養と健康
6	医療・介護の保障制度 地域保健活動	地域保健法、保健所、市町村保健センター、医療サービス
7	母子保健・学校保健	母子保健サービス、学齢期の健康状態（学校保健統計）、学校保健安全法
8	産業保健	労働基準法、労働安全衛生法、職業病
9	生活習慣病（1）	生活習慣病の概念と現状
10	生活習慣病（2）	メタボリックシンドローム、健康日本 21（第 3 次）、健康増進法
11	生活習慣病（3）	老人保健、ロコモティブシンドローム高齢者医療確保法
12	感染症とその予防	感染症の成立要因、感染症法、予防接種法、主要な感染症
13	生活環境の保全（1）	地球温暖化、大気汚染、酸性雨、オゾン層の破壊、公害
14	生活環境の保全（2）	飲用水の安全、水質汚濁、住環境の安全、廃棄物の処理
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	社会福祉			担当教員		藍原義勝		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師等として医療法人が経営する在宅サービスに約２４年間勤務。患者・利用者の相談援助に従事する傍ら、地域共生社会を目指した地域づくり「みま～も」に１５年以上実践している。実例・経験をもとに講義を行う。						

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。人口構造や疾病構造の変化に伴い日本の医療福祉制度は改正され変化している。看護者としてざまざまな制度における基本的知識を持ち、多職種と対象者を総合的に支援できる能力を養えるように設置している。

□授業の目的

・医療において社会的な支援が必要であることを理解する。
・社会保障制度の基本的な内容を理解する。
・日本の社会保障制度の中心となる社会保険と社会福祉について理解する。

□授業の到達目標

１．社会福祉の変遷と現状について理解する。
２．社会保障制度の基本的内容を理解する。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		20
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	80
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・出席状況２０％、終講試験８０％
・毎回の授業を重要視しています
・例えば、毎回の授業で学習した内容を終講試験問題に反映する仕組みを採用しています

□学生へのメッセージ

・国試での出題率が高まっている科目です。学習方法は過去問を参考に的を絞って学習をします。
・学習する知識は、国試では勿論の事。普段の日常生活でも活きる知識になります。ご自身にとって興味深い情報はどれか？とアンテナな張りながら授業に参加すると有益になると思います。一緒に、ゆっくりと学んでいきましょう

□テキスト

・『系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度３ 社会保障・社会福祉』福田素生他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	なぜ看護教育で社会福祉を学ぶのか。	社会福祉とは　なぜ学ぶのか　どのように学ぶのか
2	社会福祉の歴史と日本の福祉の歴史	福祉史　貧困をどう捉えてきたか…イギリスの歴史から 社会福祉法制度の歴史的展開、わが国の社会保障・社会福祉の動向
3	社会保障制度	社会保障の体系・社会保障の内容・社会保障給付費
4	医療保障	健康保険と国民健康保険　保健診療のしくみ
5	高齢者医療制度	社会福祉・高齢者福祉
6	介護保障①	介護保険制度のしくみ他①
7	介護保障②	介護保険制度のしくみ他②
8	障害者福祉①	障害者福祉他①
9	障害者福祉②	障害者福祉他②
10	児童家庭福祉	児童家庭福祉
11	虐待について	虐待
12	所得保障①	年金保険制度
13	所得保障②	労働保険制度
14	所得保障③	公的扶助　生活保護制度のしくみ
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	与薬の技術			担当教員		渡邊明子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	総合病院にて外科、内科看護師として勤務。看護師が薬物療法を安全かつ正確に実施できるように知識と技術を身に着けることができるように講義を行う。						

□位置付け

専門分野に位置づける。基礎看護学は各看護学の基礎となる対象の健康状態の理解や生活の状態に応じた看護の基本を学ぶ。さらに看護師として倫理的な判断と実践につながる基礎的能力を養い、医療環境を整える基本的技術を学ぶ。

□授業の目的

診療を支える看護にとって、診療の補助技術を学び学習していくことが必要である。特に臨床の場面では看護師が薬物療法を安全かつ正確に実施できるように知識と技術を身につけていることが求められる。
ここでは薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法を習得する。

□授業の到達目標

１．与薬の目的と方法を理解し看護師の役割が理解できる。
２．与薬の方法に応じた援助過程を理解し、与薬の技術が習得できる。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・安全に与薬を行うためには、講義内の知識だけでなく臨床薬理学の知識も必要になります。校内実習も多い科目ですが、そこでの体験が活かされるように事前学習や振り返りもしっかり行っていきましょう。

□テキスト

『系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［３］
基礎看護技術Ⅱ』
看護がみえる②　臨床看護技術
メディックメディア

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	薬物療法	薬物療法の意義、目的、看護師の役割と法的責任
2	薬物療法の基礎知識	薬物の種類、薬物の吸収・排泄のメカニズム
3	一般的な与薬の援助方法	正しい与薬を行うための原則
4	内服薬の援助方法	校内実習：内服薬
5	直腸内与薬の援助方法	校内実習：坐薬
6	注射の種類別援助方法	校内実習：筋肉内注射（三角筋部・中殿筋部）
7	注射の種類別援助方法	校内実習：筋肉内注射（三角筋部・中殿筋部）
8	注射の種類別援助方法	校内実習：皮下注射
9	注射の種類別援助方法	校内実習：皮下注射
10	注射の種類別援助方法	静脈内注射法、持続点滴注射法の管理
11	注射の種類別援助方法	校内実習：持続点滴注射法の実施
12	注射の種類別援助方法	校内実習：持続点滴注射法の実施
13	注射の種類別援助方法	校内実習：持続点滴注射法の管理
14	注射の種類別援助方法	校内実習：持続点滴注射法の管理
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	臨床看護技術			担当教員		佐々木　元子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として 16 年勤務（手術室 10 年）1 年次の臨床看護総論を基本にした講義を行う。						

□位置付け

専門分野の基礎看護学に位置づける。解剖生理学・病理学の知識を基に健康障害のアセスメント・看護展開ができる能力を養う。また、臨床判断能力を学ぶ基礎的科目として設定した。

□授業の目的

・基礎看護学や専門基礎科目で学んだ知識を用いて、健康障害をもつ対象の看護過程を展開し必要な援助を導く。
・知識を活用し、基礎的な臨床判断能力を養う。

□授業の到達目標

1．健康障害をもつ対象の状態をアセスメントすることができる
2．対象に必要な看護を考えることができる
3．対象の状態観察し臨床判断をできる

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	20
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	70
	平常の授業状況（　　）	
	その他（演習、グループワーク）	10
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・既習の知識（専門基礎、基本技術、生活技術Ⅰ・Ⅱ、ヘルスアセスメント、診療と処置に伴う看護、臨床看護総論）を活用して授業を進めます。事前学習として授業に必要な内容等を復習しておく。

□テキスト

『系統看護学講座　成人看護学[5]運動器』　医学書院
『系統看護学講座　成人看護学[3]循環器』　医学書院
『系統看護学講座　基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ』　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・既習授業資料

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	臨床看護技術とは	授業の概要、オリエンテーション、健康障害の理解
2	事例１「心筋梗塞」	健康障害の理解
3	臨床判断の実際	シミュレーターを用いた観察
4	アセスメント	対象の身体に何が起こっているのか
5	援助計画の立案	必要な援助を導く、ケア計画書の作成
6	看護の実際	演習：事例に沿った援助の実施
7	全体像	対象の全体像を明らかにする
8	まとめ	対象の看護の方向性を考える
9	事例２「脊髄損傷」	健康障害の理解
10	臨床判断の実際	シミュレーターを用いた観察
11	アセスメント	対象の身体に何が起こっているのか
12	援助計画の立案	必要な援助を導く、ケア計画書の作成
13	看護の実際	演習：事例に沿った援助の実施
14	まとめ	対象の看護の方向性を考える
15	総括　終講試験	筆記試験

科目名	地域・在宅療養と多職種連携			担当教員		大川加代子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	児童発達支援センター3 年　介護老人保健施設 1 年半　訪問看護ステーション 8 年半の経験を基に授業を行う。						

□位置付け

専門分野に位置づける。地域・在宅看護論の 2 年次科目である。多職種と協働し地域や在宅療養者の生活の質の向上をめざす支援を考えられるように設置している。

□授業の目的

地域・在宅における療養者の日常生活における身体機能の低下の予防・維持は重要である。身体機能の低下を、活動制限としてとらえ療養者の生活行為の質を向上する視点での訓練を理学療法士等の専門的視点から学び対象者がより充実した生活をおくるために多職種と連携した支援を目的とする。

□授業の到達目標

１．地域・在宅療養における専門職の役割が理解できる。
２．地域・在宅療養者における多職種連携のあり方が理解できる。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提出物	
	作文	–
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ
・

□テキスト
・

□参考図書・資料・参考ホームページ
・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	地域・在宅療養と専門職	地域･在宅療養を支える専門職
2	地域・在宅療養と専門職	専門職の役割とは　理学療法士の目的
3	チームアプローチ	多職職連携の実際
4	地域・在宅療養における協働	地域・在宅療養における理学療法士のアプローチ
5	地域・在宅療養における協働	具体例から学ぶ　看護職との連携の実際
6	地域・在宅療養における協働	具体例から学ぶ
7	多職種連携とは	まとめ
8	終講試験	筆記試験

科目名	地域・在宅療養者の健康状態に応じた看護			担当教員		小坂　宣靖		単位数	1
対象学科	看護科			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野に位置づけ、3 年次の地域・在宅看護論実習Ⅱの履修要件となる科目である。地域・在宅看護論における、地域や在宅療養者の健康障害に応じた看護の実践を理解するために設定している。

□授業の目的

地域・在宅看護の基本に基づき、さまざまな健康状態にある療養者に合わせた看護を学ぶ。また、地域・在宅におけるエンドオブライフケアについて理解する。

□授業の到達目標

１．安心した在宅生活に必要な看護を理解する

２．在宅におけるエンドオブライフケアを理解する

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提出物	20
	作文	–
	随時試験	
	終講試験	80
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・

□テキスト

・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論①
・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論②

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	安心した生活の保障	24 時間の連絡・支援体制・感染管理・リスクマネジメント
2	在宅における生活援助技術	生活環境の調整　演習
3		安全で快適な生活環境と居住環境の調整
4		社会資源の活用と工夫　演習
5	エンドオブライフケア	在宅における終末期の援助
6		家族への支援：グリーフケア
7		アドバンス・ケア・プランニング
8	終講試験	筆記試験

科目名	在宅看護技術			担当教員		二階堂琢馬		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	急性期病院の病棟勤務 6 年、リハビリテーション病院勤務 2 年の臨床経験を基に授業を行う。						

□位置付け

専門分野に位置づけ、3 年次における地域・在宅看護論実習Ⅱの履修要件となる科目である。地域・在宅看護論領域において、在宅療養のための技術を学ぶために設定している。

□授業の目的

看護技術の基本を基に、さまざまな健康状態にある地域・在宅療養者に合わせた生活支援技術（日常生活援助技術、医療処置技術）を学ぶ。

□授業の到達目標

地域・在宅療養における生活援助技術を理解する

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	20
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	80
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・

□テキスト

・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論①
・系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論②

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	在宅における生活支援技術	安全で快適な生活環境と居住環境の調整　・社会資源の活用と工夫
2	活動・移動・休息	・在宅における活動・睡眠　・移動・移乗への援助 褥瘡の予防と援助　演習
3	排泄	・自立と気持ちよさを考えた排泄の援助 ・排泄の援助：尿道留置カテーテル・排便・摘便
4	栄養・食事	・経管栄養法とその管理：胃瘻・腸瘻 ・中心静脈栄養法とその管理
5		①　経管栄養法　演習
6	清潔	・在宅における清潔ケア・在宅における安全で快適な入浴援助　演習
7	呼吸	・在宅における酸素療法と人工呼吸療法 在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気療法　演習
8	終講試験	筆記試験

科目名	地域・在宅看護過程			担当教員		小池恵里		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野に位置づけこの科目は 3 年次の地域・在宅看護論実習Ⅱの履修要件となる科目である。地域・在宅看護論において、在宅療養を必要とする療養者の看護展開の技術を学ぶ目的で設定している。

□授業の目的

在宅で療養する人々の特徴を理解し、療養者および家族が在宅療養を継続させるためのセルフケア支援の実際、教育方法について事例展開を通して学ぶ。

□授業の到達目標

１．患者・家族の指導について事例展開を通して理解する。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・講義だけでなく演習を通して自分で考えながら学んでいきます。

□テキスト

・系統看護学講座　地域・在宅看護の基盤　医学書院
・系統看護学講座　地域・在宅看護の実践　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1		ケアマネジメントの必要性とプロセス
2	在宅看護過程の展開	看護過程の展開の視点
3		情報収集の視点とアセスメント　演習
4		問題解決に向けた看護計画の立案　演習
5		実施のポイント　演習
6		評価のポイント　演習
7		成果発表　演習
8	終講試験	筆記試験

科目明	健康危機状況にある成人の看護			担当教員		佐々木・河村		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として病院で 16 年勤務（手術室 10 年）急性・重症認定看護師と共に実務経験をもとに健康危機状況にある成人の看護を講義する。						

□位置付け

専門分野　成人看護学に位置づけ 3 年次における成人・老年看護学実習Ⅲの履修要件となる科目である。
成人期における健康危機状況を理解する。セルフケアが危機的状況にあるときの看護に焦点を当て、成人とその家族への看護方法についての知識を修得する科目。

□授業の目的

成人期における健康危機状況を理解し、健康危機に陥ったことによりセルフケアが困難な状況となった成人とその家族への看護方法ついて学習する。

□授業の到達目標

様々な健康危機状況を理解する。
健康危機状況にある成人のセルフケア不足に対する看護方法を理解する。
積極的治療を必要とする状況と看護方法を理解する。
健康危機状況にある成人の看護の実際を理解する。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提　物	–
	レポート	–
	随時試験	–
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	–
	その他（　　）	–
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・危機的状況はテレビやインターネットから得る情報も多くイメージがつきやすいと思います。興味関心を持ち専門的知識を理解していきましょう。

□テキスト

ナーシンググラフィカ成人看護学 2 健康危機状況/セルフケアの再獲得　メディカ出版
系統看護学講座　別巻　救急看護学　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	健康危機状況にある成人の理解	健康危機状況にある成人の特徴
2	健康危機状況にある成人に生じるセルフケア不足	健康危機状況における看護方法 苦痛の緩和　身体機能悪化への対応　生活行動変更の支援
3	健康危機状況にある成人に生じるセルフケア不足	健康危機状況における看護方法 心理・精神的混乱　家族または重要他者の不安や負担への対応
4	積極的治療を必要とする状況と看護	救急患者の特徴　救急患者と家族の特徴　代理意思決定
5	積極的治療を必要とする状況と看護	救急患者の観察とアセスメント　救急処置と看護
6	積極的治療を必要とする状況と看護	事例検討：グループワーク　「院内における急変対応」
7	積極的治療を必要とする状況と看護	演習：救急蘇生　「院内における急変対応」
8	主要病態と看護	不整脈と看護
9	主要病態と看護	ショックと看護
10	主要病態と看護	呼吸障害　胸腔ドレーンと看護
11	主要病態と看護	血管造影　心臓カテーテル検査と看護
12	主要病態と看護	熱中症と看護
13	健康危機状況にある成人の看護の実際	事例検討：熱傷
14	健康危機状況にある成人の看護の実際	事例検討：熱傷
15	総括と終講試験	筆記試験

科目明	侵襲的治療を受ける成人の看護			担当教員		佐々木・山下		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として病院で 16 年勤務（手術室 10 年）手術室看護師と共に実務経験をもとに、侵襲的治療を受ける成人の看護について講義する。						

□位置付け

専門分野　成人看護学に位置づけ 3 年次における成人・老年看護学実習Ⅲ・Ⅳの履修要件となる科目である。侵襲的治療を受ける患者の特徴や合併症の予防を含めた看護、周手術期の専門性や看護の役割・援助方法について学ぶ科目。

□授業の目的

・侵襲的治療を受ける成人の特徴を理解する。
・手術による侵襲や合併症予防を含めた先を見越した看護、周手術期の専門性や看護の役割・援助方法について理解する。

□授業の到達目標

・侵襲的治療を受ける成人の特徴を理解する（化学療法　放射線療法　手術療法）
・周手術期の看護の役割が理解できる
・侵襲的治療を受ける成人の身体的・精神期・社会的特徴を理解し、術後合併症予防を含めた看護方法が理解できる
・侵襲的治療を受ける成人の看護の実際が理解できる

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提　物	－
	レポート	－
	随時試験	－
	終講試験	90
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（演習　レポート）	10
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・周手術期は、術前・術中・術後と身体的な変化が大きく現れます。その特徴を理解していきましょう。

□テキスト

ナーシンググラフィカ成人看護学４　周術期看護メディカ出版
系統看護学講座　別巻　臨床外科総論　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅰ臨床看護総論　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	侵襲的治療とは	化学療法　放射線療法　手術療法
2	周手術期看護の概論	周手術期（外科）看護の特徴　チーム医療と看護師の役割 インフォームドコンセントにおける看護師の役割　意思決定
3	手術前の成人の看護	術前の身体のアセスメント　不安　術前オリエンテーション　訓練
4	手術中の成人の看護	入室～退室までの看護　麻酔と看護　手術体位が身体に与える影響
5	手術中の成人の看護	手術室看護師の役割
6	手術侵襲と生体反応	手術麻酔による侵襲　生体反応　ムーアの分類
7	術後の回復過程と看護	創傷の治癒過程　ドレナージ　術後疼痛
8	術後合併症の予防と看護	グループワーク（術後合併症）
9	術後合併症の予防と継続看護	グループワーク（術後合併症）早期離床　継続看護
10	特有の術後合併症と残存機能を活かした看護	事例：「胃がん」 胃切除を受ける対象の看護①
11	特有の術後合併症と残存機能を活かした看護	事例：「胃がん」 胃切除を受ける対象の看護②　継続看護
12	術後観察とアセスメントの実際	演習：手術直後の観察　アセスメント
13	術後観察とアセスメントの実際	演習：手術直後の観察　アセスメント
14	術後の回復を促進させるための看護	演習：創傷処置（ガーゼ交換）　深部静脈血栓予防
15	総括と終講試験	・筆記試験

科目名	セルフケア再獲得に向けた成人の看護			担当教員		長谷部・渕上		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として臨床で 10 年間勤務。脳神経疾患看護の実践で得た知見をもとに中途障害者の看護の講義・演習を行う。						

□位置付け

専門分野に位置づけ 3 年次の成人・老年看護学実習Ⅲ・Ⅳの履修要件となる科目である。成人看護学を深め、中途障害をもつ人への看護の理論と方法を学習する科目である。

□授業の目的

障害を受容する過程について理解を深め、障害を持ちながら生活を再構築する人に必要な看護について学習する。

□授業の到達目標

セルフケア再獲得モデルの理解に基づき、中途障害をもつ人のセルフケアのアセスメントの方法を理解する。
セルフケア再獲得に向けた看護の方法が理解できる。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		–
試験等	提出物	10
	作文	–
	随時試験	
	終講試験	90
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・中途障害からセルフケアを再獲得する過程は厳しいものですがそれを支援する看護の役割を一緒に考え、学びましょう。

□テキスト

・ナーシンググラフィカ　成人看護学 2　健康危機状況/セルフケアの再獲得　メディカ出版

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	セルフケア低下状態にある人の特徴の理解	セルフケア低下状態にある人とは
2		セルフケア再獲得モデル
3		中途障害とセルフケア
4		障害のある人と家族
5	セルフケア再獲得支援の方法	セルフケア再獲得のためのシステム
6		セルフケア再獲得のためのアセスメントの視点
7		セルフケア再獲得のための方法
8		生命維持レベルのセルフケア再獲得の支援
9		生活基本行動レベルのセルフケア再獲得の支援
10		社会生活レベルのセルフケア再獲得の支援
11	セルフケア再獲得を目指す看護	生命維持レベルのセルフケア再獲得の看護の実際
12		生活基本行動レベルのセルフケア再獲得の看護の実際
13		社会生活レベルのセルフケア再獲得の看護の実際
14		セルフケア再獲得に向けた看護の役割
15	まとめ・終講試験	記述式試験

科目名	セルフマネジメントを必要とする成人の看護			担当教員		山田雅子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として臨床で 10 年間勤務。臨床での実践, 研究を通して得た知識・知見をもとに講義を行う。						

□位置付け

成人看護学を土台に成人期にある人への看護実践をより深める科目として位置付ける。この科目は 3 年次の成人・老年看護学実習Ⅱの履修要件となる科目である。

□授業の目的

成人が何らかの慢性的な病をもったときに生活者として病と家庭生活、社会生活との折り合いをどのようにつけていくかが自分らしく健康に生きていくために必要である。その対象への看護として求められる、対象と医療者のパートナーシップに基づいた関わりを実践するために必要な考え方や知識、技術を学習する。

□授業の到達目標

慢性疾患の特徴と成人期にある人の特徴との関連を理解する。
セルフマネジメントに必要な理論を理解する。
セルフマネジメントを支援するための看護の方法を理解する。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		–
試験等	提出物	10
	作文	–
	随時試験	
	終講試験	90
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・慢性疾患をもった人が病気と生活をうまく折り合いをつけながらその人らしさを大事に生きていくための看護を学びます。

□テキスト

・ナーシンググラフィカ　成人看護学 3 セルフマネジメント　メディカ出版

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	セルフマネジメントの概念	セルフマネジメントとは
2	セルフマネジメントを支える看護とは	成人期にある人への教育の考え方
3		エンパワメント
4		自己効力理論と看護
5	看護の実際	セルフマネジメントを必要とする人への看護の実際
6		糖代謝異常とセルフマネジメント
7		〃
8		〃
9		〃
10		自己血糖測定とインスリン自己注射
11		肝機能障害とセルフマネジメント
12		〃
13		腎機能障害とセルフマネジメント
14		〃
15	まとめ・終講試験	記述式試験

科目名	緩和ケアを必要とする人の看護			担当教員		林　香純		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野　成人看護学に位置づけ 3 年次の成人・老年看護学実習Ⅲ・Ⅳの履修要件となる科目である。看護の対象が病や死と向き合った時に生じる全人的苦痛を理解し、その緩和に携わる看護を学習する。

□授業の目的

生命をおびやかす病に関連する問題に直面している人やその家族の苦痛を和らげ、その人らしく生きることを支える看護を学ぶ。
状況に応じたアセスメントの視点を活用して対象と家族が抱く全人的苦痛を緩和するケアの方法について学習する。

□授業の到達目標

緩和ケアの歴史および定義と関連する概念について理解する。
緩和ケアにおける看護師の専門性について理解する。
がん看護の特殊性・専門性について理解する。
対象の苦痛について理解しアセスメントの方法，日常生活を支えるケアについて理解する。
臨死期の概念および全人的苦痛とその緩和について理解する

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	－
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・病気による様々な苦痛の緩和、そして人が死と向き合うことを余儀なくされた時に抱える全人的苦痛の緩和は、私たち医療者にとっても人間の根源的な苦悩を見つめることが必要となります。重い課題ですが真摯に学び、ともに看護を考えていきたいと思います。

□テキスト

・『系統看護学講座　別巻　緩和ケア』　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	緩和ケアに必要な概念	緩和ケアの歴史　緩和ケアの定義　倫理的課題
2	がん診療における緩和ケア	実際の臨床からみる緩和ケア
3	がん看護	緩和ケアにおけるがん看護
4		がん治療と看護
5	がんと痛み	ガン性疼痛とマネジメント
6	スピリチュアルペイン	スピリチュアルケアのためのアセスメント，マネジメント，援助
7	全人的ケアの実践	心理的ケアのためのアセスメント，マネジメント，援助
8	全人的ケアの実践	社会的ケアのためのアセスメント，マネジメント，援助
9	グリーフケア	家族の予期悲嘆と援助
10	緩和ケア具合的援助	緩和ケア援助者としてのコミュニケーション
11		事例展開　全体像をとらえる
12		事例展開　看護計画立案
13		事例展開　看護計画具体策
14		看護計画発表
15	まとめ・終講試験	筆記試験

科目名	高齢者の日常生活援助			担当教員		二階堂　琢馬		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	急性期病院の病棟勤務６年、リハビリテーション病院勤務２年の臨床経験を基に授業を行う。						

□位置付け

専門分野、老年看護学の１科目として位置づけ、特に加齢変化に伴う生活機能低下とその看護を中心に扱う。3 年次における成人・老年看護学実習Ｖの履修要件となる科目である。加齢変化が睡眠、活動、食、清潔、排泄等、生活に支障をきたしやすいと理解し、高齢者の生活機能や日常生活を支える必要性を学ぶ内容を設定する。

□授業の目的

加齢変化に伴っておこりやすい健康や日常生活への影響を理解し、生活機能を低下させないための看護を学習する。

□授業の到達目標

加齢に伴う以下１－６の変化と看護を理解する。
１．コミュニケーション能力　　２．排泄　　３．活動　　４．休息　　５．食　　６．保護機能

７．高齢者の死への看護と家族への看護を理解する。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	10
	作文	－
	随時試験	－
	終講試験	90
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ
・授業は講義と演習を予定しています。特に演習では高齢者についての理解がより深められるよう、積極的に取り組んでいきましょう。

□テキスト
・『系統看護学講座　老年看護学』医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ
随時紹介

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	高齢者とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	コミュニケーションのプロセス、 高齢者のコミュニケーションの特性
2	加齢に伴う身体機能の変化	感覚器への変化と影響　視覚・聴覚
3		日常生活動作への影響と福祉用具
4	高齢者の日常生活の特性	転倒のアセスメント　廃用症候群の看護
5		廃用症候群の早期発見　予防　　ワーク：生活リズムを整える
6		休息と睡眠への影響
7	高齢者の排泄機能の特性	加齢に伴う排泄機能の変化　　排泄障害と自立援助
8		校内演習　排泄の意義　　紙おむつの選び方
9		おむつの当て方　演習
10	高齢者の摂食機能の特性	高齢者の食事の特徴　　栄養状態のアセスメント
11		摂食・嚥下機能に合わせた援助
12	高齢者の保護機能	清潔のアセスメントと看護
13	健康逸脱と看護	発熱と脱水の看護
14	ｴﾝﾄﾞｵﾌﾞﾗｲﾌｹｱ	高齢者のエンドライフケア　意思決定への支援
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	高齢者の健康障害時の看護			担当教員		岡本・八木・岡崎		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	各担当者が看護師として高齢者へ関わった臨床経験等をふまえて授業を展開する。高齢者の健康障害時の特徴と看護について、実例等を活用して履修者の理解が深まるように支援する。						

□位置付け

専門分野、老年看護学の科目として位置づけ、特に健康障害とその看護を中心に扱う。３年次の成人・老年看護学実習Ｖの履修要件科目である。
高齢者の健康障害は非定型的で、複数の疾患を独立的かつ併存的に抱える。些細な健康障害が高齢者の ADL に及ぼす影響は大きく、家族への影響も大きい。したがって、高齢者の健康障害の特徴を考え、認知機能障害、リハビリテーション、手術療法に関わる看護の理解を深める内容を設定する。

□授業の目的

健康障害を持ち、治療を受ける高齢者や家族等への理解とその看護を学修する。

□授業の到達目標

以下１－６を理解する。
１．高齢者に多い健康障害とその影響　　２．認知機能障害を持つ高齢者の特徴と看護
３．リハビリテーションが必要な高齢者・家族への看護　　４．安全面への対応が必要な高齢者への看護
５．手術療法が必要な高齢者・家族への看護　　６．教育的介入が必要な高齢者・家族への看護

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	5
	作文	－
	随時試験	－
	終講試験	95
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント
・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ
・各担当者が持ち回りで授業を担当します。担当が変わるまでには復習を持ち越さず、授業内容をまとめましょう。

□テキスト
・『系統看護学講座　老年看護学』医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	健康障害と看護	総論
2		薬物動態、パーキンソン病
3		検査、処置、治療、看護
4	リハビリテーション	意義、影響、特徴
5	骨折	グループワーク
6	認知症	現状、薬物療法
7		看護
8		動画視聴
9	手術療法	前立腺肥大、白内障、看護
10		
11	リスクマネジメント	医療安全
12		身体拘束
13	呼吸器疾患	慢性閉塞性肺疾患
14		グループワーク
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	小児の発達段階に応じた看護			担当教員		保井　理子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	小児病棟と NICU を含む（５年）・特別支援学校の医療的ケア（２年）の看護から子どもと家族への看護実践能力と技術を教授する。						

□位置付け

専門分野に位置づける。小児看護学の小児看護概論を基盤にして子どもの健康の保持増進、健康障害の回復を促す看護は、すべての子どもが健やかな成長・発達を遂げられるよう子どもと家族（養育者）を支援する知識を習得する科目として設定している

□授業の目的

子どもの健康の保持増進、健康障害の回復を促す看護は、すべての子どもが健やかな成長・発達を遂げられるよう子どもと家族（養育者）への支援を学ぶ

□授業の到達目標

子どもの健康増進にむけた看護を習得する
病気・障害をもつ子どもと家族の看護を理解する
症状に応じた子どもと家族の看護を習得する
検査・治療を受ける子どもの看護を習得する

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	40
	演習・レポート	
	随時試験	－
	修了認定試験	60
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ修了認定試験は受験できません。
・成績評価は、レポート、修了認定試験とする。

□学生へのメッセージ

・健康な子どもの発達に応じた生活援助を学び、また、出生から 20 歳まで紙面で子育てを通して幅広く、子どもの成長と支援を学ぶ。また、健康障害がある子どもの症状、観察、検査、治療などは、グループワーク、演習、まとめの発表などを通して学習をします。

□テキスト

・小児の発達と看護　小児看護学①（メディカ出版）
・小児看護技術　小児看護学②（メディカ出版）
・小児の疾患と看護　小児看護学③（メディカ出版）

□参考図書・資料・参考ホームページ

・写真でわかる小児看護技術（インターメディカ）
・根拠と事故防止から見た小児看護技術（医学書院）
・発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図（医学書院）
・看護実践のための根拠がわかる　小児看護技術第３版（メヂカルフレンド社）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	子どもの健康増進にむけた看護①	・子どもの日常生活への看護
2	子どもの健康増進にむけた看護②	・乳児の養育および看護
3	子どもの健康増進にむけた看護③	・幼児の養育および看護
4	子どもの健康増進にむけた看護④	・学童期の生活援助・思春期以降の生活援助
5	子どもの健康増進にむけた看護⑤	・子どもの生活援助と看護（演習）：環境・おむつ交換・更衣
6	病気･障害をもつ子どもと家族の看護①	・病気・障害が子どもと家族に与える影響
7	病気･障害をもつ子どもと家族の看護②	・外来・入院中の子どもと家族の看護
8	症状に応じた子どもと家族の看護①	・症状別看護：グループワーク
9	症状に応じた子どもと家族の看護②	・症状別看護：グループワーク・まとめ
10	症状に応じた子どもと家族の看護③	・症状別看護：グループワーク・発表・評価
11	症状に応じた子どもと家族の看護④	・子どもの救命救急と看護・子どもの応急処置と看護
12	検査・治療を受ける子どもの看護①	・検体採取と看護・経口与薬と看護・輸液療法と看護
13	検査・治療を受ける子どもの看護②	・酸素療法と看護・吸入と吸引療時と看護・経管栄養法と看護
14	検査・治療を受ける子どもの看護③	・検体採取・輸液療法・吸入療法と看護の演習
15	総括・定期試験	まとめ・筆記試験

科目名	小児の健康状態に応じた看護			担当教員		保井　理子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	小児病棟と NICU を含む（５年）・特別支援学校の医療的ケア（２年）の看護から子どもと家族への看護実践能力と技術を教授する。						

□位置付け

専門分野に位置づける。急性から慢性経過・終末期・健康障害、先天的な健康問題、心身障害、地域・在宅医療を受ける子どもと家族の看護知識を習得する科目として設定している

□授業の目的

急性から慢性経過・終末期・健康障害、先天的な健康問題、心身障害、地域・在宅医療を受ける子どもと家族の看護を学ぶ

□授業の到達目標

急性から慢性経過・終末期をたどる疾患の特徴と看護を習得する
子どもの手術の特徴と看護を習得する
先天異常、心身障害がある子どもと家族への地域・在宅看護の知識を習得する

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提出物	－
	演習・レポート	40
	随時試験	－
	修了認定試験	60
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ修了認定試験は受験できません。
・成績評価は、修了認定試験とする。

□学生へのメッセージ

・急性から慢性経過・終末期・健康障害、先天的な健康問題、心身障害、地域・在宅医療を受ける子どもと家族の看護を資料や視聴覚教材を用いて講義をします。

□テキスト

・小児の発達と看護　小児看護学①（メディカ出版）
・小児の疾患と看護　小児看護学③（メディカ出版）

□参考図書・資料・参考ホームページ

・こどもの病気の地図帳（講談社）
・発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図（医学書院）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	急性期にある子どもと家族への看護①	・生命危機にある子どもと家族への看護（RS ウイルス感染症・川崎病・気管支喘息）・化学療法／放射線療法（白血病／脳腫瘍）
2	急性期にある子どもと家族への看護②	
3	急性期にある子どもと家族への看護③	
4	手術を受ける子どもと家族への看護①	・子どもの手術の特徴・手術が子どもに与える影響・看護（口唇口蓋裂・ファロー四徴症・食道閉鎖症・鎖肛・水頭症
5	手術を受ける子どもと家族への看護②	・手術を受ける子どもへのプレパレーション（アデノイド増殖症・口蓋扁桃肥大）
6	手術を受ける子どもと家族への看護③	
7	慢性期にある子どもと家族への看護①	・慢性状態にある子どもと家族への看護（発育性股関節形成不全・ネフローゼ症候群）
8	慢性期にある子どもと家族への看護②	
9	慢性期にある子どもと家族への看護③	・子どものセルフケア・移行医療支援（1型糖尿病）
10	終末期にある子どもと家族の看護	・子どもの死の概念・身体徴候・緩和ケア
11	ハイリスク新生児の特徴と看護①	・ハイリスク新生児（低出生体重児・呼吸窮迫症候群・新生児高ビリルビン血症）・NICU・ディベロップメンタルケア家族中心ケア
12	ハイリスク新生児の特徴と看護②	
13	障害のある子どもと家族の看護	・先天障害児・重症心身障害児・神経発達症のある子どもと家族への看護（脳性麻痺・ダウン症・ADS/ADHD/SLD）
14	在宅・地域で医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護	・医療的ケア児・在宅療養と看護
15	総括・定期試験	まとめ・筆記試験

科目名	小児のアセスメントと看護			担当教員		保井　理子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	小児病棟と NICU を含む（５年）・特別支援学校の医療的ケア（２年）の看護から子どもと家族への看護実践能力と技術を教授する。						

□位置付け

専門分野に位置づける。子どもの発達段階や健康状態に応じた看護実践能力を身につけるため、さまざまな側面から子どもをアセスメントして、科学的根拠に裏付けされた看護の基礎的知識を習得する科目として設定している

□授業の目的

子どもの発達段階や健康状態に応じた看護実践能力を身につけるため、子どもの健康状態をアセスメントして、科学的根拠に裏付けされた看護とその実践を学ぶ。また、子どもを支える養護者・家族の状況をアセスメントし子どもの看護を幅広く考えて学ぶ

□授業の到達目標

子どものアセスメントを習得する
健康障害をもつ子どものアセスメントを習得する
健康障害をもつ子どもの観察と判断力を習得する
健康障害をもつ子どもの看護を習得する

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	40
	演習・レポート	60
	随時試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上の出席しなければ修了認定はできません。
・成績評価は、提出物、レポート、演習、グループワークとする。

□学生へのメッセージ

・看護実践能力を身につけるように、子どもの事例を用いて、アセスメント技術を講義、グループワーク、演習などをします。

□テキスト

・小児の発達と看護　小児看護学①（メディカ出版）
・小児看護技術　小児看護学②（メディカ出版）
・小児の疾患と看護　小児看護学③（メディカ出版）

□参考図書・資料・参考ホームページ

・こどもの病気の地図帳（講談社）
・発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図 第４版（医学書院）
・発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程　第２版（医歯薬出版）
・病気・発達段階の視点で見る　小児看護過程（照林社）
・写真でわかる小児看護技術（インターメディカ）
・根拠と事故防止から見た小児看護技術（医学書院）
・看護実践のための根拠がわかる　小児看護技術 第３版（メヂカルフレンド社）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	子どものアセスメント①	子どものコミュニケーション／フィジカルアセスメント
2	子どものアセスメント②	バイタルサイン測定／身体計測
3	子どものアセスメント③	学内実習：バイタルサイン測定／身体計測／アセスメント評価
4	健康障害をもつ子どものアセスメント①	グループワーク：事例の情報のまとめ・アセスメント
5	健康障害をもつ子どものアセスメント②	グループワーク：全体像（関連図）
6	健康障害をもつ子どものアセスメント③	グループワーク：看護問題・看護計画
7	健康障害をもつ子どものアセスメント④	学内実習：観察と看護・デブリーフィング
8	健康障害を持つ子どもの看護	まとめ発表事例の看護展開と看護実践：グループワーク・演習

科目名	妊娠期・分娩期の看護			担当教員		赤田　久美子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	助産師として 15 年産科病棟、外来勤務経験あり。その経験を踏まえ臨床の現状や事例についても活用した講義を行っていきます。						

□位置付け

専門分野　母性看護学に位置づけ妊娠から始まる大きな流れの中における、妊娠期・分娩期に必要とされる看護を学ぶ科目であり、3 年次における母性看護学実習の履修要件となる科目である。

□授業の目的

妊娠期、分娩期にある対象が正常に経過するために必要な看護を学ぶ。
妊娠期、分娩期に起こりやすい正常からの逸脱と看護を学ぶ。

□授業の到達目標

【妊娠期】
1．　妊娠の経過と胎児の発育について理解する
2．　妊婦の心理・社会について理解する
3．　妊婦の日常生活とセルフケアについて理解する
4．　出産・育児の準備について理解する
5．　正常からの逸脱と看護を理解する。

【分娩期】
1．分娩の経過と胎児の健康状態について理解する
2．産婦と家族の心理について理解する
3．分娩の進行状態に合わせた看護について理解する

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提出物	20
	作文	–
	随時試験	–
	終講試験	80
	平常の授業状況（学習態度）	–
	その他（演習の参加状況）	–
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

定義がぶれては本質の理解ができません。また、正常値・標準値・
基本値があってはじめて、正常・異常の判断ができます。
覚えるべき定義や数値はしっかり頭に入れましょう。

□テキスト

・『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［2］母性看護学各論』　森恵美他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	妊娠の経過	妊娠の成立、胎児の発育と生理、胎児付属物
2		母体の生理的変化、心理的変化、親になる過程
3	妊娠期のアセスメント	妊婦と胎児のアセスメントの視点と情報収集の方法、妊婦健康診査
4		妊婦と胎児のアセスメント演習（経過と健康生活）ウエルネス志向
5	妊娠期の看護	保健相談の目的・方法　　グループワーク
6		グループワーク
7		グループワーク発表
8		妊婦の日常生活を整える　　出産・育児の準備
9	妊娠期の異常と看護	切迫早産の看護、妊娠高血圧症候群と看護 糖代謝異常合併妊娠と看護
10	分娩の生理と経過	分娩３要素
11		産婦の心理・社会的変化、分娩期の看護目標、胎児に及ぼす影響
12	分娩の経過と看護	安全・安楽で主体的な分娩への看護
13		分娩各期の看護、バースレビュー
14	正常からの逸脱と看護	分娩各期に起こりえる異常　分娩進行を促す
15	総括・試験	筆記試験

科目名	産褥期・新生児の看護			担当教員				単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	助産師、看護師として病院他で 10 年以上母性看護に携わる。授業はテキストに沿って、よりイメージが膨らむよう展開する						

□位置付け

専門分野　母性看護学に位置づけ、妊娠から始まる大きな流れの中における、産褥期・新生児期に必要とされる看護を学ぶ科目。この科目は 3 年次の母性看護学実習の履修要件となる科目である。

□授業の目的

産褥期、新生児期にある対象が正常に経過するために必要な看護を学ぶ。
産褥期に起こりやすい正常からの逸脱と看護を学ぶ。

□授業の到達目標

【産褥期】
1．　産褥の経過について理解する
2．　褥婦の日常生活とセルフケアについて理解する
3．　家族関係形成への援助を理解する
4．　褥婦の看護の実際を理解する
5．　正常からの逸脱と看護を理解する

【新生児期】
1．胎外生活適応の過程を理解する。
2．新生児の看護を理解する。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	30
	作文	－
	随時試験	－
	終講試験	70
	平常の授業状況（学習態度）	－
	その他（演習の参加状況）	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

定義がぶれては本質の理解ができません。また、正常値・標準値・基本値があってはじめて、正常・異常の判断ができます。なので、覚えるべき定義や数値はしっかり頭に入れましょう。

□テキスト

・『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［2］母性看護学各論』　森恵美他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	産褥の経過	産褥期の身体的変化、心理社会的変化
2	産褥期のアセスメント	退行性変化、アセスメントとケア
3		進行性変化、乳汁分泌メカニズム、母乳の特徴
4	家族関係形成への援助	授乳とアセスメント 児との関係確立への看護、育児技術にかかわる看護、 家族関係再構築への看護、
5	産褥期のメンタルヘルス 新生児の生理と経過	育児不安と産後うつ、マタニティブルーズ 新生児とは、子宮外適応現象
6	新生児の生理と経過	子宮外適応現象
7	新生児のアセスメント	新生児のアセスメント、出生直後の看護
8	新生児の看護	新生児の日常生活の看護、検査と与薬、事故防止
9	母子事例の看護過程	事例検討（個人）
10		事例検討（個人）
11		事例検討（個人）
12		実践過程　指導計画（グループ）
13		指導計画発表
14	児を亡くした褥婦・家族の看護、　まとめ	
15	総括・試験	筆記試験

科目名	生殖機能障害のある患者の看護			担当教員		保坂彩未		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師・助産師として母性領域で 20 年以上、病院・診療所・助産院保健センター等で勤務した臨床経験に基づき、生殖機能障害のある患者の特徴や取り巻く環境等、現状や事例を活用し講義を行う。						

□位置付け

専門分野　母性看護学に位置づける。母性看護学の対象は生涯を通じて性と生殖に関する健康を守る観点から女性とパートナーとしての男性も含めて看護を学ぶ科目として設定した。

□授業の目的

生殖器疾患の特徴を理解し、対象の健康障害をアセスメントし必要な看護を理解する。また、生殖機能障害が性役割、生き方、日常生活に及ぼす影響を理解し、看護者としての支援方法を学ぶ。

□授業の到達目標

１．　生殖機能の障害の特徴を理解する
２．　生殖器の主な疾患と検査・治療を理解する
３．　女性生殖器疾患の主な症状と診療時の看護を理解する
４．　手術療法を受ける患者の看護を理解する

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	－
	終講試験	100
	平常の授業状況	
	その他	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

□テキスト

・『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[9]　女性生殖器』　池田正他　医学書院
・『系統看護学講座　専門分野Ⅱ母性看護学各論』

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	生殖機能の健康障害の特性	生殖器に健康障害を持つ意味　対象者の理解
2	生殖機能障害と看護者の役割	看護者の役割　女性生殖器の構造
3	生殖医療の進歩	不妊の原因と治療
4	生殖器の疾患と検査・治療	主な検査と治療法
5	女性生殖器疾患の主な症状と診療時の看護	診療時の看護の基本 性器出血・下腹部痛・帯下、掻痒感の看護
6	乳がんの理解	乳がん患者の看護 乳房の手術を受ける患者の看護
7	手術療法を受ける患者の看護	広汎性子宮全摘術を受ける患者の看護 帝王切開術を受ける患者の看護
8	総括・試験	筆記試験

科目名	精神に障害を持つ人の理解			担当教員		小池　正美		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野　精神看護学に位置づけ 2 年次の精神看護学実習の履修要件となる科目である。精神障害を持つ人を理解するための精神障害についての基礎知識を習得する科目。

□授業の目的

精神障害の現れ方と特徴と主な精神障害の原因、診断、治療について理解する。

□授業の到達目標

精神機能の成り立ちと精神障害を持つ人の抱える症状（精神症状・状態像）について理解する。
精神科診療や診断のプロセスを理解する。
主な精神疾患、定義、症状、治療について理解する。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提出物	
	作文	–
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・精神疾患を理解することで、精神障害を持つ人の理解が進みます。精神領域で特有の表現、言葉が多く出てきます。講義の中でしっかりイメージできるように学びましょう。

□テキスト

・新体系　看護学全書　精神看護学②
　精神障害を持つ人の看護　メヂカルフレンド社

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	精神障害者の理解と診療の特徴	精神障害者のイメージ・精神科的診察と治療
2	精神症状の分類	精神症状の理解　（意識・知覚・思考の障害）
3	精神症状の分類	精神症状の理解　（感情・意思・欲動・自我意識・記憶・睡眠・知能・人格障害）
4	精神疾患と治療①	統合失調症、双極性障害
5	精神疾患と治療②	うつ病、不安障害
6	精神疾患と治療③	強迫性障害、PTSD、適応障害、摂食障害、睡眠障害、パーソナリティ障害、身体症状症
7	精神疾患と治療④	認知症、症状精神病、依存症、てんかん、発達障害、
8	終講試験	筆記試験

科目名	精神看護の基本技術			担当教員		岡野　渡辺		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野に位置づける。精神障害と持つ対象との関わりで基本となる関係性の構築方法について学び看護の実際に活用する。精神疾患の理解、精神看護の基本的考え方、精神障害の生活への影響と援助方法など基本的な知識を用いて、看護展開の実際を考える内容とする。

□授業の目的

自己理解から他者理解を深め、患者―看護師関係の成立、発展させるためのカウンセリングの基本である受容・傾聴・共感について体験を通して学ぶ。

さらに精神の健康問題をもつ患者の看護展開を学習する。

1．看護場面の再構成を行い自己理解、他者理解について理解する。
2．カウンセリングの基本姿勢である受容・傾聴・共感について体験を通して理解する。
3．カウンセリング技法を活用したコミュニケーションについての理解を深める
4．精神の健康問題を持つ患者の看護を展開する。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	40
	作文	
	随時試験	
	終講試験	60
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・精神疾患を理解することで、精神障害を持つ人の理解が進みます。精神領域で特有の表現、言葉が多く出てきます。講義の中でしっかりイメージできるように学びましょう。

□テキスト

・新体系　看護学全書　精神看護学②
　精神障害を持つ人の看護　メヂカルフレンド社

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	患者-看護師関係成立発展	1．精神科におけるコミュニケーション技術 1）コミュニケーションの原則、技法 2）患者-看護師のコミュニケーションの実際
2	看護展開の基礎知識	看護過程展開の技術
3	看護展開の基礎知識	精神状態のアセスメント①
4	精神状態の観察①	
5	カウンセリングの基本姿勢	1．看護カウンセリング 1）カウンセリングの基礎理論 2）自己理解・他者理解
6		
7	カウンセリング技法の看護場面での活用	1．医療現場での活用 1）初回面接での実際の活用 2）カウンセリングの技法と実際の活用
8		
9	シミュレーション①	「幻聴のある患者さんの精神状態の観察」
10		
11		1．プロセスレコードの検討
12		1．プロセスレコードの実際
13	シミュレーション①	「幻聴のある患者さんのセルフケア」
14		
15	終講テスト	客観的テスト

科目名	精神に障害を持つ人の生活と看護			担当教員		茅根寛子・小倉圭介 関川薫・長谷川陽子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	精神科病院などにおいて精神看護専門看護師として勤務。その経験を踏まえ、実際の病院臨床の現状や事例を活用した講義を行う。						

□位置付け

専門分野に位置づける。精神看護学概論で学んだことを基礎知識として、精神障害による症状が生活に与える影響や疾患の特徴を理解し、実践に結びつく看護方法を学ぶ。

□授業の目的

①精神の健康問題としてどのような問題があるか
②精神の健康問題が存在するときに、特に注意すべき状態とはどのようなものか
③精神の健康問題に対する看護とは何か（入院治療および地域移行支援）
これらについて学び、理解を深める

□授業の到達目標

①精神の健康問題としてどのような問題があるか
②精神の健康問題が存在するときに、特に注意すべき状態とはどのようなものか
③精神の健康問題に対する看護とは何か（入院治療および地域移行支援）
精神看護に興味をもち、精神の健康問題が生活に及ぼす影響と必要な関わりを学修することができる。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント
・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ
・臨床での関わりを聞くことができます。看護について新たな発見をしながら学んでください。

□テキスト
・新体系　看護学全書　精神看護学②
　精神障害をもつ人の看護

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	精神の健康問題	精神障害者の理解と看護の基本　看護の倫理と人権擁護
2	精神科治療と看護の役割①	入院環境と日常生活行動の援助
3	コミュニケーション	コミュニケーションへの援助
4	精神科治療と看護の役割②	SST（生活技術訓練）
5	精神科治療と看護の役割③	統合失調症患者の看護①
6	精神に障害をもつ人の特徴と看護	統合失調症患者の看護②
7	精神に障害をもつ人の特徴と看護	気分障害患者の看護①
8	精神に障害をもつ人の特徴と看護	気分障害患者の看護②
9	精神に障害をもつ人の特徴と看護	発達障害患者の看護
10	精神に障害をもつ人の特徴と看護	アルコール・薬物依存症患者の看護
11	精神に障害をもつ人の特徴と看護	神経症（強迫・摂食）とパーソナリティ障害患者の看護
12	精神に障害をもつ人の特徴と看護	服薬治療に関わる援助と心理教育
13	精神に障害をもつ人の地域移行支援	地域での生活と地域移行支援
14	精神に障害をもつ人の地域移行支援	（＊当事者からのお話）
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	診療の補助技術における安全			担当教員		渡邊明子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	総合病院にて外科、内科看護師として勤務。看護師が薬物療法を安全かつ正確に実施できるように知識と技術を身に着けることができるように講義を行う						

□位置付け

看護の統合と実践に位置づけ、3 年次の「統合実習」履修要件とする科目である。医療の進歩に伴い、診療の補助は高度化・複雑化し、また療養上の世話においても患者の高齢化で繊細な気遣いが求められるようになっている。安全な医療・看護の提供のために医療安全の意識を高めるために設定した。

□授業の目的

医療システムの中の危険因子を知り、診療の補助技術における事故防止のための知識・技術を修得できる。また演習を通して、医療事故を防ぐコミュニケーションを理解する。

□授業の到達目標

1．医療安全を学ぶ意義が説明できる
2．与薬の危険因子を認識し事故防止について理解する
3．チューブ類挿入中のトラブルを予測し安全な管理を理解する
4．医療機器の適切な取り扱いを習得する
5．医療事故を防ぐコミュニケーションを理解する
6．医療における感染対策の現状を理解する

□成績評価の方法 評価項目		割合
出席状況		–
試験等	提出物	
	作文	–
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

看護業務は複雑で多岐に渡り、時には「いつか自分が医療事故を起こすのではないか」と不安になることもあります。この授業では医療現場で取り組まれている安全対策、事故発生のメカニズムや発生防止の考え方、自分自身の力で医療事故を回避する方策を学んでいきます。“人はだれでも間違える”という考え方を基本に、安全に看護業務を遂行するためにはどう行動したらよいのか、一緒に考えていきましょう。

□テキスト

・『系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践[2]　医療安全』川村治子　医学書院
・看護がみえる vol.2

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	＜医療安全・総論＞ 医療安全と医療事故について	医療安全を学ぶ意義
2		ヒューマンエラー、リスクマネジメント/セーフティマネジメント
3		事故対策と事故分析
4		医療安全と法律、チームで取り組む安全文化の醸成
5		医療事故発生時の対応、看護事故とは
6	＜医療安全・各論＞ 診療の補助技術における事故と安全対策	①チューブ管理　（講義、演習）
7		
8		②注射業務
9		
10		③輸血業務
11		看護師の労働安全衛生上の事故防止：感染症、針刺し
12		④輸液ポンプ、シリンジポンプ（講義）
13		④輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い（校内実習）
14		
15	総括　終講試験	筆記試験

科目名	キャリアデザインⅡ			担当教員		２年次担任他		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

２年次に設定し学生生活ｶﾞｲﾄﾞに掲げた学年到達目標の達成に位置付ける。中間学年となる 2 年次は専門科目の難しさに自己の目標を見失いやすい時期でもある。１年次に修得した知識・技術・態度を土台に、更に多職種理解や臨地実習経験を積み上げながら自己の強みと課題を見出し、目標達成へ行動する態度を養う。

□授業の目的

既修得の授業を実践に活かし、学年到達目標の達成を年度中に目指す。ｶﾘｷｭﾗﾑ進度と連動した日程を組み、適時に授業へ取組むことで課題へ納得しながら理解を深めるように工夫した。

□授業の到達目標

１．対象となる患者や多職種に渡る関係者等の価値観を尊重し、専門職業人に相応しいおもいやりのある行動がとれる。
２．対象に関連した事実を根拠に基づき意味づけ、健康に課題を持つ対象への看護を理解できる。
３．看護実践の中で、対象主体の倫理を考えられる。
４．他学年と交流し、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをとりながら対象と協調できる
５．自主的かつ継続的に看護の学修に取り組める。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	－
	作文	－
	随時試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ評価はできません。

□学生へのメッセージ

・専門職業人である看護師に求められる考えや取組みについて、１年次を振返りながら既修得の授業を横断的に捉え、この１年間で更に成長しましょう。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

・別途指示します

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	新年度オリエンテーション	年度計画の説明、新しいｸﾗｽ作りの話合い
2	交流学習	他学年と交流
3	学年目標の中間評価	前期の振り返り、学年目標の到達状況の確認、看護観教育
4	看護観教育	看護観を育成
5	看護観教育	他学年交流で看護観を育成
6	多職種理解	共同学習に向けた準備
7	多職種理解	介護福祉科との協同学習
8	学年目標の最終評価	学年目標の最終評価と次年度に向けた話合い

科目名	基礎看護学実習Ⅲ			担当教員		渡邊明子　他		単位数	2
対象学科	看護			学年	2	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として 5 年以上勤務。経験をもとに、基礎看護学を基盤とし対象の状態に応じた看護が実践できるように支援する。						

□位置付け

看護の対象である人間を捉え、講義や校内実習で学んだ基礎知識や、看護技術を統合して初めて対象に援助を実施することにより対象の理解と技術の習得を目指す。

□授業の目的

対象の健康障害が生活に与える影響を捉えた上で対象に必要な援助の実施をする

□授業の到達目標

1．対象の看護アセスメントを行い、全体像を捉えることができる。
　1）アセスメントの枠組みに沿って情報収集することができる。
　2）集めた情報の意味付けをし対象のデータベースが作成できる。
　3）対象の『強み』と『看護上の問題』と『ニーズ』が特定できる。
　4）対象の全体像を捉えることができる。
2．優先順位の高い看護上の問題を把握し、解決方法が考えられる。
　1）看護問題リストをあげ、問題の優先順位がわかる。
　2）期待される成果の設定ができる。
　3）看護介入の決定ができる。
　4）看護計画の評価ができる。
3．対象の状態に応じた援助が実施できる。
　1）援助の実施に際しては対象の状態を踏まえ実施できる。
　2）実施した援助を振り返ることができる。
4．対象との良好な援助関係を築くことができる。
　1）対象を援助が必要な人として考えることができる。
　2）対象の言動を受け止め、その意味を考えることができる。
　3）対象の苦痛・悲しみ・喜びなどに共感できる。
　4）自分の考えを伝えることができる。
5．専門職業人としての態度を身に着けることができる。
　1）対象と家族の意思決定に関する思いがわかる。
　2）看護学生として、自覚と責任をもった行動がとれる。
　3）自己の行動を振り返りができる。
　4）実習の学びから課題を見出し、継続した学習につなげることができる。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		
試験等	提出物	
	レポート	
	随時試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況（実習態度）	20
	その他	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習時間の 4/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終提出物が決められた時間に提出できない場合も、評価を受けられません。

□学生へのメッセージ

基礎看護実習も最後になります。今まで学んできた学習、看護過程を用い対象にとって必要な看護を一緒に考えていきましょう。

□テキスト

基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ他

□参考図書・資料・参考ホームページ

・講義資料

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	基礎看護学実習Ⅲ	実習オリエンテーション、技術練習（学内）
2		病棟オリエンテーション、情報収集
3		情報収集、対象への援助見学・実施
4		情報収集、対象への援助見学・実施。記録整理
5		対象の全体像を捉える、関連図、全体像、問題リスト作成（学内）
6		問題リストに沿い情報収集、援助
7		対象への援助、取り上げる看護問題の確認
8		看護計画の立案（学内）
9		看護計画に沿い実施
10		看護計画に沿い実施
11		看護計画の実施・評価
12	↓	まとめ

科目名	成人・老年看護学実習Ⅰ			担当教員		岡本隆行　他		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として５年以上勤務。高齢者への看護経験をもとに、高齢者の特徴を中心とした学びを支援する。						

□位置付け

加齢現象は身体生理機能の低下を引き起こし、特に高齢者は生活や社会・心理的側面に大きな影響を及ぼしうる。また、ライフイベントや既往歴も高齢者の生活にも影響を及ぼしうる。
そのような高齢者を対象に、ライフイベント、個別性、高齢者像、そして看護を考え、成人・老年看護学実習Ⅴへつながるように学びを深め、自己の高齢者観を育む。

□授業の目的

加齢現象により生理機能が低下した高齢者の特徴を理解し、対象に応じた生活の援助を理解する。

□授業の到達目標

１）加齢現象により生理機能が低下した高齢者の特徴を理解できる
２）高齢者の対象に応じた看護を理解できる
３）専門職業人として倫理的な態度を養える

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	80
	レポート	－
	随時試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況（実習態度）	20
	その他	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習時間の 4/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終提出物が決められた時間に提出できない場合も、評価を受けられません。
詳細は別途、実習要項を参照ください。

□学生へのメッセージ

節目ごとに実習目標を繰返し確認し、実習目標を達成するように臨みましょう。

□テキスト

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ　老年看護学』医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

実習場所に関するテキスト

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
	成人・老年看護学実習Ⅰ （５日間）	オリエンテーション（実習前に実施する）
	↓	リハビリテーション病院実習（２日間） ・病院オリエンテーション ・病棟毎の仕組みと特徴 ・高齢患者の情報収集、特徴の理解、コミュニケーション （既往・現病歴、治療、動作、入院生活とその思い　等） ・高齢患者のリハビリテーションと看護業務の意義や役割　等
		介護老人保健施設実習（1 日間） （上記、リハビリテーション病院実習に準じる）
		地域高齢者実習（２日間） ・地域で暮らす高齢者の特徴と看護　等
	↓	※実習は、グループに分かれて行います。 詳細は、別途配布の実習要項を参照ください。

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ			担当教員		佐々木元子		単位数	1
対象学科	看護			学年	2	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容							

□位置付け

成人期・老年期にある対象が疾患をもちながら生活を支える看護を理解する

□授業の目的

・成人期にある人々が生活を送りながらどのように自身の健康問題と向き合っているか理解する。
・成人期・老年期で慢性疾患を持ちながら生活する人の健康管理上の問題・課題とそれを支える看護の必要性を理解する。
・成人期以降の自律した人々の健康増進・疾病予防の必要性を理解する。

□授業の到達目標

1. 成人期にある人々の健康増進・疾病予防対策の実際を理解する。
2. 慢性疾患をもちながら生活する人の健康管理を知る。
3. 専門職業人としての倫理的な態度を養うことができる。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・実習時間の 4/5 以上出席がなければ評価を受けることができません。なお最終提出物が決められた時刻までに提出できない場合も評価を受けられません。

□学生へのメッセージ

・成人期を過ぎた対象の健康維持への意識と生活の実際を学び人々の疾病予防のための看護について考えましょう。

□テキスト

成人看護学概論　ヌーヴェルヒロカワ　他
系統看護学講座　専門分野Ⅱ成人看護学［8］腎・泌尿器　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・関連講義資料

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	成人老年看護学実習Ⅱ	実習オリエンテーション
2		透析治療についての共有学習と意思決定支援についての学習
3		透析治療を受ける患者の健康管理を支える看護の実際を知る
4		生活しながらの健康管理についてインタビューをする
5		健康診断の活用の実際について知る
6		健康の保持増進のためのシステムについて知る
7		カンファレンス　得られた情報を共有し学習を深める
8		成人期にある人の健康問題・課題を抽出
9		成人期における保健医療福祉・および看護の役割を考える
10		カンファレンス・まとめ

科目名	精神看護学実習			担当教員		岡野全子		単位数	2
対象学科	看護			学年	2	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

入院治療を必要とする対象や地域で生活をする対象の理解とそれぞれの援助方法を知る科目。

□授業の目的

精神に障害のある対象を理解し、対象に応じた看護が実践できる。

□授業の到達目標

1．精神の障害が身体面、精神面、社会面に及ぼす影響がわかる。
2．精神の障害がセルフケア行動に与える影響について説明でき、必要な援助を考え関わることができる。
3．患者－看護師関係の成立と発展過程に必要な基本的姿勢をもとに、人間関係を築くことができる。
4．医療チームでの各職種の役割を理解できる。
5．精神に障害のある対象のおかれている立場や状況を知り、地域における支援のあり方を知る。
6．専門職業人としての態度を養う。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	
	レポート	
	随時試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況（実習態度）	
	その他	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習時間の 4/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終提出物が決められた時間に提出できない場合も、評価を受けられません。

□学生へのメッセージ

精神障害をもつということはどういうことなのか、どのような生きにくさがあるのか体験の中から一緒に考えていけるような実習にしたいと思います。

□テキスト

新体系看護学全書　精神看護学①　②

□参考図書・資料・参考ホームページ

1・2 年次の事業資料

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	精神科病棟実習	1）治療的環境の理解 ・病棟の構造と特徴　・入院患者の権利擁護
2		1）受持患者と出会いの時期を意識した関わり 2）情報収集と整理
3		1）情報収集の整理・アセスメント
4		1）全体像の大枠がわかる 2）一週間の振り返りと看護の方向性の確認
5		関わりの実施
6		1）関係の終結を意識した関わり
7		1）受け持ち患者との振り返り 1）2）まとめのカンファレンス
8	学内実習	カンファレンス：学びの共有
9	【地域実習】精神科デイケア アルコールディケア	・プログラム体験を通して学ぶ実習
10	【地域実習】作業所または就労継続（移行）支援施設実習	・オリエンテーション（施設概要の理解） ・作業活動の見学と実践 ・作業活動への参加
11	【地域実習】作業所または就労継続（移行）支援施設実習	・前日の課題にそって、学ぶ。 ・施設でのメンバーの参加のしかた、職員間の関わり方の中から、地域社会でどのような支援が必要か考える。
12	【地域実習】学内実習 地域最終カンファレンス	1）3 日間の作業所または就労継続（移行）支援施設の体験からの 2）カンファレンス

看 護 科　　３年生

看護科　2023年度生カリキュラム

科目区分		教育内容		科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計	
履修方法	科目内容					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
登録指定科目	基礎科目	基礎分野	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	論理学Ⅰ	講義	1	15					1	15
				論理学Ⅱ	演習	1	15					1	15
				情報科学	演習	1	15					1	15
				情報リテラシー	講義	1	15					1	15
				文学	講義	1	30					1	30
				心理学	講義	1	30					1	30
				人間関係論Ⅰ	講義	1	15					1	15
				人間関係論Ⅱ	演習	1	15					1	15
				環境生態学	講義	1	15					1	15
				運動と健康	演習	1	15					1	15
				教育学	演習	1	30					1	30
				英会話	演習	1	30					1	30
				家族社会学	講義	1	30					1	30
				社会学	演習			1	30			1	30
			小　計			13	270	1	30			14	300
	専門科目	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅱ	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅲ	講義	1	30					1	30
				解剖生理学Ⅳ	講義	1	30					1	30
				生化学	講義	1	30					1	30
				栄養学	講義	1	30					1	30
			疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	講義	1	30					1	30
				病態生理と治療（循環・呼吸・血液）	講義	1	30					1	30
				病態生理と治療（消化器・代謝）	講義			1	30			1	30
				病態生理と治療（運動・脳神経・眼）	講義			1	30			1	30
				病態生理と治療（腎・泌尿・免疫）	講義			1	15			1	15
				病態生理と治療（感覚器）	講義			1	15			1	15
				病態生理と治療(小児)	講義			1	15			1	15
				臨床放射線医学	講義			1	15			1	15
				臨床薬理学	講義			1	30			1	30
				微生物学	講義	1	30					1	30
			健康支援と社会保障制度	医療概論	講義	1	15					1	15
				公衆衛生学	講義			1	30			1	30
				生命倫理	演習					1	15	1	15
				社会福祉	講義			1	30			1	30
				関係法規	講義					1	30	1	30
				生活科学	講義	1	15					1	15
			小　計			11	300	9	210	2	45	22	555
			基礎看護学	看護学概論	講義	1	30					1	30
				看護倫理	講義	1	15					1	15
				基本技術	演習	1	30					1	30
				ヘルスアセスメント	演習	1	30					1	30
				生活を整える技術Ⅰ	演習	1	30					1	30
				生活を整える技術Ⅱ	演習	1	30					1	30
				診療・処置に伴う技術	演習	1	30					1	30
				与薬の技術	演習			1	30			1	30
				看護過程展開の技術	演習	1	30					1	30
				臨床看護総論	講義	1	30					1	30
				臨床看護技術	演習			1	30			1	30
			地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	講義	1	15					1	15
				地域・在宅療養を支える看護	講義	1	30					1	30
				地域・在宅療養と多職種連携	講義			1	15			1	15
				地域・在宅療養者の健康状態に応じた看護	講義			1	15			1	15
				在宅看護技術	演習			1	15			1	15
				地域・在宅看護過程	演習			1	15			1	15

科目区分		教育内容		科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計	
履修方法	科目内容					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
登録指定科目	専門科目	専門分野	看護学 成人	成人看護学概論	講義	1	30					1	30
				健康危機状況にある成人の看護	演習			1	30			1	30
				侵襲的治療を受ける成人の看護	演習			1	30			1	30
				セルフケア再獲得に向けての成人の看護	演習			1	30			1	30
				セルフマネジメントを必要とする成人の看護	演習			1	30			1	30
				緩和ケアを必要とする人の看護	講義			1	30			1	30
			看護学 老年	老年看護学概論	講義	1	30					1	30
				高齢者の生活と社会	講義	1	15					1	15
				高齢者の日常生活援助	演習			1	30			1	30
				高齢者の健康障害時の看護	講義			1	30			1	30
			看護学 小児	小児看護学概論	講義	1	30					1	30
				小児の発達段階に応じた看護	演習			1	30			1	30
				小児の健康状態に応じた看護	講義			1	30			1	30
				小児のアセスメントと看護	演習			1	15			1	15
			看護学 母性	母性看護学概論	講義	1	30					1	30
				妊娠期・分娩期の看護	演習			1	30			1	30
				産褥期・新生児の看護	演習			1	30			1	30
				生殖機能障害のある患者の看護	講義			1	15			1	15
			看護学 精神	精神看護学概論	講義	1	30					1	30
				精神に障害を持つ人の理解	講義			1	15			1	15
				精神看護の基本技術	演習			1	30			1	30
				精神に障害を持つ人の生活と看護	演習			1	30			1	30
			統合と実践 看護の	診療の補助技術における安全	演習			1	30			1	30
				臨床看護の実践Ⅰ	演習					1	15	1	15
				臨床看護の実践Ⅱ	演習					1	15	1	15
				臨床看護の実践Ⅲ	演習					1	15	1	15
				看護研究	演習					1	30	1	30
				看護管理	講義					1	15	1	15
				国際協力と災害看護	演習					1	15	1	15
				キャリアデザインⅠ	演習	1	15					1	15
				キャリアデザインⅡ	演習			1	15			1	15
				キャリアデザインⅢ	演習					2	30	2	30
			小計			18	480	24	600	8	135	50	1,215
			実習 臨地	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1	45					1	45
				基礎看護学実習Ⅱ	実習	1	45					1	45
				基礎看護学実習Ⅲ	実習			2	90			2	90
				地域・在宅看護論実習Ⅰ	実習	1	45					1	45
				地域・在宅看護論実習Ⅱ	実習					2	90	2	90
				成人・老年看護学実習Ⅰ	実習			1	45			1	45
				成人・老年看護学実習Ⅱ	実習			1	45			1	45
				成人・老年看護学実習Ⅲ	実習					2	90	2	90
				成人・老年看護学実習Ⅳ	実習					2	90	2	90
				成人・老年看護学実習Ⅴ	実習					2	90	2	90
				小児看護学実習	実習					2	90	2	90
				母性看護学実習	実習					2	90	2	90
				精神看護学実習	実習			2	90			2	90
				統合実習	実習					2	90	2	90
			小 計			3	135	6	270	14	630	23	1,035
合 計						45	1,185	40	1,110	24	810	109	3,105

※看護科の卒業には修業年限以上在学し、109単位の修得が必要。

科目名	生命倫理			担当教員		川上祐美		単位数	1
対象学科	看護			学年	3	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門基礎科目に位置づける。医療に携わる者として人間の生命に対する倫理観を問い、保健・医療・福祉の諸問題について意識を高められるように3年次に設定した。

□授業の目的

生老病死にわたる医療のあり方を生命倫理＜バイオエシックス＞の視点からとらえ、現代の諸問題に対処し得る思考と豊かな人間観が養われることをめざす。

□授業の到達目標

１．多角的に考える。
２．共感的に想像する。
３．論理的に表現する。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	
	レポート	20
	随時試験	
	終講試験	
	平常の授業状況（※）	80
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の2/3以上出席しなければ終講試験は受験できません。

※当日の講義内容について、授業内で毎回ミニレポート（リアクションペーパー）を提出して頂きます。それが評価の中心となります。

□学生へのメッセージ

・医療は日々新しい進展を遂げています。新聞記事やニュースなどに日常的に目を向けて、良い医療とは、健康とはなにかについて折に触れて考えてみてください。

□テキスト

・『系統看護学講座 別巻 看護倫理』　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

授業内で随時紹介します。

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	いのちを考える	現代の生老病死と医療
2	終末期のケアと意思決定	死をめぐる自己決定と事前指示
3	人間らしい死とは	尊厳死・安楽死の状況から
4	命の格差と線引き	脳死と臓器移植
5	家族とは何か①	LGBT　ジェンダーの多様性
6	家族とは何か②	生殖医療と出自を知る権利
7	優生思想の歴史と今	エンハンスメント・ゲノム技術の行く先
8	医科学技術と人間の尊厳	戦争と臨床研究の倫理

科目名	関係法規			担当教員		吉野雅文		単位数	1
対象学科	看護			学年	3	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	保健医療福祉行政に 40 年近くにわたり従事。これらの実務経験を踏まえ、看護職員として不可欠な諸制度及び各法の目的、内容を講義する。						

□位置付け

専門基礎分野に位置づける。社会の変化に伴い我が国の保健医療福祉に関する諸制度は変化する。
看護者として質の高い看護を提供するために、諸制度の概要とそれを規定する諸法令を理解し対象者の健康支援に取り組めるように設定している。

□授業の目的

法の基礎知識と保健医療福祉関係法規を学び、医療従事者としての業務と責任について理解する。

□授業の到達目標

１．保健医療福祉に関する諸制度の動向を理解できる。

２．医療従事者としての業務と責任について理解する。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	
	作文	
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上の出席がない場合は、終講試験を受ける事はできません。

□学生へのメッセージ

・

『系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令』森山幹夫　医学書院　第 57 版

□参考図書・資料・参考ホームページ

・『国民衛生の動向 』2024/2025

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	法の概念･厚生労働行政のしくみ	法の概念、衛生法の概念・沿革、社会保障制度、行政の指導理念
2	看護法	保健師助産師看護師法、看護師等人材確保促進法
3	医事法（医療法）	医療安全、病院の管理・人員、医療計画、医療連携、救急医療、災害医療
4	医事法（資格法）・共通保健法	医療福祉関係資格法、臓器移植法、地域保健法、健康増進法
5	分野別保健法	精神保健福祉法、母子保健法、母体保護法、学校保健安全法等
6	分野別保健法・感染症関係法	自殺対策基本法、がん対策基本法、難病法、感染症法、予防接種法等
7	食品関係法・環境衛生法・薬務法	食品衛生法、水道法、医薬品・医療機器等法、麻薬向精神薬取締法等等
8	社会保険法（医療保険法・年金）	健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法、国民年金法等
9	社会保険法（介護保険法）	介護保険法
10	福祉法（福祉の基盤・児童福祉）	生活保護法、成年後見制度、児童福祉法、児童虐待防止法等
11	福祉法（高齢福祉・障害福祉）	老人福祉法、高齢者虐待防止法、障害者基本法、障害者総合支援法等
12	労働法	労働基準法、労働安全衛生法、育児休業法、男女雇用機会均等法等
13	社会基盤整備・環境法	配偶者暴力防止法、個人情報保護法、環境基本法、廃棄物処理法等
14	各法の要点整理	各法の重要なポイントを再確認
15	総括　終講試験	筆記試験

科目名	臨床看護の実践Ⅰ			担当教員		渡邊明子　他		単位数	1
対象学科	看護			学年	3	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として10年以上勤務。経験をもとに、基礎看護学を基盤とし対象の状態に応じた看護が実践できるように支援する。						

□位置付け

専門分野　看護の統合と実践に位置づける。1・2年次の講義・校内実習・臨地実習での学びを統合し、臨地実習に向けて対象に援助を行うための看護を学ぶ。

□授業の目的

3年次各論実習開始に向け、必要な知識、技術を総復習し自己の課題が明確になるようにする。

□授業の到達目標

１．看護実践に向け必要な知識・技術について事前に学習し望むことができる。
２．実習を意識し専門職業人としての態度を意識し望むことができる。
３．チームで動くことを意識し、チーム内で相談しながら対応する。
４．看護実践後の自己の課題については、実習開始までに自ら課題の解決につとめるよう計画できる

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		必須
試験等	提出物	55
	作文	
	随時試験	15
	終講試験	
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　実践　　）	30
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の参加と提出物、実践を持って評価とします。

□学生へのメッセージ

・3年生の実習開始前に行う授業です。
対象の看護を実践していくために必要な知識や技術を活用する
・各論実習開始前に知識・技術を振り返り、自己の課題を明確にしていきましょう。

□テキスト

・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ他

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	対象理解	事例の疾患の病態や看護の共通理解をはかる。対象から情報収集
2	治療後の看護実践	グループ毎に実践し、振り返りを行う
3	同上	同上
4	状態を踏まえた清潔ケア	対象の状態を踏まえ、清潔ケアを実践する
5	同上	同上
6	退院指導を考える	対象から情報収集を行い、退院後の看護を考える
7	同上	同上
8	退院支援を実施	小テスト　グループ毎に退院指導を実施、振り返り

科目名	臨床看護の実践Ⅱ			担当教員		岡野全子		単位数	1
対象学科	看護			学年	3	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	12 年間、外科、内科病棟で勤務。その経験をもとに講義を行う。						

□位置付け

3 年間の学びを統合し、さらに連携・協働の中での看護活動に視点を広げる。複数患者受け持ちの校内実習を通して、優先順位の考え方、チームで看護を行う方法について学ぶ。

□授業の目的

臨床に近い状況下を想定し、総合的な判断・対応を体験することにより、臨床での看護業務遂行の実際を学ぶ。

1．事例のｱｾｽﾒﾝﾄ看護問題の抽出を行い、看護問題の優先順位を考えることができる。
2．2 人の患者に必要な援助の優先順位を考えた行動計画が立案できる
3．計画にそった計画実施中に起こりうる割り込み状況に対して、自己の対応能力に見合った対処方法が判断できる。
4．　チームメンバーと連携しながら、状況に応じた看護の実践ができる。
5．　2 人の患者への看護実践を以下の点で振り返ることができる。
6．これまでの演習を振り返り自己の課題を明確にできる。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		10
試験等	提出物	20
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	70
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・臨床で看護活動をする自分を想像しながら、チームで看護を行う能力を身につけてください。

□テキスト

・看護学概論、他

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	看護業務のマネジメントのための基礎知識	看護業務のマネジメント、チームでの連携、協働 患者の状態から起こりうることを予測し、優先度を考え、半日の行動計画を作成
2	2 例の事例展開	今後起こりうることの予測と優先度を考えた行動計画の立案
3	2 例の事例展開	事例への援助技術の確認
4	多重課題	校内実習：2 名の検温
5	多重課題	校内実習：2 名の検温
6	緊急・突発事態への対応	校内実習：緊急・突発事態に応じた看護の実践
7	緊急・突発事態への対応	校内実習：緊急・突発事態に応じた看護の実践
8	まとめ・客観試験	筆記試験

科目名	臨床看護の実践Ⅲ			担当教員		伊東由美		単位数	1
対象学科	看護			学年	3	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として臨床で経験した上で看護教育に携わっている						

□位置付け

専門分野　看護の統合と実践に位置づける。講義・校内実習・臨地実習での学びを統合し、専門職業人になるために何か必要であるか理解する。

□授業の目的

看護実践者として看護の質を高める実践に取り組む。

□授業の到達目標

１．チームの意味を理解し看護チームの一員として行動できる。
２．カンファレンスの意味を理解し解決に向け実践に取り組むことができる。
３．実践におけるインシデントを振り返り解決策を見出すことができる。
４．1年間の看護実践を振り返り専門職業人としての自己課題を見出すことができる。

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		50
試験等	提出物	30
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	
	平常の授業状況（参加態度）	20
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

・日頃の実習への取り組みがこの授業の評価に影響します。

□学生へのメッセージ

・専門職業人として何が出来るのか臨地実習で経験をより深く学んでいきましょう。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ
看護職の倫理綱領（日本看護協会）
看護カンファレンス　川島みどり　医学書院

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	医療チーム	チームにおける看護師の役割と責務　　演習
2	カンファレンス	カンファレンスの意味
3	カンファレンス計画	カンファレンステーマに向けて計画を立案する　演習
4	カンファレンス計画	〃
5	インシデント	医療安全と看護師の役割
6	インシデント振り返り	看護実践におけるインシデントを振り返る　　演習
7	専門職者	看護の質の向上への取り組み
8	1年間の振り返り	チームプレゼン

科目名	看護研究			担当教員		岡本隆行		単位数	1
対象学科	看護			学年	3	授業形態	講義・演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野、看護の統合と実践の科目として位置付ける。
看護にまつわる様々な現象に関する真実を明らかにし、法則を導き出すことを目指す側面を看護研究は持つ。初めて研究に触れる学生も多く、看護師として就業後も活用できるよう、看護研究の意義、方法の基礎について理解する。また論文を通して論理的思考や研究的態度などを養う内容を設定する。

□授業の目的

研究成果を活用し、看護の質向上に貢献する看護研究の意義や方法の基礎を理解する。授業や実習等を通して見出した疑問を取りあげ、文献を読み解きながらまとめることで論理的思考や研究的態度などを養う。

□授業の到達目標

１．看護研究の概要を理解する。
２．看護研究の進め方を理解する。
３．研究論文を読解する。
４．課題をリポートにまとめ、提出する。

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提出物	60
	作文	－
	随時試験	－
	終講試験	40
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（　　）	－
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・看護科でのこれまでの学びを活かしてリポートにまとめ、学びを可視化して他者へ伝える力をつけましょう。

□テキスト

・『系統看護学講座　看護研究』医学書院
・『系統看護学講座　看護学概論』医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

・『看護研究』D.Fﾎﾟｰﾘｯﾄ・B.Pﾊﾝｸﾞﾗｰ　医学書院
・『APA 論文作成ﾏﾆｭｱﾙ』医学書院
・『黒田裕子の看護研究 Step by Step』医学書院
・『ﾅｰｽのための質的研究入門』医学書院
・『日本看護協会』www.nurse.or.jp/
・『厚生労働省』www.mhlw.go.jp/

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	看護研究とは	授業展開の説明、看護研究の位置づけ
2	研究の進め方	研究手順、計画書
3	研究デザインとは	研究デザインとその特徴
4	テーマ決め 文献検索、文献検討	文献検索、文献検討しながらテーマの絞り込み
5		
6		
7	論文の読み方	取組みへの進捗をふまえた疑問、課題等の共有と論文読解の支援
8	質・量的研究	質的・量的研究とその特徴
9	信頼性・妥当性・真実性	信頼性・妥当性・真実性の捉え方
10	リポート作成、発表準備	リポート作成の最終確認、発表の準備
11	リポート発表	発表、他者講評
12		
13		
14		
15	総括と終講試験	筆記試験

科目名	看護管理			担当教員		倉持　深澤　伊東		単位数	1
対象学科	看護			学年	3	授業形態	授業	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野　看護の統合と実践に位置づける。看護はチームで行うものであり人・物・金が必要であり経済管理の意識も必要である。医療チームの一員として何をすべきか考える事が出来るように設定した。

□授業の目的

看護の提供の仕組みを理解し、看護管理の基礎的知識を学ぶ。

□授業の到達目標

看護提供の場を知り病院組織における看護サービス提供の仕組みを理解できる。
看護をめぐる制度と政策を理解できる。
看護管理のシステムを理解できる
診療報酬の仕組みについて理解できる
看護の継続教育について理解できる

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント
・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。
・担当講師によって点数を配分します

□学生へのメッセージ
・卒業前の最後の授業です。
　まじかに迫る臨床現場をイメージしながら学んでください

『系統看護学講座 専門分野Ⅰ　基礎看護学[1]　看護学概論』
茂野香おる他　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ
・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	看護管理概論	看護サービス　医療・看護の質の評価
2	病院における看護組織	実習病院の組織と看護部の連携
3	看護政策	看護制度の変遷
4	看護サービスと経済	診療報酬制度
5	日本の看護の現状	人的資源
6		人的・物的・お金　資源管理
7	継続教育	看護師のキャリア
8	終講試験	筆記試験

科目名	国際協力と災害看護			担当教員		ソルステインソンみさえ		単位数	1
対象学科	看護			学年	3	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員		実務経験内容							

□位置付け

専門分野　看護の統合と実践に位置づける。日本は災害が多い国であり災害発生時に看護者として何をすべきか考えられるように3年次に設定している。

□授業の目的

　世界の中で看護職としてできる社会貢献・国際貢献について理解を深めることができる。
特に国内外で前触れもなくやってくる災害では、専門職として人々の健康と生活向上に向けた社会的支援を行うことを求められている。災害看護の実際と災害直後から支援できる基礎知識を学ぶ。

□授業の到達目標

医療活動の国際協力について理解できる。
災害看護の概念を理解し、災害各期の看護活動を理解できる

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	100
	平常の授業状況（　　）	
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ終講試験は受験できません。

□学生へのメッセージ

・

□テキスト

・

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	国際看護の基本理念	世界の健康問題の現状
2		国際協力のしくみ
3	災害看護とは	災害時の社会制度（法、救援体制、救助活動）
4	災害サイクルからみた看護ケア	①災害直後の被災者へのケア　②災害復興期の被災者へのケア
5		災害と心のケア
6		災害時の看護ケアの実際　　演習
7		災害時の看護ケアの実際　　演習
8	終講試験	筆記試験

科目名	キャリアデザインⅢ			担当教員		3年生担任・伊東		単位数	1
対象学科	看護			学年	3	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容							

□位置付け

専門分野　看護の統合と実践に位置づける。実習の経験を基に自分が目指したい看護師像を明確にできる事・将来のキャリア形成を考える職業人をめざす事を支援するために設置した。

□授業の目的

最終学年として学生生活を振り返り、自己成長する機会とし自分が目指す看護師像を明確にできる事を目的にしている。また、国家資格取得に向け計画的に取り組む姿勢を身につけながら合格を目指す。

□授業の到達目標

１．卒業を目指し3年間の集大成を形に示すことができる。
２．国家資格を取得するスキルを身につけ学習成果を上げることができる。
３．最上学年として3年間で獲得したスキルを下級生に示すことができる。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		30
試験等	提出物	40
	作文	－
	模擬試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況（　　）	－
	その他（看護観）	30
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・授業時間の 2/3 以上出席しなければ評価を受けることはできません

□学生へのメッセージ

・3年生の総仕上げに繋がる授業となります。看護師なる自分を描きながら取り組んでいきましょう。

□テキスト

・

□参考図書・資料・参考ホームページ

・

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	CLASS 運営	クラス作りと年間計画
2	学習への取り組み	国家試験に向けた学習方法の理解と計画
3	学習への取り組み	国家試験に向けた学習の実際
4	学年交流	学年交流
5	就職支援	社会人に求められる社会人力
6	就職支援	面接と自己分析
7	国家資格対策	国家試験に向けた学習の実際
8	学年交流	キャリアデザインⅡ参加（2年生看護観）
9	国家資格に向け実力判断	ゼミ
１０	看護観	自己の看護観を考える　「私の目指す看護」の作成
１１	学年交流	1年生に学びを伝える
１２	講習	国家試験講習
１３	講習	国家試験講習
１４	看護観	自己の看護観発表　他者の看護観の聴講
１５	看護観	自己の看護観発表　他者の看護観の聴講

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ			担当教員		二階堂琢馬		単位数	2
対象学科	看護			学年	3	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	1	実務経験内容							

□位置付け

高齢化や疾病構造の変化、医療技術の発達に伴い、高齢者だけでなく看護を必要としているさまざまな世代・疾病を抱える人がいる中、病院から地域、在宅へと連続した看護の必要性が高まっている。地域・在宅で療養する人々とその家族を理解するため、地域・在宅看護論実習Ⅱとして専門分野・臨地実習に位置付ける。

□授業の目的

地域や暮らしに関心を向け、地域で生活する人々とその家族の健康を持続的に支援する看護を学ぶ。

□授業の到達目標

1）地域で生活する人々の健康の保持・疾病の予防のための活動を理解できる。
2）地域で生活する人々とその家族の健康上の問題を理解し、解決に向けての援助方法を知る。
3）地域の特徴を理解し、そこで生活する人々の健康上の問題解決に関わる多様な職種の役割、機能を理解できる。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		○
試験等	提出物	○
	レポート	○
	随時試験	
	終講試験	
	平常の授業状況（実習態度）	○
	その他（実践）	○
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習時間の４/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終実習レポート提出が決められた時間に提出できない場合は減点となります。
実習目標に沿い○の項目を総合的に評価します。

□学生へのメッセージ

退院後も外来通院や指導などを通じて、生活の継続を支援するといった視点が全ての看護職に求められています。病棟実習と切り離すことなく学習を深めて行って下さい。

□テキスト

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	実習準備	オリエンテーション
2	介護老人保健施設の実習	介護予防サービスの目的・支援内容が理解できる。
3	↓	通所サービスを利用する対象の思いを知る。
4	↓	多職種との実践的なかかわりを通し看護師の役割を知る。
5	訪問看護実習	在宅療養者及び家族の特徴を理解する。
6	↓	在宅療養者に対する援助内容、方法を知る。
7	↓	在宅看護における看護師の役割を理解する。
8	↓	社会資源の活用方法、多職種との連携の在り方を理解する。
9	訪問看護（学内実習）	思考過程の整理（在宅看護過程）
10	看護・小規模多機能施設実習	対象の健康や暮らしを知る。
11	↓	対象の健康や暮らしを支援するための機能を知る。
12	↓	対象の暮らしに関心を向け、支援システムの必要性が理解できる。
13	多機能施設（学内実習）	カンファレンスにて各施設での学びを共有する。
14	全体共通	専門職業人としての倫理的な態度を養う。

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ			担当教員		佐々木元子		単位数	2
対象学科	看護			学年	3	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	全期	学期	全期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として手術室 ICU に勤務。						

□位置付け

侵襲的治療を受ける成人・老年の看護の実際

□授業の目的

侵襲的治療を受ける対象の特徴を捉え、対象の変化に応じた看護実践ができる
(周術期看護の実際)

□授業の到達目標

1）侵襲的治療を受ける（とその家族）の特徴を総合的に理解できる
2）対象の状況に応じた看護実践ができる
3）専門職業人としての倫理的な態度を養うことができる

□成績評価の方法	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物・知識・技術	
	レポート	
	随時試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況（実習態度）	
	その他	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント
実習時間の４/5 以上出席が無ければ評価を受ける受けることができません。なお、最終実習記録提出が決められた時間に提出できない場合も、評価を受けられません。

□学生へのメッセージ
・周術期は対象の身体的・精神的変化がとても大きくなります。術前～術後の変化を捉え必要な看護実践ができるように学習をすすめましょう。

□テキスト
ナーシンググラフィカ成人看護学４　周術期看護　メディカ出版
系統看護学講座　別巻　臨床外科総論　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1		受け持ち患者の情報収集・分析　（手術前の看護の実際）
2		受け持ち患者の情報収集・分析　（手術前の看護の実際）
3		受け持ち患者の情報収集・分析　（手術当日の看護の実際）
4		対象への看護の実際（術後１日目の看護の実際）
5		対象への看護の実施（術後２日目の看護の実際）
6		対象への看護の実施（術後３日目の看護の実際）
7		対象への看護の実施（術後４日目の看護の実際）
8		対象への看護の実施（術後５日目の看護の実際）・退院に向けての看護）
9		対象への看護の実施（術後の回復　・退院に向けての看護）
10		対象への看護の実施（術後の回復　・退院に向けての看護）
11		実習のまとめ　　テーマカンファレンス
12		実習のまとめ
13		
14		
15		

科目名	成人老年看護学実習Ⅳ			担当教員		岡野全子		単位数	2
対象学科	看護			学年	3	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	全期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として 10 年以上勤務。臨床経験を基に看護実践能力を育む。						

□位置付け

成人期を迎えた人々らは健康をよりよい状態で管理しようとするが時として望ましい生活習慣から逸脱し健康的な生活を送れなくなることがある。そういった状況にある成人期そしてそれ以降の老年期にある人の自律・自立を尊重しながら、健康を取り戻すための支援と望ましい生活習慣への支援をする看護を理解・実践する。

□授業の目的

健康障害をもつ人が自己管理能力を高め、その人らしい生活を再構築する支援の看護を学ぶ。

□授業の到達目標

1．健康障害をもった対象の特徴が理解できる
　1）対象の健康障害の経過、健康レベルについて説明できる
　2）対象の健康障害が日常生活行動に与える影響について説明できる
　3）対象の健康障害が社会的役割に与える影響が説明できる
2．対象の状況に応じた看護が実践できる
　1）生理的ニーズの充足にむけて日常生活援助が実施できる
　2）対象の自立を支援し社会復帰に向けて自己決定を支える援助が実施できる
　3）対象の健康レベルに応じて健康問題を明確化し、看護計画の立案，実施，評価できる
3．専門職業人としての倫理的態度を養うことができる。
　1）対象と家族の意思決定を支援する重要性を説明できる。
　2）保健医療福祉チームの一員として自覚のある行動がとれる。
　3）学習者としての自覚と責任のある行動がとれる。

□成績評価の方法

評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	
	作文	－
	随時試験	
	終講試験	
	平常の授業状況（実習態度）	20
	その他（　　）	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

・実習時間の 4/5 以上出席しなければ評価を受けることができません。なお、最終提出物が決められた刻限に提出できない場合も評価を受けられません。

□学生へのメッセージ

・何らかの健康障害をもつ人や慢性疾患を持つ人が、その人らしい生活を再構築していくために必要な支援を行う看護です。対象の価値観を尊重し、より生活に密着した看護の実践を学びましょう。

□テキスト

・ナーシンググラフィカ　成人看護学 2　健康危機状況/セルフケアの再獲得　メディカ出版
・ナーシンググラフィカ　成人看護学 3　セルフマネジメント　メディカ出版

□参考図書・資料・参考ホームページ

・各関連授業資料

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	成人老年看護学実習Ⅳ	実習オリエンテーション
2	成人老年看護学実習Ⅳ	病棟オリエンテーション, 情報収集,
3	成人老年看護学実習Ⅳ	受け持ち患者の看護実践, 看護計画の立案
4	成人老年看護学実習Ⅳ	受け持ち患者への看護の実践
5	成人老年看護学実習Ⅳ	受け持ち患者への看護の実践・情報共有カンファレンス
6	成人老年看護学実習Ⅳ	受け持ち患者への看護の実践
7	成人老年看護学実習Ⅳ	受け持ち患者への看護の実践
8	成人老年看護学実習Ⅳ	受け持ち患者への看護の実践
9	成人老年看護学実習Ⅳ	振り返り面接　カンファレンス準備
10	成人老年看護学実習Ⅳ	テーマカンファレンス

科目名	成人・老年看護学実習Ⅴ			担当教員		岡本隆行　他		単位数	2
対象学科	看護			学年	3	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前・後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として５年以上勤務。高齢者への看護経験をもとに、高齢者の特徴を中心とした学びを支援する。						

□位置付け

成人・老年看護学実習Ⅰを既修とし、健康障害を持つ高齢者への看護を学修する位置づけである。
高齢者の健康障害は、成人と比較して非定型的で複数の疾患を独立的かつ併存的に抱える傾向が強い。健康課題が複雑化・長期化しやすい特徴から、些細な健康障害が高齢者の ADL に及ぼす影響、家族等への影響も大きい。高齢者の加齢現象の把握と疾病の理解を深め、個々の高齢者の健康レベルに見合う成果を見定めた看護を学修する。

□授業の目的

健康障害を持つ高齢者の特徴を理解し、対象に応じた看護を実践する。

□授業の到達目標

１）健康障害を持つ高齢者の特徴を理解できる
２）健康障害を持つ高齢者の対象に応じた看護を実践できる
３）専門職業人として倫理的な態度を養える

□成績評価の方法　評価項目		割合
出席状況		－
試験等	提出物	80
	レポート	－
	随時試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況（実習態度）	20
	その他	－
合　　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習時間の 4/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終提出物が決められた時間に提出できない場合も、評価を受けられません。
詳細は別途、実習要項を参照ください。

□学生へのメッセージ

健康障害を持つ高齢者をはじめとした対象を軸とする視点がブレずに学修できるよう、実習目標は繰返し確認して実習目標を達成できるように臨みましょう。

□テキスト

『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』医学書院

□参考図書・資料・参考ホームページ

実習場所に関するテキスト

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
	成人・老年看護学実習Ⅴ （13 日間）	オリエンテーション（実習前に実施する）
		病院実習（９日間、臨地実習） ・病棟オリエンテーション ・高齢患者の情報収集、特徴の理解、コミュニケーション （既往・現病歴、治療、動作、入院生活とその思い、退院後の生活、多職種連携　等） ・高齢患者への看護の実際
		学内実習（４日間） ・思考の整理、統合 ・計画立案、修正 ・テーマカンファランス ・振返り面接
	↓	※詳細は、別途配布の実習要項を参照ください。

科目名	小児看護学実習			担当教員		保井　理子		単位数	2
対象学科	看護			学年	３年	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	全期	学期	全期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	小児病棟・NICU（５年）・特別支援学校の医療的ケア（２年）の看護から子どもと家族への看護実践能力と技術を教授する。						

□位置付け

小児看護学は、発達段階における子どもの特徴を理解し、さまざまな健康状態における子どもと養護者・家族に対する援助を理解する必要がある。実習では子どもに必要な年齢相応の支援の在り方と子どもの健康障害の特徴や看護について学習する。また、子どもや家族および子どもを取り巻く環境を通し自己の子ども観や小児看護の役割について理解するための科目。

□授業の目的

子どもの特徴と家族を理解し、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。

□授業の到達目標

１．子どもの特徴と家族が理解できる
　１）子どもの成長・発達における身体的・精神的・社会的特徴がわかる
　２）子どもの成長・発達における日常生活の特徴がわかる
　３）子どもの健やかな成長・発達を促す安全管理がわかる
　４）子どもの成長・発達や健康に対する家族の想いがわる
　５）子どもと家族を支える保健・医療・福祉・教育の多職種連携がわかる
２．子どもの成長・発達と健康状態に応じた援助ができる
　１）子どもの成長・発達に応じた日常生活への援助ができる
　２）治療が必要な子どもの健康状態に応じた援助がわかる
　３）子どもの健康状態に応じた支援がわかる
　４）子どもの権利を守る関わりがとれる
　５）子どもの最善の利益を保証する看護師の役割が理解できる
３．専門職業人として倫理的な態度を養える
　１）対象と家族の意思決定を支援する重要性を述べることができる
　２）対象を尊重したコミュニケーションがとれる
　３）保健医療福祉チームの一員としての自覚のある行動がとれる
　４）学習者としての自覚と責任のある行動がとれる
　５）自己の行動の振り返りができ課題を見出すことができる

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		－
試験等	提出物	○
	レポート	－
	随時試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況（実習態度）	○
	その他	○
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習時間の４/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終実習レポート提出が決められた時間に提出できない場合は、評価を受けられません。

□学生へのメッセージ

保育園実習、障害児保育園実習、特別支援学校実習、学内実習で子どもや保護者への支援を通して、実習目標が達成できるように日々の気づきや学びを大切にして学んでください。

□テキスト

・小児の発達と看護　小児看護学①（メディカ出版）
・小児看護技術　小児看護学②（メディカ出版）
・小児の疾患と看護　小児看護学③（メディカ出版）

□参考図書・資料・参考ホームページ

・写真でわかる小児看護技術（インターメディカ）
・根拠と事故防止から見た小児看護技術（医学書院）
・発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図（医学書院）

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	実習オリエンテーション	保育所・障害児保育所・特別支援学校・学内実習の説明
2・3	保育園実習	乳幼児の保育の実際を学ぶ
4・5	障害児保育園実習	医療的ケアが必要な乳幼児の保育と看護の実際を学ぶ
6・7	特別支援学校実習	医療的ケアが必要な児童・生徒の教育と看護の実際を学ぶ
8・9	学内実習	病児の発達段階・病態・治療・看護
10・11	学内実習	小児看護実習のまとめ　カンファレンス

・グループを小グループに分け保育園実習、障害児保育所実習、特別支援学校実習、学内実習を行う
　最終日は全員で小児看護実習のまとめを行う

科目名	母性看護学実習			担当教員				単位数	2
対象学科	看護			学年	3	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容							

□位置付け
専門分野　母性看護学臨地実習に位置づける。生命を未来に存続させるという種族保存（生殖）機能が遂行できるよう、健全な母性の育成に関わる援助活動を学ぶ科目。

□授業の目的
周産期にある対象（妊婦、産婦、褥婦、新生児）を理解し、母子とその家族が健康に過ごすための看護が実践できる基礎的能力を養う。

□授業の到達目標
１．周産期にある対象の特徴が理解できる。
　１）妊婦、産婦、褥婦の身体的、心理・社会的変化が理解できる。
　２）新生児の正常な経過が理解できる。
２．周産期にある対象に応じた看護を理解できる。
　１）妊娠期を健康に過ごし、家族を含め新たな役割に適応するための支援を学ぶ。
　２）分娩進行に応じた看護を学ぶ。
　３）褥婦の退行性変化、進行性変化が順調に進むための援助や家族関係確立のための援助ができる。
　４）新生児の胎外生活適応への援助ができる。
　５）新しい家族の生活を継続して支援するための地域社会、関連機関との連携の必要性が理解できる。
３．専門職業人としての倫理的な態度を養える。
　１）対象と家族の意思決定を支援する重要性を説明できる。
　２）対象を尊重したコミュニケーションが取れる。
　３）保健医療福祉チームの一員として自覚のある行動がとれる。
　４）学習者としての自覚と責任のある行動がとれる。
　５）自己の行動の振り返りができる。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		―
試験等	提出物	○
	レポート	―
	随時試験	-
	終講試験	-
	平常の授業状況（態度）	○
	その他（実践）	―
合　計		100%

□成績評価に関するコメント
・実習時間の４/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終実習レポート提出が決められた時間に提出できない場合は減点となります。
実習目標に沿い○の項目を総合的に評価します。

□学生へのメッセージ
周産期にある人は身体、心理、社会面において大きな変化をとげる時期です。その変化に適応していく過程を一緒に見守りましょう。生命の誕生、さらに新しい家族のスタートの場に携われる喜びを感じながら、基本的な母性看護を学びましょう。

□テキスト
・系統看護学講座　「母性看護学概論」「母性看護学各論」

□参考図書・資料・参考ホームページ
・授業プリント

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	母性看護学実習（1 日間）	事前オリエンテーション
2		学内実習　技術確認
3		学内実習　技術確認　病院実習に向けて準備
4		病棟・外来実習（妊婦・褥婦・新生児の看護）
5		病棟・外来実習
6		病棟・外来実習
7		病棟・外来実習
8		病棟・外来実習
9		病棟・外来実習
10		学内実習
11		学内実習　　カンファレンス

・グループを半分に分け外来実習、病棟実習を行う。

科目名	統合実習			担当教員		岡野全子		単位数	2
対象学科	看護			学年	3	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	12 年間の内科・外科での看護実務経験をもとに臨床現場に必要な看護実践能力を教育する。						

□位置付け

複数患者を受け持ち、管理についての実習、夜間実習などを体験し、連携、協働活動への理解を深め、卒業後臨床現場にスムーズに適応する看護実践能力を養う。今後の看護活動上の自己の課題を明らかにするための実習。

□授業の目的

看護チームの一員の体験、夜間実習、学生チームでの複数患者の受け持ち看護を通して、知識・技術・態度を統合し看護実践力を身につける。

□授業の到達目標

（1）病院・病棟の看護管理システムと管理の実際を知り、看護部、各病棟での「病棟・チーム管理」「メンバーの役割（夜間も含む）」を記述できる。
（2）複数患者の看護を、チームで協力し実践できる。
　1）学生チームで受け持ち患者情報を共有し、複数の受け持ち患者の健康状態、看護問題を抽出できる。
　2）学生チームで協力しながら、受け持ち患者の看護計画を根拠に基づいて立案できる。
　3）複数患者の健康状態に合わせた看護援助が、優先順位や時間管理を踏まえてチームで協力しながら安全に実施できる。
（3）その人らしい生き方について考え、その生き方を支えるための関りができる。
（4）対象の問題解決に向けて、医療チームの協働のあり方を知る。
（5）看護専門職としての自己の課題を明確にできる。

□成績評価の方法

	評価項目	割合
出席状況		
試験等	提出物	90
	レポート	
	随時試験	－
	終講試験	－
	平常の授業状況（実習態度）	10
	その他	
合　計		100%

□成績評価に関するコメント

実習時間の 4/5 以上出席が無ければ評価を受けることができません。なお、最終提出物が決められた時間に提出できない場合も、評価を受けられません。

□学生へのメッセージ

数か月後に臨床の現場で看護を実践します。今までは、一人の対象への看護を学んできましたが、この実習では、組織の中で連携・協働しながら看護実践を行う体験をし、今後の自己の課題を明確にできるように取り組んでください。

□テキスト

看護学概論他

□参考図書・資料・参考ホームページ

科目名「臨床看護の実践」の資料、提出物

□授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	管理実習	看護師長の管理について見学
2	リーダー実習	各看護チームのリーダーの業務内容見学
3	メンバー実習	看護実践のシャドーイング
4	複数患者受け持ち実習	受け持ち患者の情報収集
5		受け持ち患者のアセスメント
6		受け持ち患者の看護問題確認を学生チームで確認 学生チームで受け持っている患者の情報共有
7		学生チームで協力し、看護実践を行う
8		学生チームで協力し、看護実践を行う
9		学生チームで協力し、看護実践を行う
10		学生チームで協力し、看護実践を行う
11	夜間実習	夜間の受け持ち患者の状況の把握、看護活動の見学
12	まとめのカンファレンス	実習のまとめ、自己の課題の明確化

2025　SYLLABUS　講義要項

発行日　2025年４月１日
発行人　川 口　拓 也
発行所　学校法人　川口学園
早稲田速記医療福祉専門学校
〒171-8543 東京都豊島区高田3-11-17